

投資信託に関するアンケート調査

報告書

2016年12月



一般社団法人
投資信託協会

<目 次>

1. 調査計画の概要	3
2. 調査結果の要約	6
3. 回答者のプロフィール	13
(1)性別・年代〔Q28〕〔Q29〕	14
(2)職業〔Q30〕	16
(3)金融資産の保有経験〔Q1〕	17
(4)投資信託の保有状況〔Q2〕	18
(5)世帯年収〔Q31①〕	19
(6)個人年収〔Q31②〕	20
4. 投資信託保有状況（現在保有層）	21
(1)投資信託の保有種類〔Q5〕	22
(2)投資信託の購入額〔Q6〕	23
(3)現在保有している投資信託の本数〔Q3〕	24
(4)投資信託商品の直近購入時期〔Q4〕	25
(5)投資信託の積立投資の利用状況〔Q15〕	26
(6)毎月分配型投資信託の保有状況〔Q19〕	27
(7)トータルリターン通知制度の認知状況〔Q24〕	28
5. 投資信託購入状況（現在保有層・保有経験層）	29
(1)投資信託購入の際の重視点／今後の重視点〔Q7①②〕	30
(2)分配金の特徴認知状況〔Q9〕	32
(3)償還・売却資金の流出先〔Q10〕	33
(4)投資信託の優れていると感じる点／特に魅力を感じる点〔Q11①②〕	34
(5)投資信託で不満を感じる点／特に不満を感じる点〔Q12①②〕	36

<目 次>

6. 投資信託保有未経験者の状況	38
(1)投資信託の非購入理由〔Q26〕	39
(2)投資信託購入検討のきっかけ〔Q27〕	40
7. 投資信託全般に関する状況（全体）	41
(1)投資信託の商品特徴認知状況〔Q8〕	42
(2)毎月分配型投資信託への魅力有無〔Q20〕	43
(3)毎月分配型投資信託商品の魅力点／非魅力点〔Q21〕〔Q22〕	44
(4)毎月分配型投資信託の分配金の使途〔Q23〕	46
(5)ドル・コスト平均法／積立投資プランの認知状況〔Q16〕〔Q17〕〔Q18〕	47
(6)投資信託運用会社への考え／購入時の運用会社の重視点〔Q13〕〔Q14〕	50
(7)投資信託の手数料特徴認知状況〔Q25〕	52

* 末尾添付資料 : 調査票

1. 調査計画の概要



1. 調査計画の概要

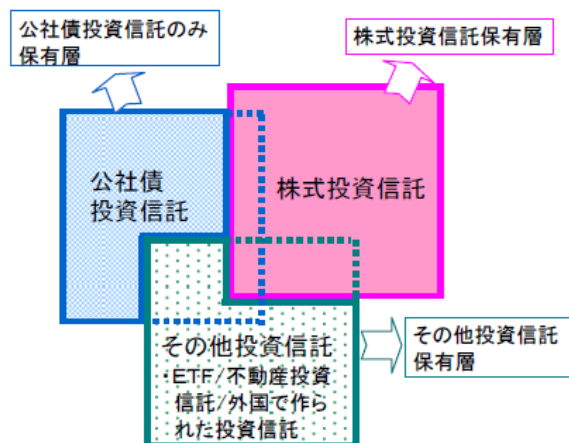
調査の目的	全国の20歳～79歳の男女個人を対象に、投資信託の保有状況や特徴認知、満足度、積立投資の認知などを把握すると同時に、投資信託保有未経験層に対しては、非購入理由や購入検討のきっかけを確認することで、「貯蓄から資産形成へ」の流れを促進するための課題を探り、今後の投資信託の利用拡大及び啓発普及活動に役立つ資料とすること。																																																																																			
調査手法	インターネット調査（抽出フレーム：インターネットモニター） ※ インターネット調査のモニターは、一般的に情報感度が高い事が確認されており、金融商品（投資信託）においては保有率や制度認知が郵送調査モニターなどに比べて高めに出る傾向にあります。																																																																																			
調査地域	全国（首都圏、阪神圏、その他地域の3ブロック）																																																																																			
調査対象	20～79歳の男女																																																																																			
サンプル数	<p>総計20,000サンプル</p> <p>* 性・年代・エリアで割付実施（割付は平成27年1月1日現在の住民基本台帳に基づく）。</p> <p>* 職業条件による除外は実施していない。</p> <p><性・年代・エリアごとの回収数詳細></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>20-29歳</th> <th>30-39歳</th> <th>40-49歳</th> <th>50-59歳</th> <th>60-69歳</th> <th>70-79歳</th> <th>20-79歳計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">男性</td> <td>首都圏</td> <td>431</td> <td>556</td> <td>634</td> <td>458</td> <td>479</td> <td>361</td> <td>2919</td> </tr> <tr> <td>阪神圏</td> <td>201</td> <td>241</td> <td>290</td> <td>220</td> <td>259</td> <td>200</td> <td>1411</td> </tr> <tr> <td>その他地域</td> <td>774</td> <td>954</td> <td>1051</td> <td>940</td> <td>1101</td> <td>767</td> <td>5587</td> </tr> <tr> <td>男性計</td> <td>1406</td> <td>1751</td> <td>1975</td> <td>1618</td> <td>1839</td> <td>1328</td> <td>9917</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">女性</td> <td>首都圏</td> <td>406</td> <td>521</td> <td>592</td> <td>431</td> <td>493</td> <td>418</td> <td>2861</td> </tr> <tr> <td>阪神圏</td> <td>200</td> <td>246</td> <td>295</td> <td>227</td> <td>281</td> <td>240</td> <td>1489</td> </tr> <tr> <td>その他地域</td> <td>735</td> <td>921</td> <td>1036</td> <td>954</td> <td>1151</td> <td>936</td> <td>5733</td> </tr> <tr> <td>女性計</td> <td>1341</td> <td>1688</td> <td>1923</td> <td>1612</td> <td>1925</td> <td>1594</td> <td>10083</td> </tr> <tr> <td>TOTAL</td> <td>2747</td> <td>3439</td> <td>3898</td> <td>3230</td> <td>3764</td> <td>2922</td> <td>20000</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ エリアの定義とエリア計での回収数は以下の通り。</p> <p>首都圏： 東京、神奈川、埼玉、千葉／計5780サンプル 阪神圏： 大阪、京都、兵庫、奈良／計2900サンプル その他地域： 上記以外の都道府県／計11320サンプル</p>			20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70-79歳	20-79歳計	男性	首都圏	431	556	634	458	479	361	2919	阪神圏	201	241	290	220	259	200	1411	その他地域	774	954	1051	940	1101	767	5587	男性計	1406	1751	1975	1618	1839	1328	9917	女性	首都圏	406	521	592	431	493	418	2861	阪神圏	200	246	295	227	281	240	1489	その他地域	735	921	1036	954	1151	936	5733	女性計	1341	1688	1923	1612	1925	1594	10083	TOTAL	2747	3439	3898	3230	3764	2922	20000
		20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70-79歳	20-79歳計																																																																												
男性	首都圏	431	556	634	458	479	361	2919																																																																												
	阪神圏	201	241	290	220	259	200	1411																																																																												
	その他地域	774	954	1051	940	1101	767	5587																																																																												
	男性計	1406	1751	1975	1618	1839	1328	9917																																																																												
女性	首都圏	406	521	592	431	493	418	2861																																																																												
	阪神圏	200	246	295	227	281	240	1489																																																																												
	その他地域	735	921	1036	954	1151	936	5733																																																																												
	女性計	1341	1688	1923	1612	1925	1594	10083																																																																												
TOTAL	2747	3439	3898	3230	3764	2922	20000																																																																													
調査時期	2016年9月16日（金）～9月30日（金）																																																																																			
調査主体	一般社団法人 投資信託協会																																																																																			
調査実施機関	株式会社インテージ																																																																																			

1. 調査計画の概要

<分析軸の内容>

分析軸	カテゴリー	備考
基本軸 1	性別	1 男性 2 女性 Q28の調査結果から作成
	年代別	1 20代 2 30代 3 40代 4 50代 5 60代 6 70代 Q29の調査結果から作成
	世帯年収別	1 100万円未満 2 ~300万円 3 ~500万円 4 ~1000万円 5 ~1000万円以上 Q31②の調査結果から作成
基本軸 2	投資信託 保有状況別	1 現在保有層 Q2で投資信託を「1.現在保有している」回答者 2 保有経験層（現在非保有） Q2で投資信託を「2.以前保有していたが、現在は保有していない」回答者 3 保有未経験層（金融資産保有経験有） Q2で投資信託を「3.今まで保有したことはない」且つ Q1で金融資産を「1.保有したことがある」回答者 4 保有未経験層（金融資産保有経験無） Q2で投資信託を「3.今まで保有したことはない」且つ Q1で金融資産を「2.保有したことはない」回答者
	投資信託 現在保有種類別	1 株式投資信託保有層 Q5現在保有投資信託商品で「2.株式投資信託」 の回答者 2 公社債投資信託のみ保有層 Q5現在保有投資信託商品で「1.公社債投資信託」 のみの回答者 3 その他投資信託保有層 Q5現在保有投資信託商品でいずれかの商品回答者。 ※ 但し、「2.株式投資信託」の回答者および 「1.公社債投資信託」のみの回答者を除く。

* 基本軸2の「投資信託現在保有種類別」では、「株式投資信託保有層」を優先して分類し、次に「公社債のみ保有層」を分類、最後に上記以外の回答者を「その他投資信託保有層」として分類した。（右図参照）



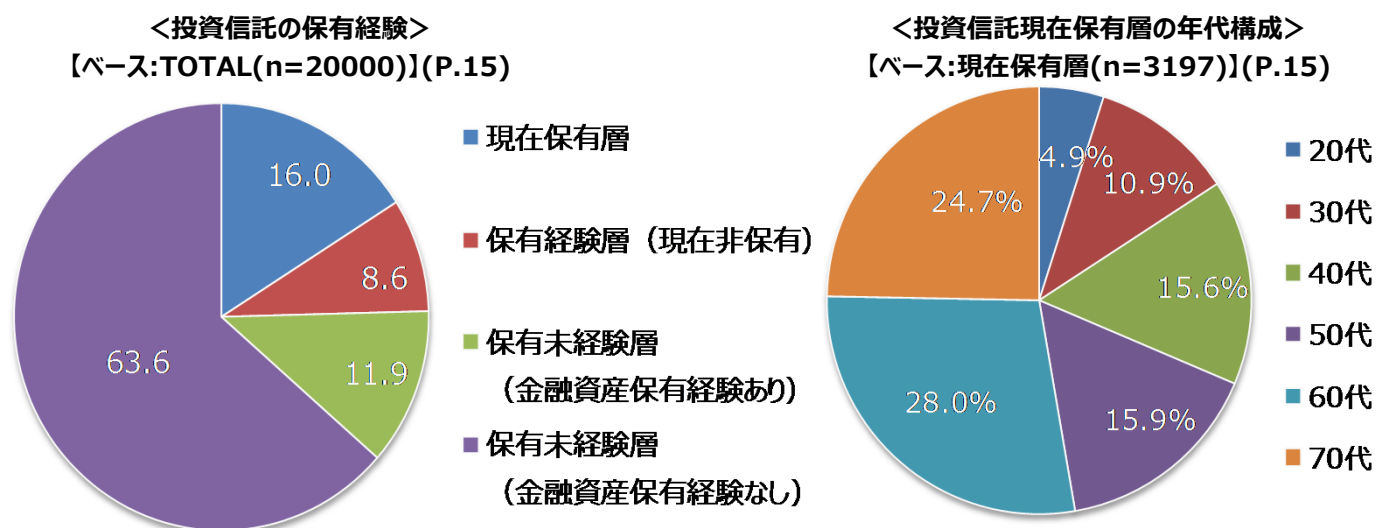
2. 調査結果の要約



2. 調査結果の要約

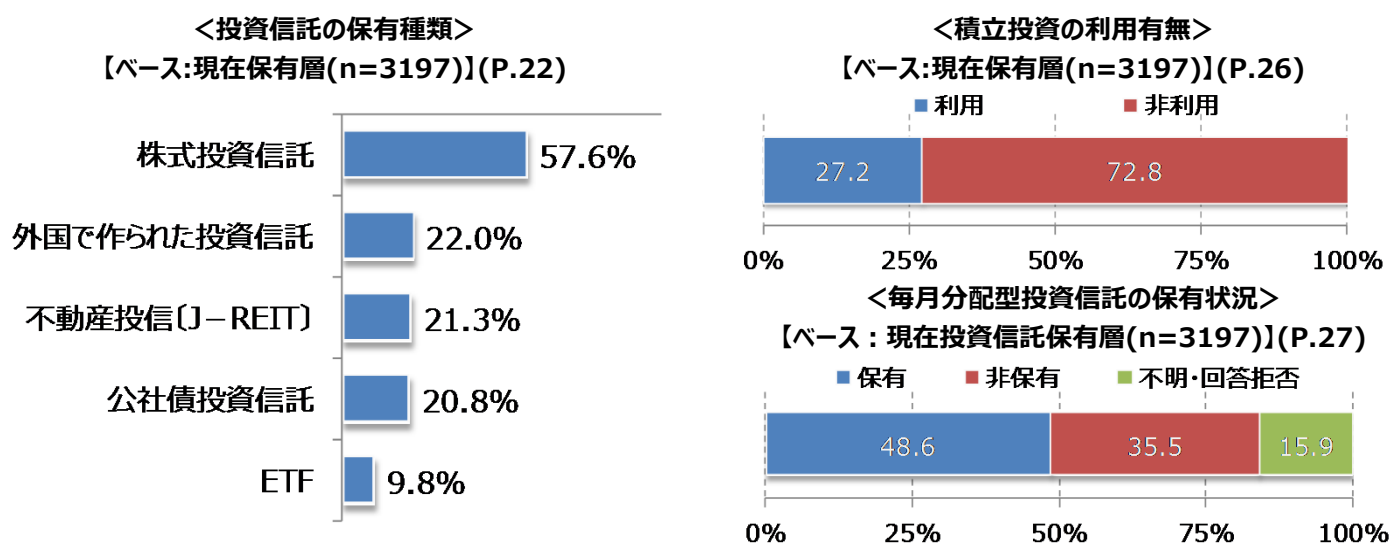
投資信託の保有経験／投資信託現在保有層の「保有種類、積立投資利用状況、毎月分配型投資信託の保有状況」

■ 投資信託の現在保有率は16%に留まり、現在保有層は60代以上が約半数と高齢層が中心。



■ 現在保有層が保有している投信の種類は「株式投信」が最多、保有種類数は平均で「1.6種類」となる。また積立投資の利用は30%弱に留まり、毎月分配型商品は約半数が保有。

- ・ 20～30代ではETF保有率がやや高い(20代:17.3%、30代:12.4%)。また積立投資は若年層ほど利用が多く、20代で半数強に及ぶ。反対に「毎月分配型投信」の保有は高齢層ほど多く、60～70代では半数以上保有している。
- ・ 世帯年収別では、年収が高い世帯ほど「株式投信」保有率、「積立投資」利用率が高くなる。また「分配型投信」は年収100～500万世帯での保有が半数を超え高い。



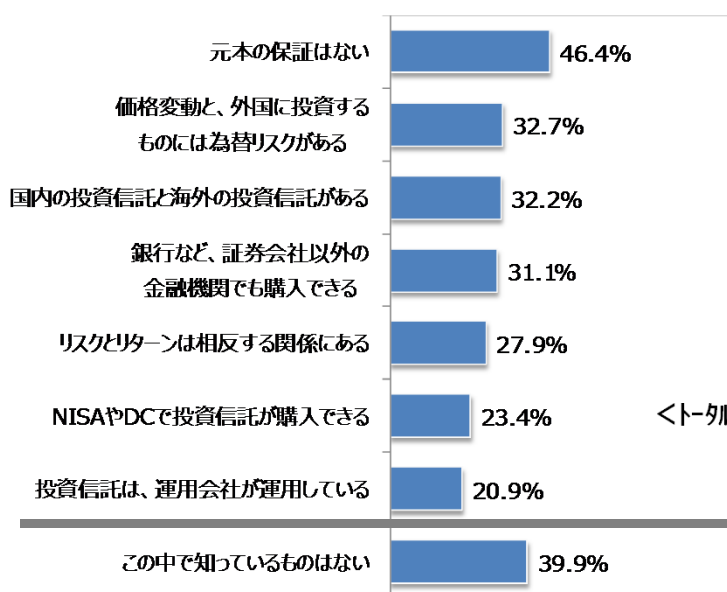
2. 調査結果の要約

投資信託の商品および手数料特徴、トータルリターン通知制度の認知状況 ／他の金融商品に比べて投資信託商品の「優れている点、不満点」

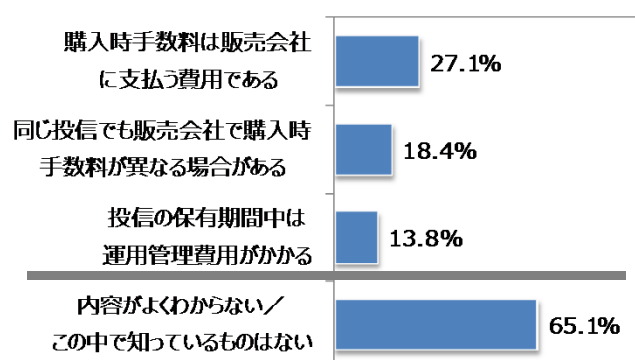
■ 投信商品の特征では「元本保証がない」「価格変動や為替リスクがある」などリスク関連の認知が高い。また手数料の特征は「不明・非認知」が65%と、全体的に認知は低い。トータルリターン通知制度の認知は現保有層の40%強に留まる。

- ・ 商品特徴、手数料特徴、トータルリターン制度のいずれも、認知率は若年層や世帯年収の低い層ほど低くなる傾向。

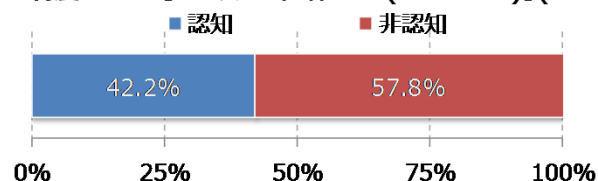
＜投信の商品特徴認知＞【ベース:TOTAL(n=20000)】
(P.42) ※ 認知率20%以上の特徴を抽出



＜投信の手数料特徴認知＞【ベース:TOTAL(n=20000)】
(P.52) ※ 認知率10%以上の特徴を抽出



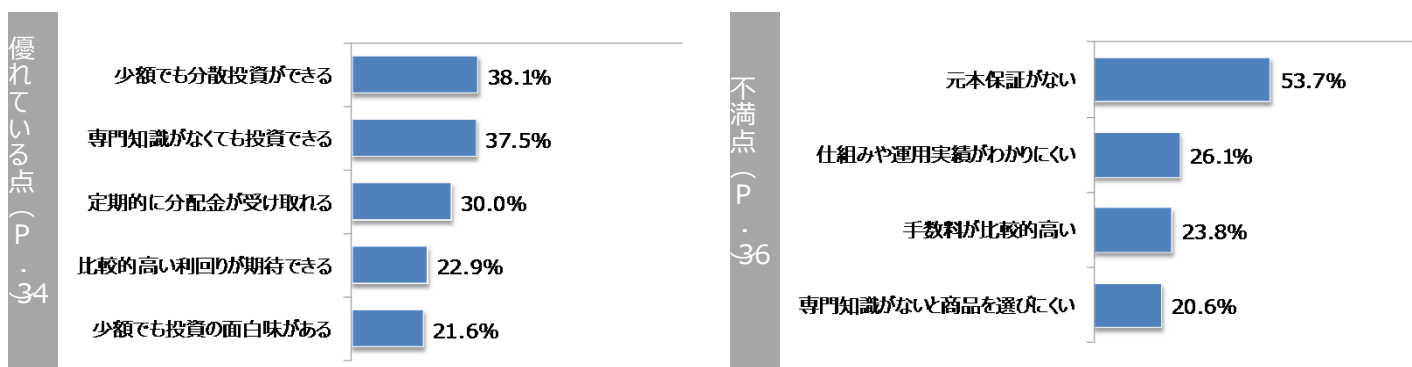
＜トータルリターン通知制度認知＞【ベース:現在保有層(n=3197)】(P.28)



■ 投資信託は、「専門知識がなくても少額から分散投資でき、投資の面白みを味わえること」「定期的な分配金の受取」「利回りに期待できる」ことにメリットを感じる一方で、「元本保証がない」「仕組み・実績・商品のわかりくさ」「手数料の高さ」に不満を感じている。

- ・ 若年層ほど「少額で分散投資できること」「少額でも投資の面白味があること」「積立投資できること」「手数料の安さ」を評価するが「リターンの低さ」への不満が強い。一方で高齢層は「分配金の受取」を評価するが「元本保証がないこと」「仕組み・実績のわかりくさ」「手数料の高さ」への不満が強い。

＜他の金融商品と比べ、投信の優れている点／不満点＞【ベース:現在保有層・保有経験層(n=4914)】 ※ 20%以上を抽出



2. 調査結果の要約

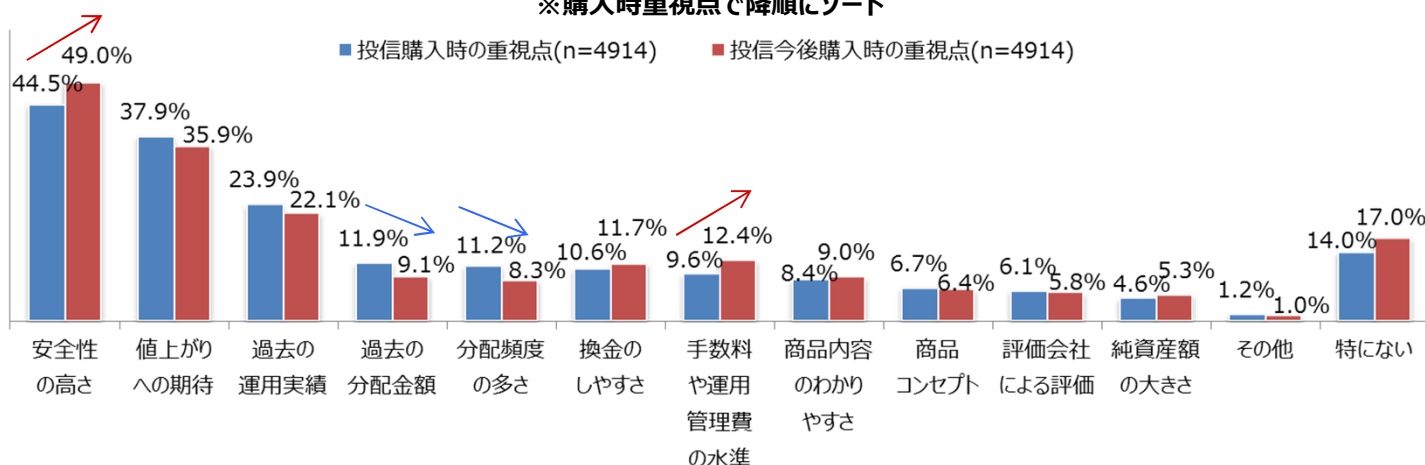
投資信託の購入時重視点、今後購入時重視点／ 投資信託会社への考え／投資信託購入の際の運用会社重視点

■ 投資信託の購入時重視点は、これまでも今後も「安全性の高さ」が最も高く、「値上がりへの期待」「過去運用実績」が続く。また今後では現在に比べ、僅かだが「安全性の高さ、手数料」が高く「過去分配金額」「分配頻度の多さ」が低いことから、より安全志向が強まり、分配金重視度が下がる可能性も考えられる。

- ・ 若年層ほど「過去運用実績」「手数料などの水準」「純資産額の大きさ」を購入時に重視し、高齢層ほど「安全性の高さ」「過去分配金額」「分配額の多さ」「換金しやすさ」を重視する傾向。また今後の「値上がり期待」重視度は30～40代で高い。

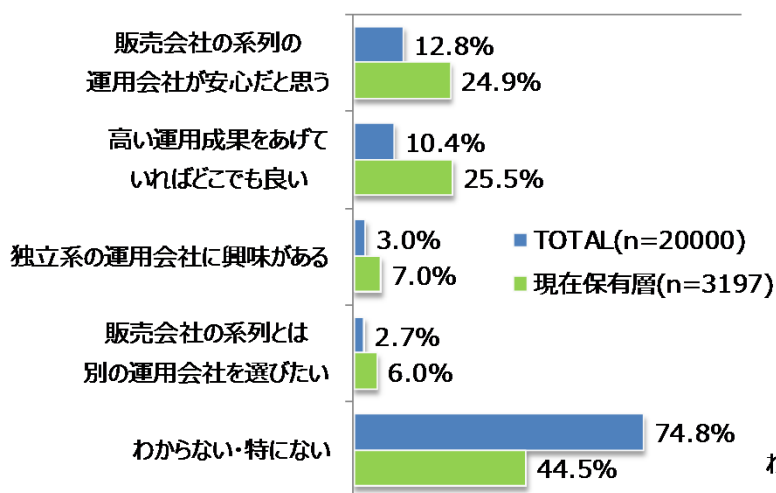
＜投信の購入時重視点／今後購入時重視点＞【n=現在保有層・保有経験層(n=4914)】(P.30/31)

※購入時重視点以降順にソート

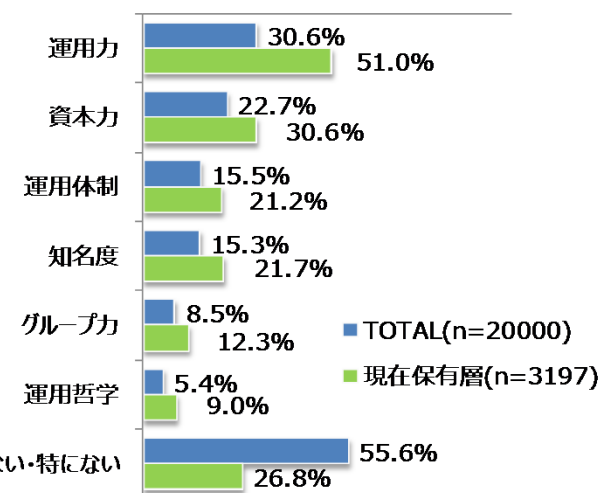


■ 投資信託の運用会社に対する考えは70%以上が「わからない・特にない」。現在保有層では、「販売会社系列が安心」「成果をあげていればどこでも」が高い。また投信の運用会社の選択にあたり最も重視されるのは、「運用力」。

＜投資信託運用会社に対する考え＞ (P.50)



＜投資信託購入の際の運用会社重視点＞ (P.51)

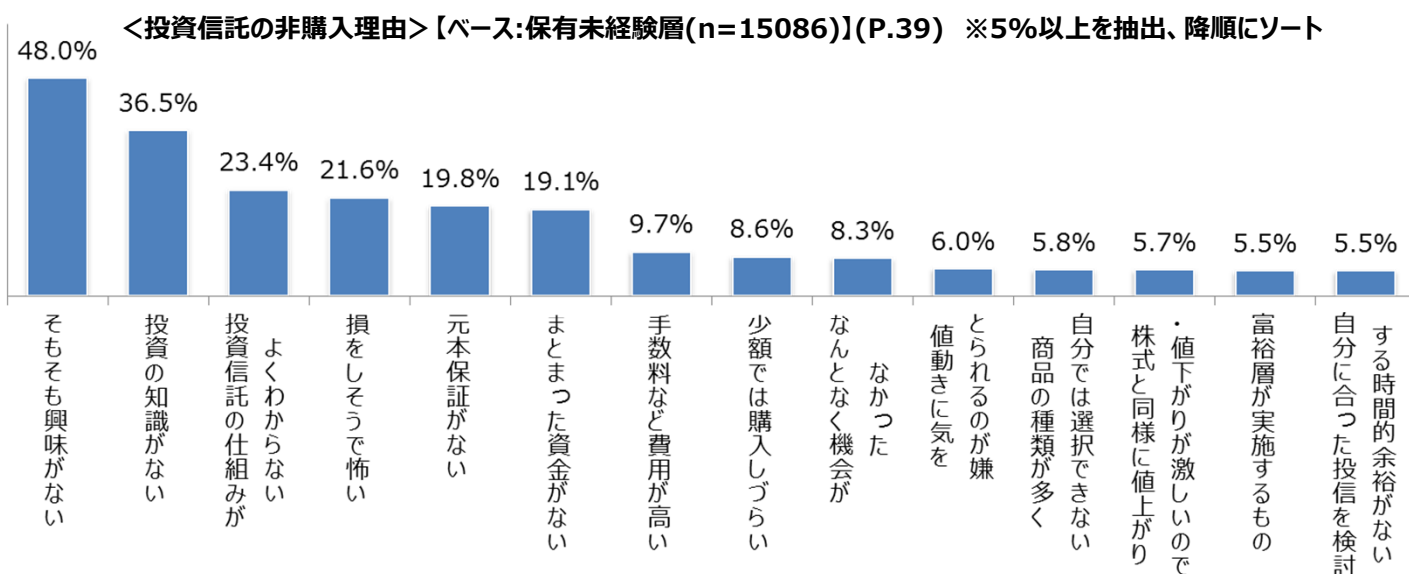


2. 調査結果の要約

投資信託保有未経験層の非購入理由／投資信託購入検討のきっかけ

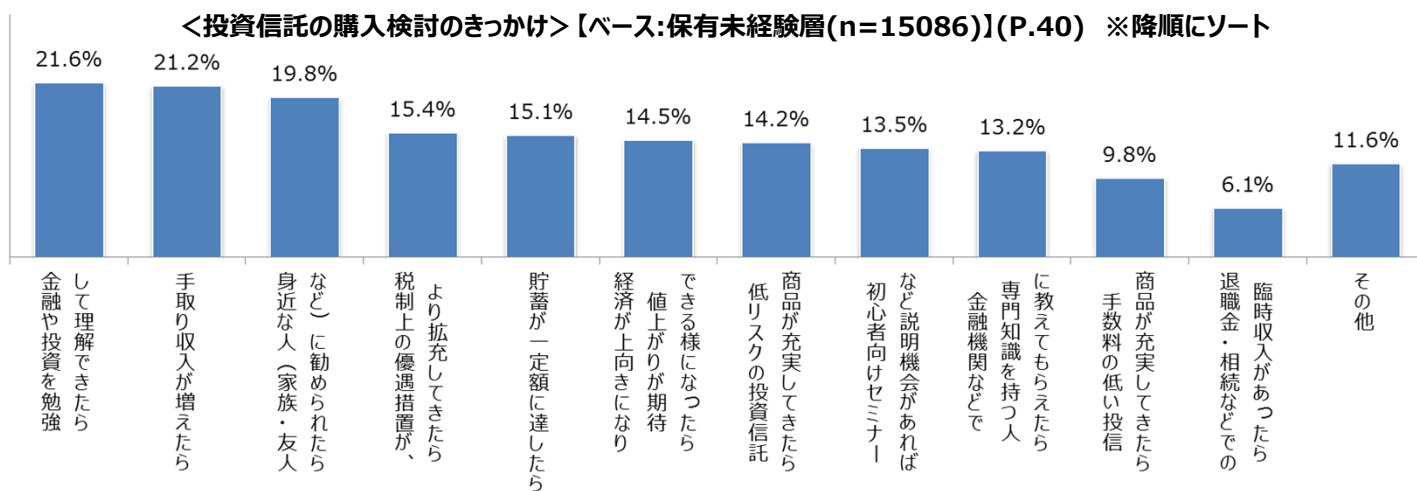
■ 投信の非購入理由は「興味の欠如」が最も多く、続いて「投資知識がないこと」「投信の仕組みがわからない」があがる。また「損をしそうで怖い」イメージが強い模様。

- ・ 30代で「興味がない」が最も低く、「投資知識ない」「仕組みが分からない」「損しそう」「投信の検討時間がない」「種類が多く選択できない」が最も高い。また世帯年収100～500万円の世帯では「まとまった資金がない」がやや高くなる。



■ 投信の購入のきっかけでは目立って高い項目はなく、「金融や投資を勉強して理解できたら」「収入が増えたら」と、外部要因よりも自身の状況変化が上位にあがる。

- ・ 他の年代に比べ30代では「収入増加」「貯蓄が一定額に達したら」「低リスク商品の充実」「初心者セミナーなどがあれば」「専門家に教えてもらえたら」が最も高い。また世帯年収100～500万円世帯では、「手取り収入が増えたら」がやや高い。

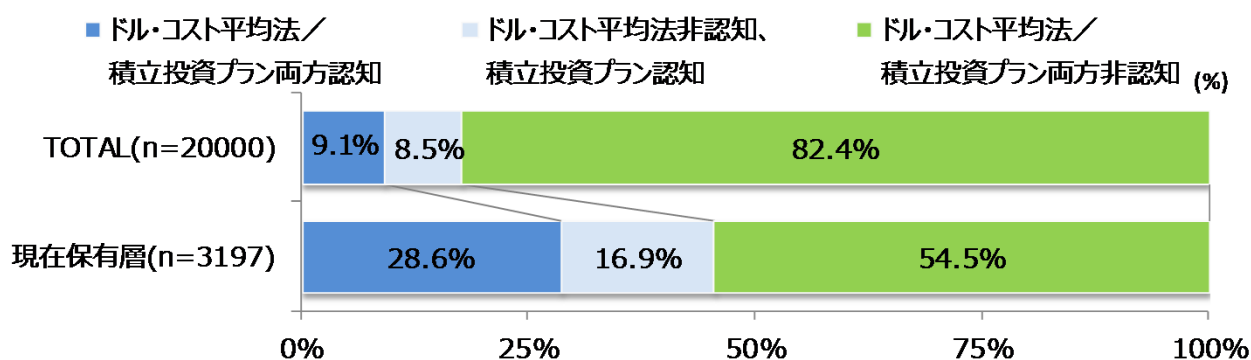


2. 調査結果の要約

「ドル・コスト平均法／積立投資プラン」の認知状況、特徴認知状況

- 「ドル・コスト平均法／積立投資プラン」の認知は低く、全体の80%強が非認知。現在保有層でも約半数が非認知となる。

＜ドル・コスト平均法／積立投資プランの認知状況＞(P.47)

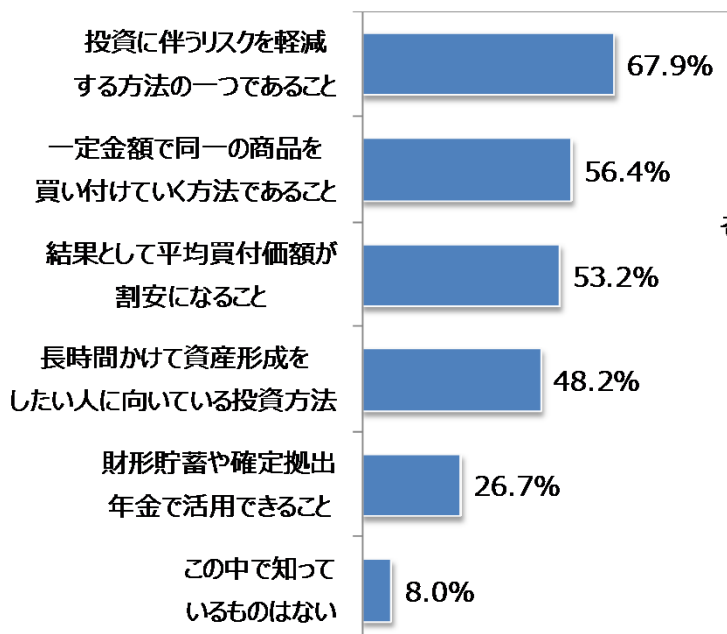


- 「財形貯蓄や確定拠出年金」で「ドル・コスト平均法」が活用可能な事はあまり知られていない様子。

- ・若年層ほど「ドル・コスト平均法」の「リスク軽減法の1つ」「長期資産形成向き」「財形貯蓄や確定拠出年金で活用可能」といった特徴認知が高い。また世帯年収が低い層ほど、「ドル・コスト法」「積立投資プラン」のどの特徴も認知が低くなる。

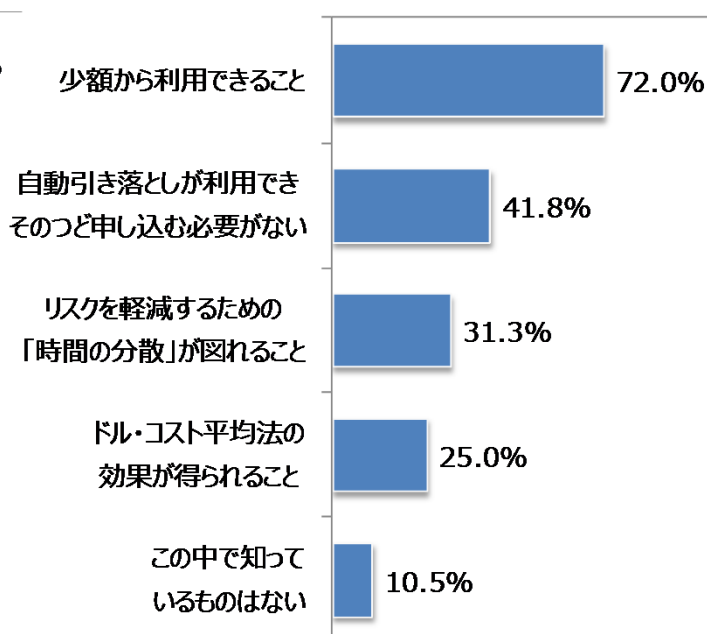
＜ドル・コスト平均法の特徴認知＞

【ベース:ドル・コスト法／積立投資プラン両方認知者(n=1822)](P.48)



＜積立投資プランの特徴認知＞

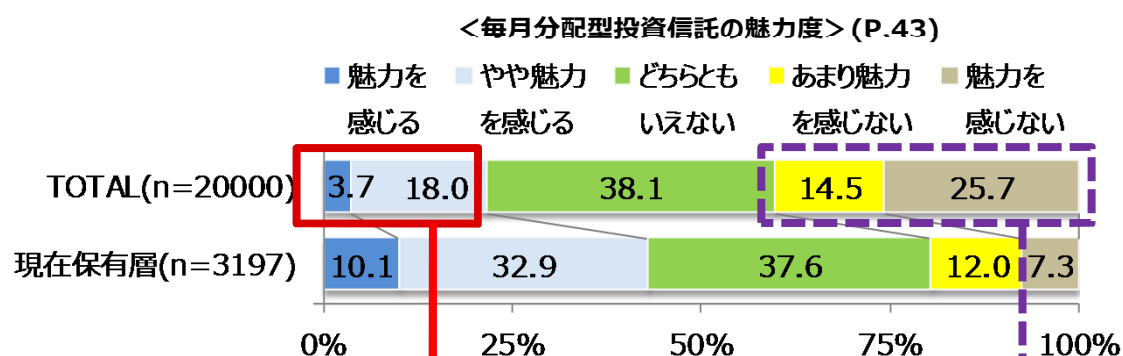
【ベース:積立投資プラン認知者(n=3522)](P.49)



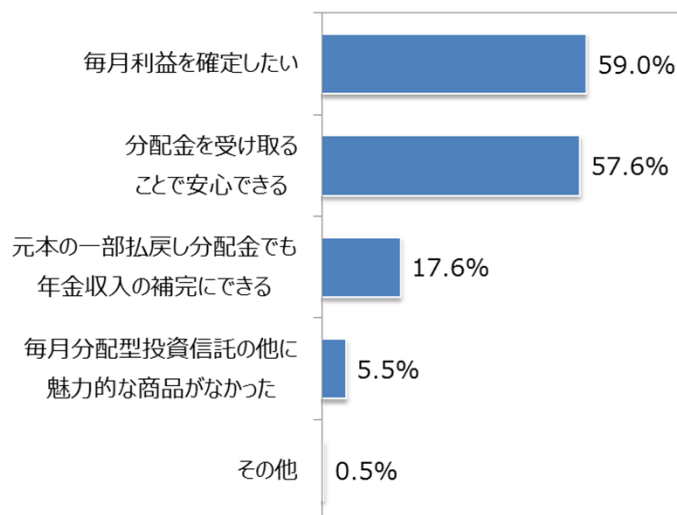
2. 調査結果の要約

毎月分配型投資信託の魅力度とその理由／分配金の使途

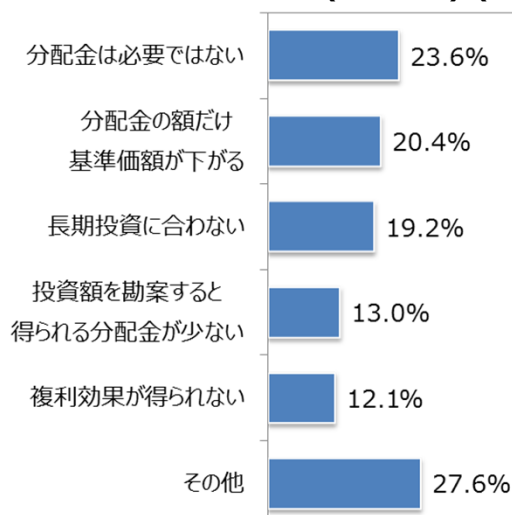
- 「毎月分配型投資信託」に魅力を感じるのは20%強に留まる（但し現在保有層では40%強が魅力を感じている）。魅力層では「毎月利益が確定すること」や「分配金受取の安心感」が評価される。一方非魅力層ではその理由として特徴的なものは見られず、分散する傾向。分配金の使途では「自分のこづかい」「生活費」が多く、「投信購入」は少ない。また使い途を想起できない人も多くなる。



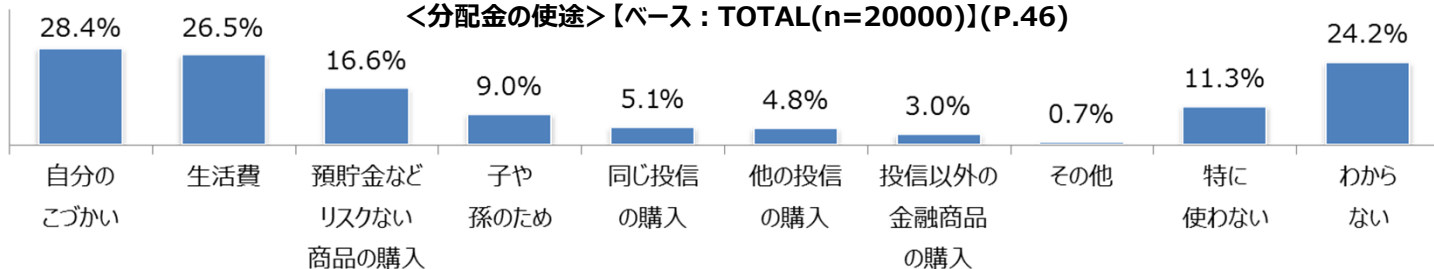
＜毎月分配型投資信託の魅力理由＞
【ベース:分配型魅力者(n=4346)](P.44)



＜毎月分配型投資信託の非魅力理由＞
【ベース:分配型非魅力者(n=8034)](P.45)



＜分配金の使途＞【ベース:TOTAL(n=20000)](P.46)



3. 回答者のプロフィール

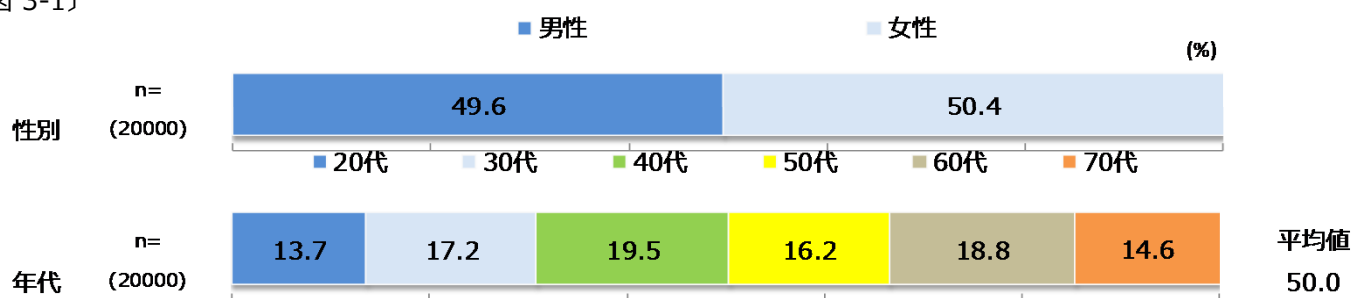


3. 回答者のプロフィール

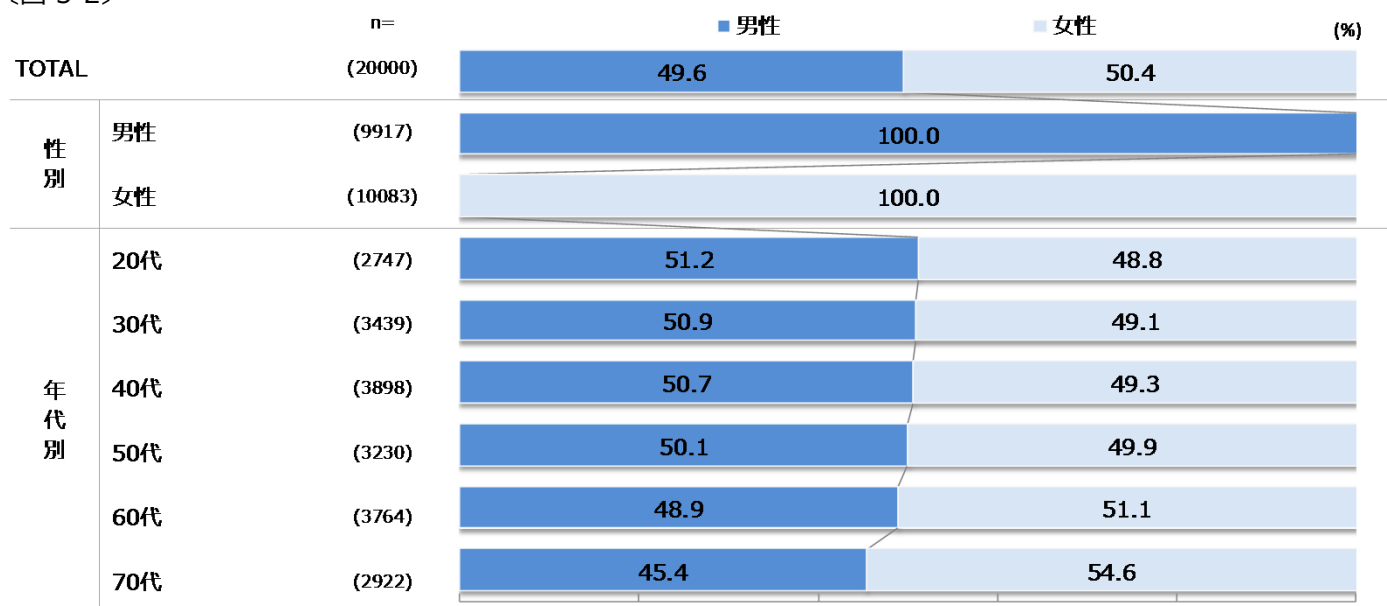
(1) 性別・年代〔Q28:単数回答・Q29:自由記述回答〕

- 回答者の性別は「男性」が49.6%、「女性」が50.4%。
年代では「40代」が19.5%で最も多く、平均年齢は50.0歳となる。〔図3-1〕
- 年代別に男女比をみると、60代以下では男女ほぼ半数だが、70代では「女性」の方がやや多い。〔図3-2〕
- 投資信託保有状況別では、現在保有層および保有未経験層（金融資産は保有経験有）で、「男性」の方が多くなる。〔図3-3〕
また年代が上がるにつれ投資信託の「現在保有層」「保有経験層」どちらも増加する。〔図3-5〕

〔図 3-1〕



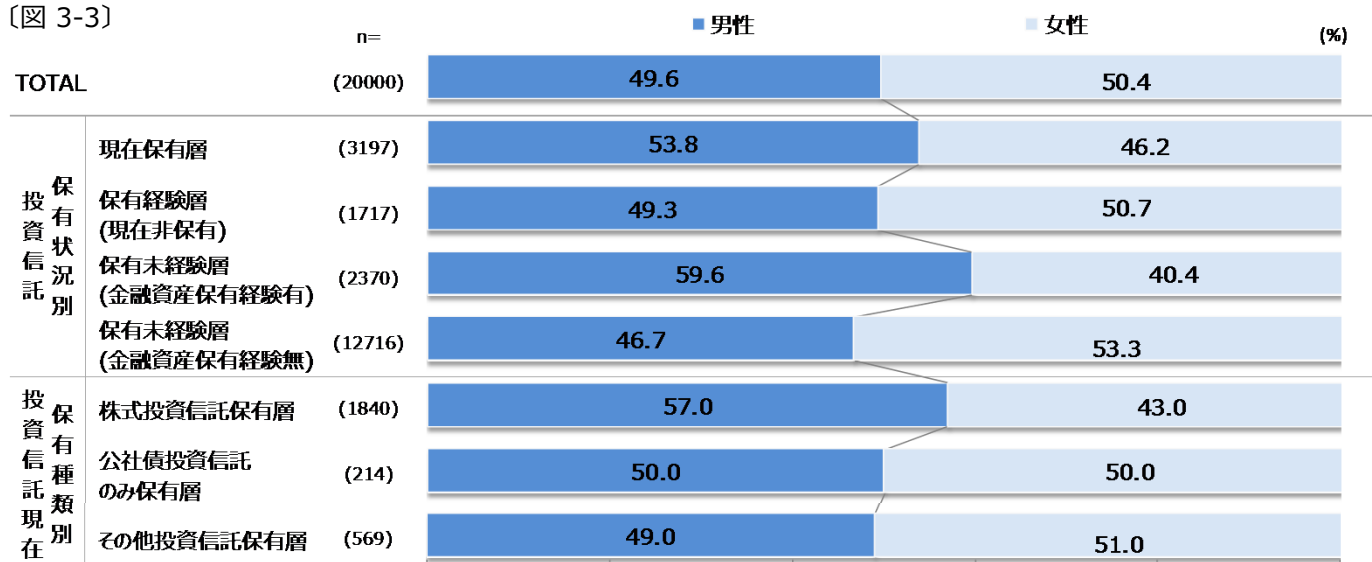
〔図 3-2〕



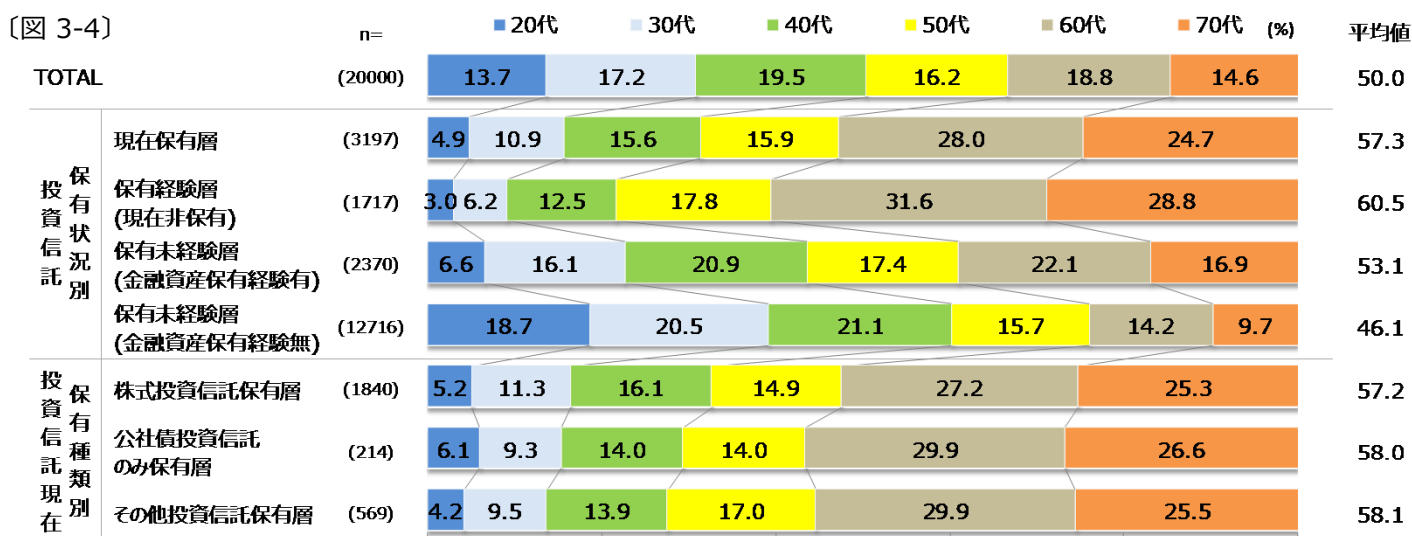
3. 回答者のプロフィール

(1) 性別・年代〔Q28:単数回答・Q29:自由記述回答〕

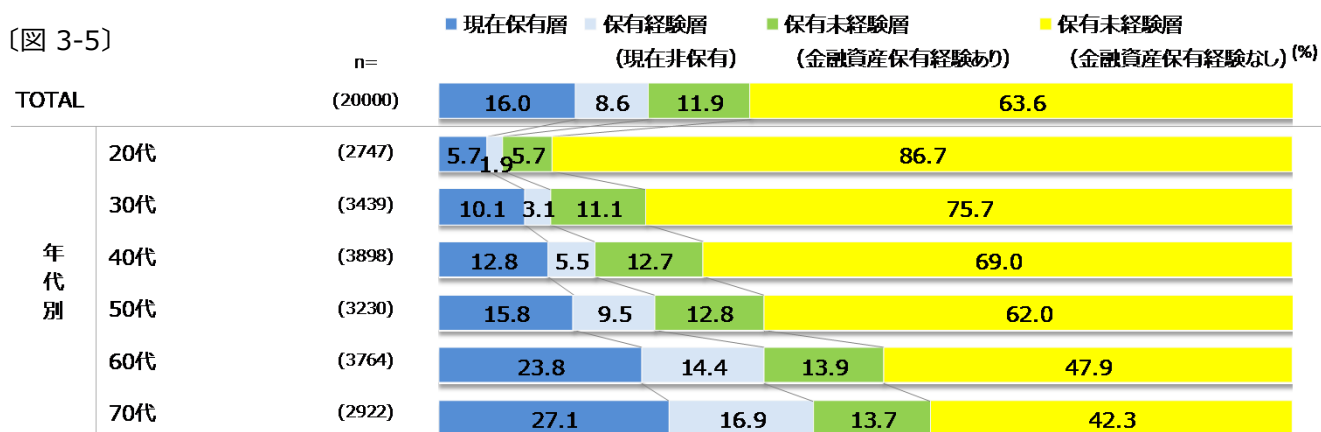
〔図 3-3〕



〔図 3-4〕



〔図 3-5〕

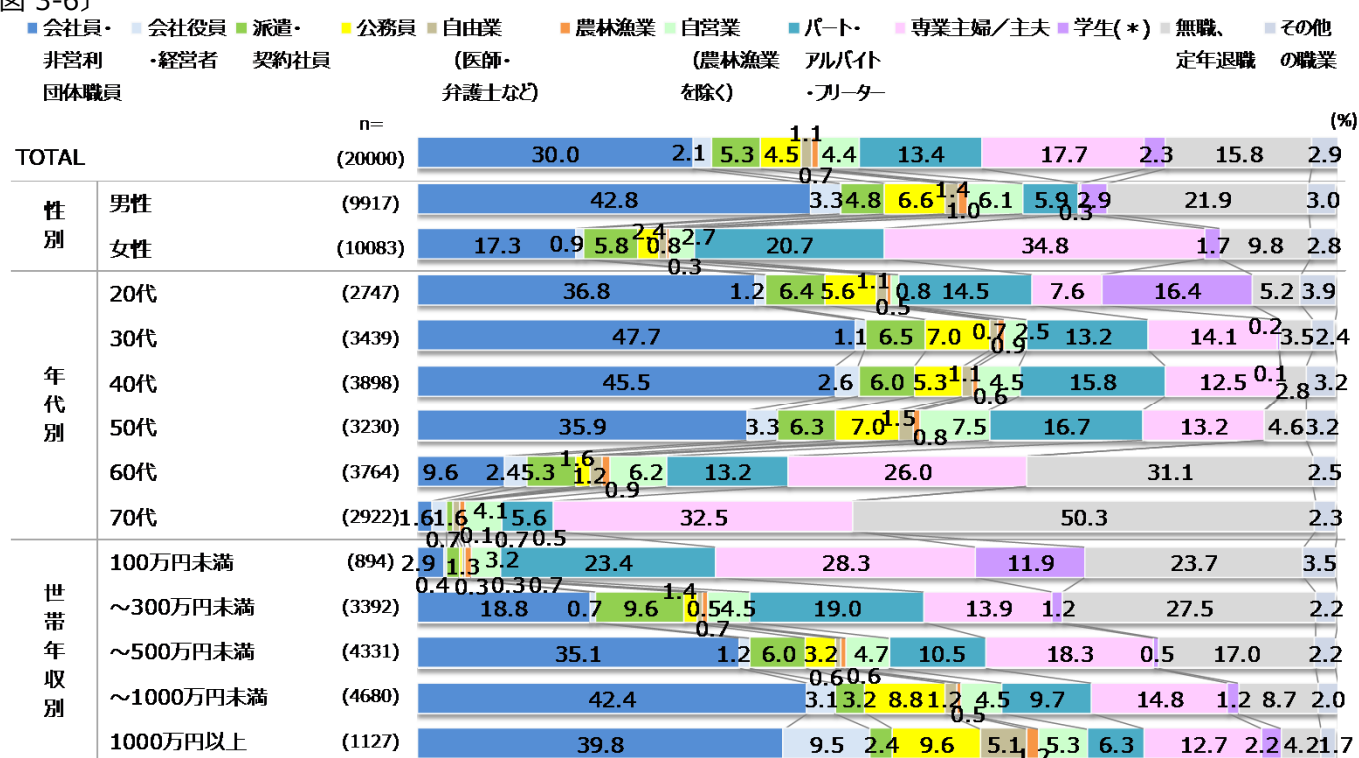


3. 回答者のプロフィール

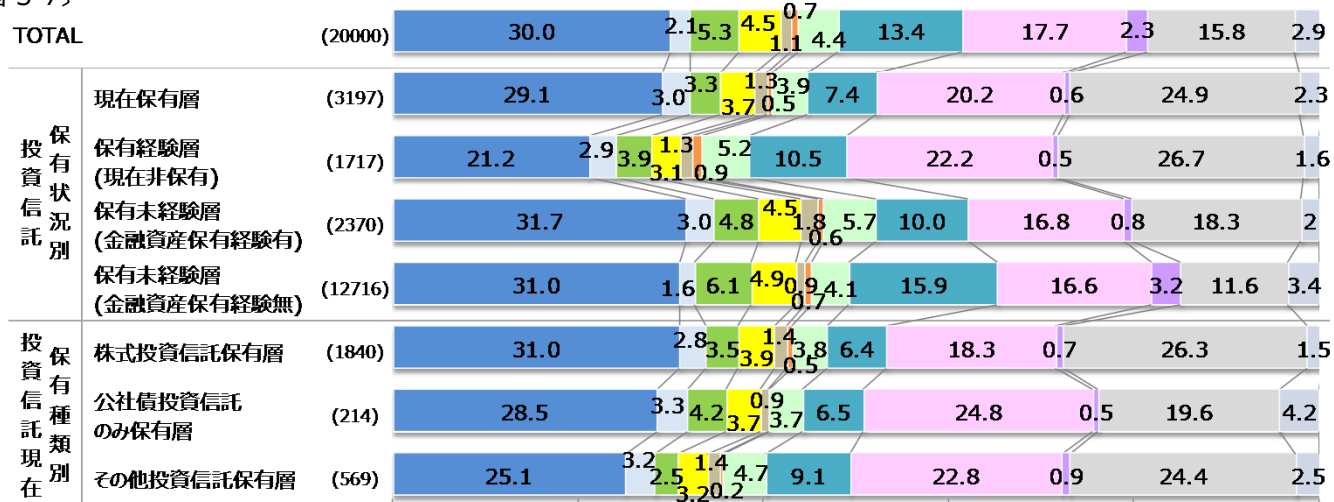
(2) 職業〔Q30:単数回答〕

- 回答者の職業は「会社員・非営利団体職員」(30.0%)が最も多く、世帯年収別では年収が上がるにつれ増加する傾向。また年収1,000万円以上の世帯では、「会社役員・経営者」(9.5%)がやや多い。〔図3-6〕
- 投資信託の現在保有層や保有経験層では、「専業主婦／主夫」「無職・定年退職」が保有未経験層に比べやや多い。〔図3-7〕

〔図 3-6〕



〔図 3-7〕



* 学生=大学生、大学院生、専門学校生、短大生、予備校生

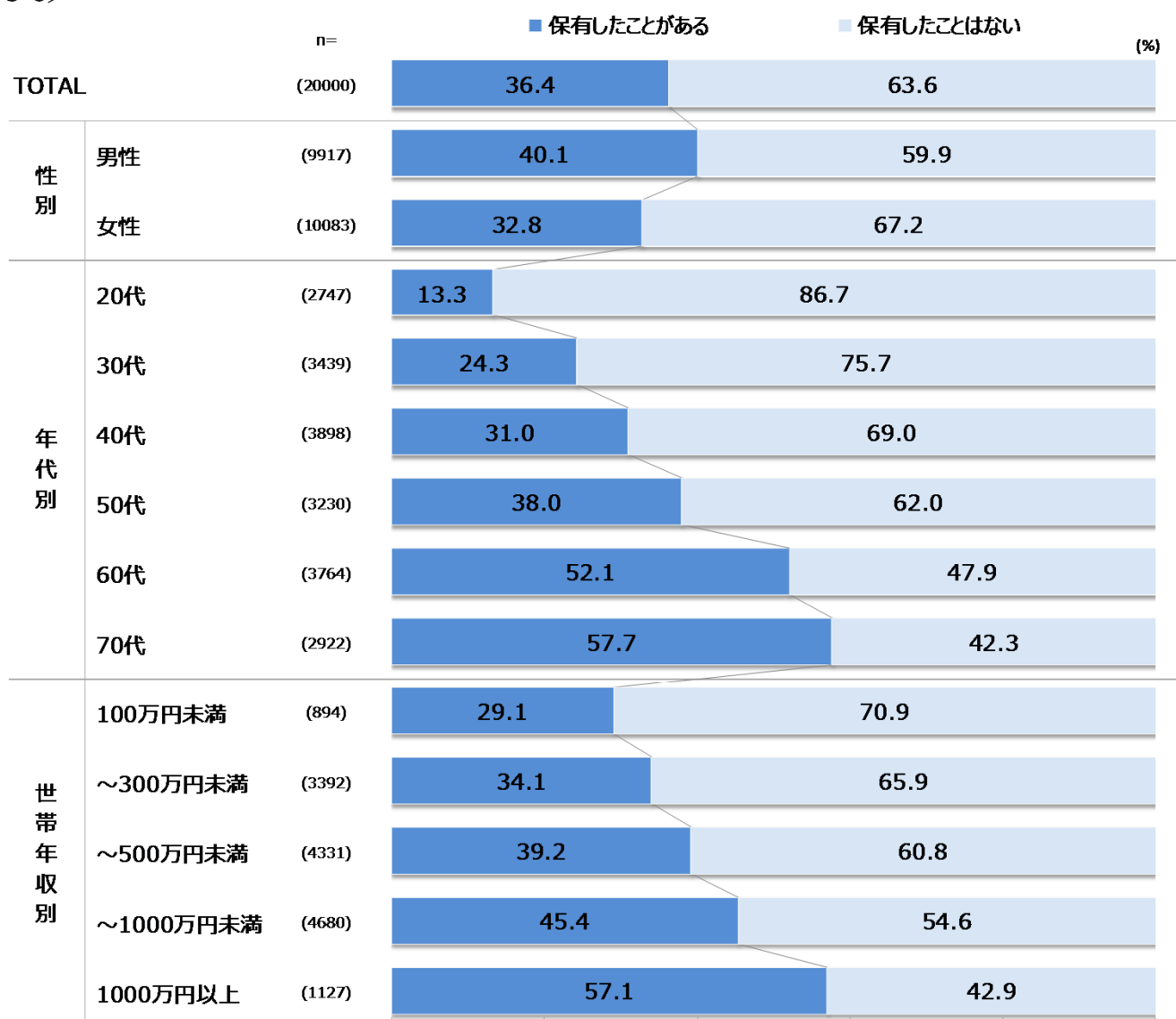
3. 回答者のプロフィール

(3) 金融資産の保有経験〔Q1:単数回答〕

- 金融資産（※）の保有経験率は、36.4%。
- 属性別に保有経験率をみると、性別では男性(40.1%)の方が高く、また年代や世帯年収が上がるにつれ高くなる。

※ 金融資産・・・外貨預金、株式、債券（国債・公社債など）、投資信託、F X、E T F、R E I Tなど。現金や円での預貯金、土地や不動産、保険は除く。

〔図 3-8〕

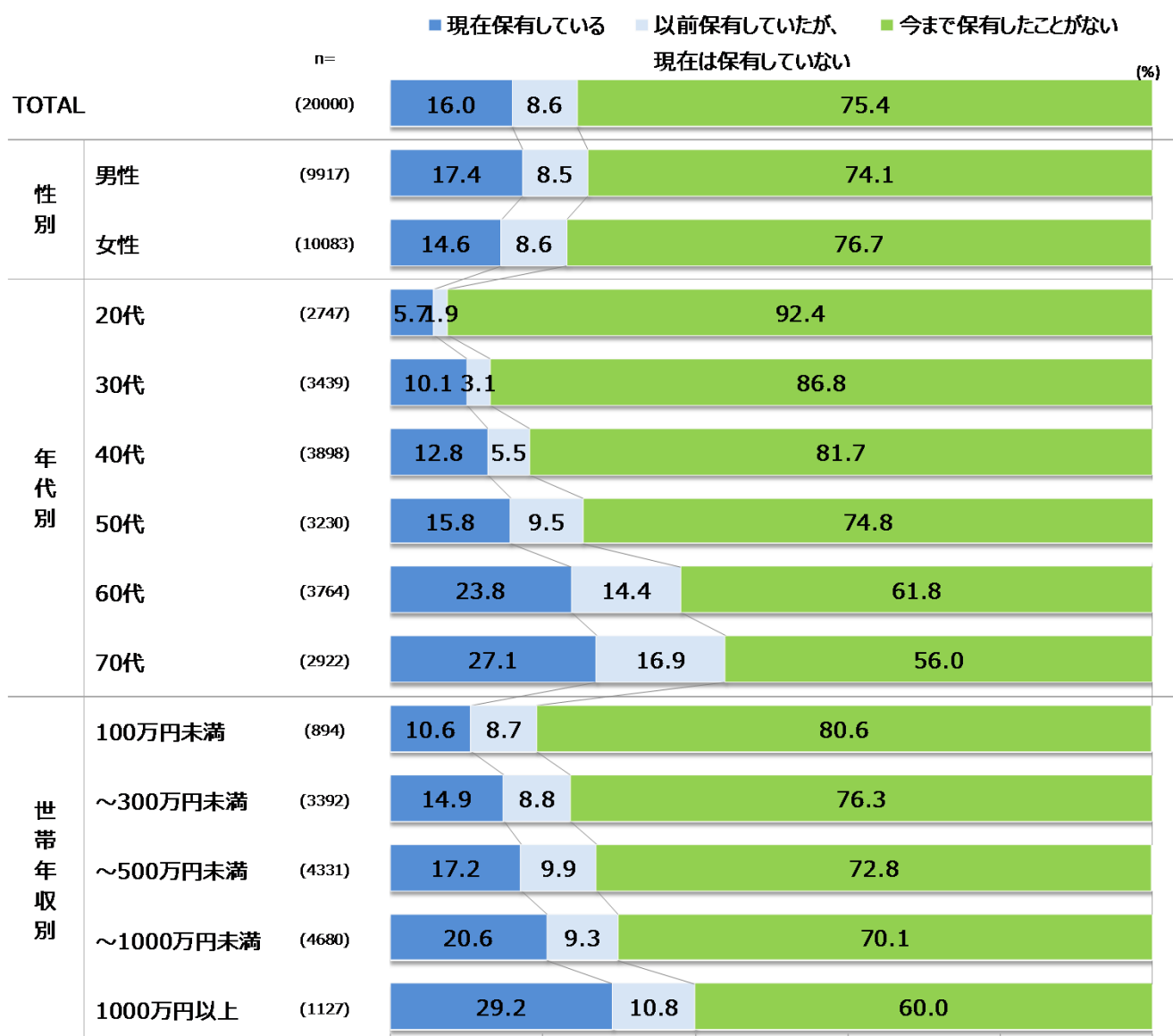


3. 回答者のプロフィール

(4) 投資信託の保有状況〔Q2:単数回答〕

- 投資信託の保有状況は、
「現在保有している」という“現在保有層”が16.0%
「以前保有していたが、現在は保有していない」との“保有経験層”が8.6%
「今まで保有したことがない」という“保有未経験層”が75.4%となる。
- 年代や世帯年収が上がるにつれ、投資信託の“現在保有層”、“保有経験層”ともに増加する。

〔図 3-9〕

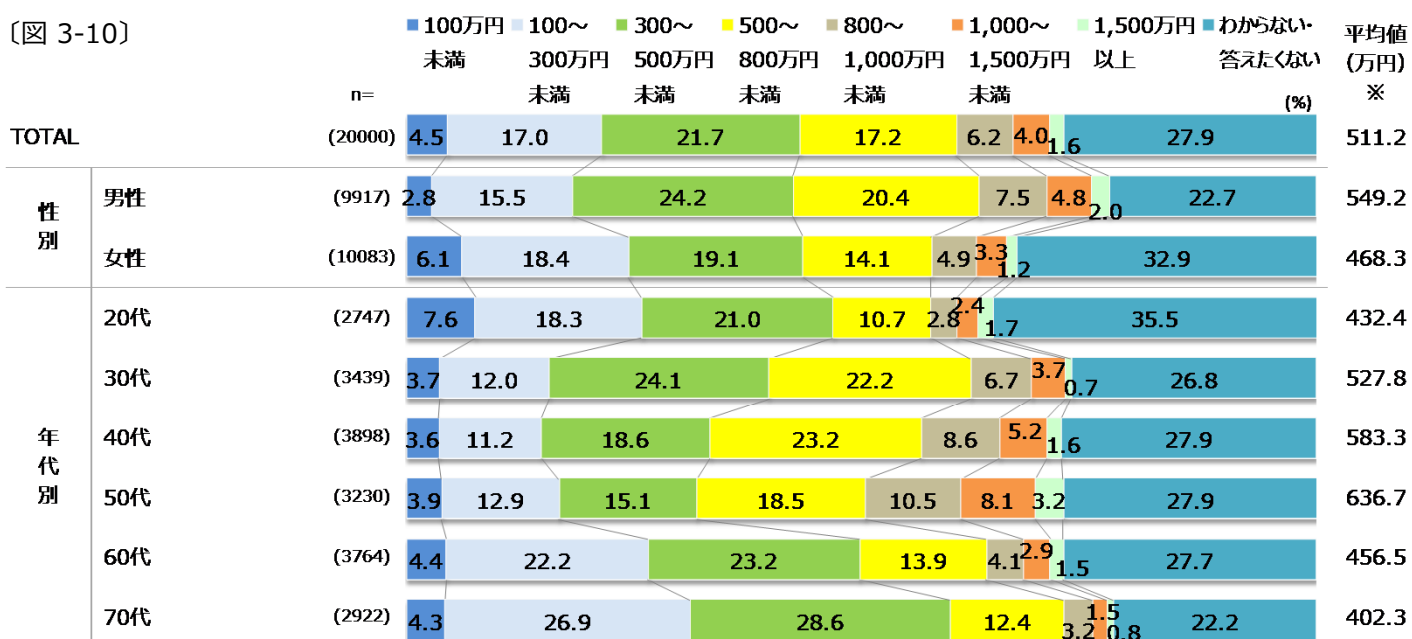


3. 回答者のプロフィール

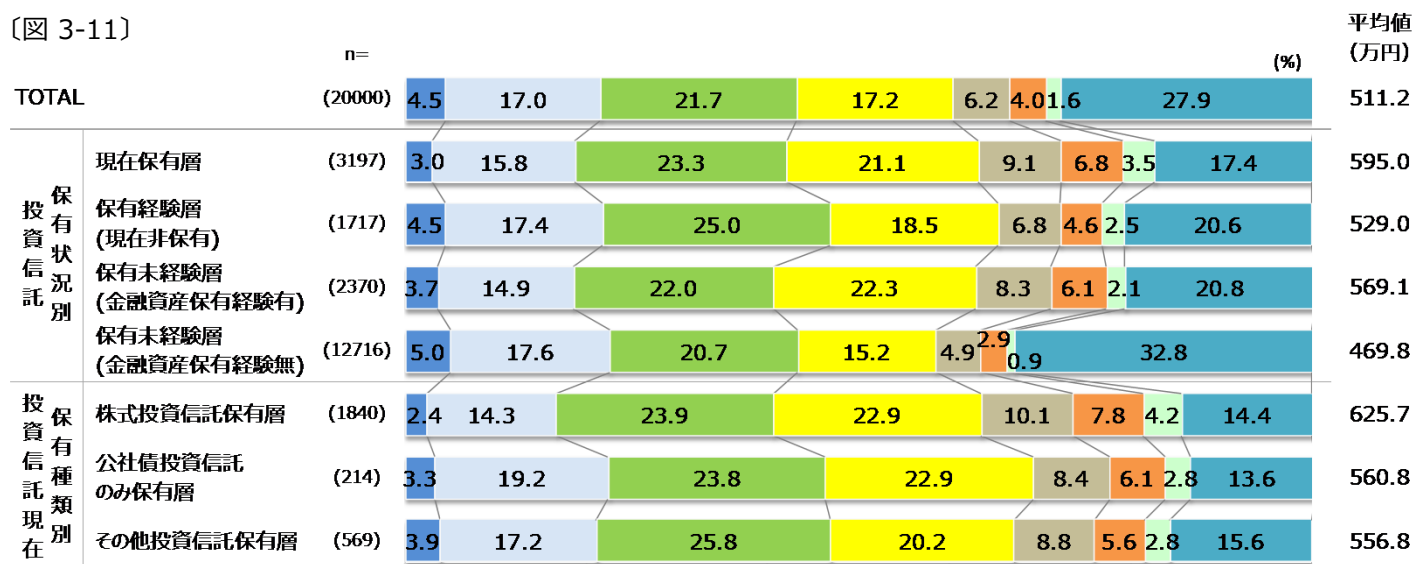
(5) 世帯年収〔Q31①：単数回答〕

- 世帯年収は「300～500万円未満」が21.7%とやや多く、また『100万円～800万円未満』合計で半数以上(55.9%)を占め、平均値は「511.2万円」となる。〔図3-10〕
- 投資信託の保有状況別や保有種類別で見ると、現在保有層、中でも株式投資信託保有層での平均値が高い。〔図3-11〕

〔図 3-10〕



〔図 3-11〕



※ 平均値は「わからない・答えたくない」を除いて算出。算出にあたってのウエイト値は以下の通り

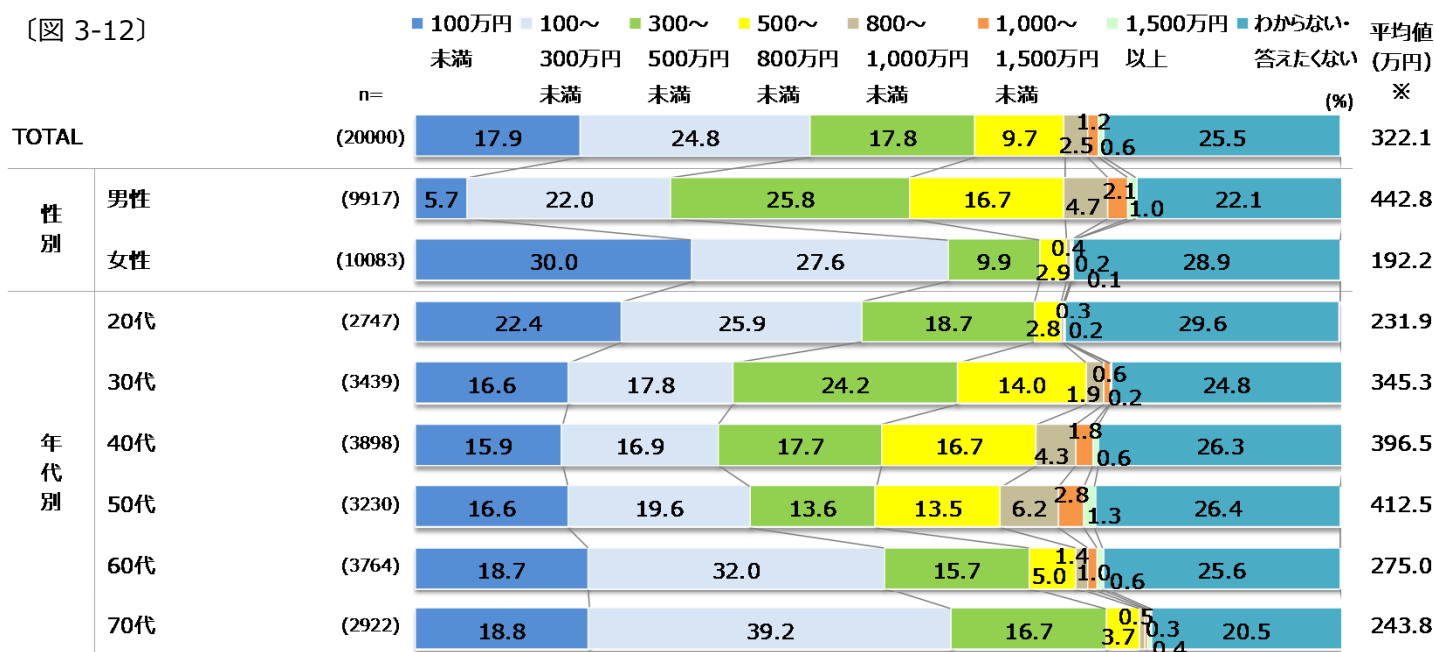
100万円未満：50万円 / 100～300万円未満：200万円 / 200～500万円未満：400万円 / 500～800万円未満：650万円 / 800万円～1000万円未満：900万円 / 1000～1500万円未満：1250万円 / 1500万円以上：1750万円

3. 回答者のプロフィール

(6) 個人年収〔Q31②：単数回答〕

- 個人年収は「100～300万円未満」が24.8%とやや多く、また『500万円未満』合計で60.5%を占め、平均値は「322.1万円」となる。〔図3-12〕
- 投資信託の保有状況別や保有種類別で見ると、世帯年収と同様に現在保有層、株式投資信託保有層での平均値が高くなる。〔図3-13〕

〔図 3-12〕



〔図 3-13〕



※ 平均値は「わからない・答えたくない」を除いて算出。算出にあたってのウエイト値は以下の通り

100万円未満：50万円 / 100～300万円未満：200万円 / 200～500万円未満：400万円 / 500～800万円未満：650万円 / 800万円～1000万円未満：900万円 / 1000～1500万円未満：1250万円 / 1500万円以上：1750万円

4. 投資信託保有状況（現在保有層）

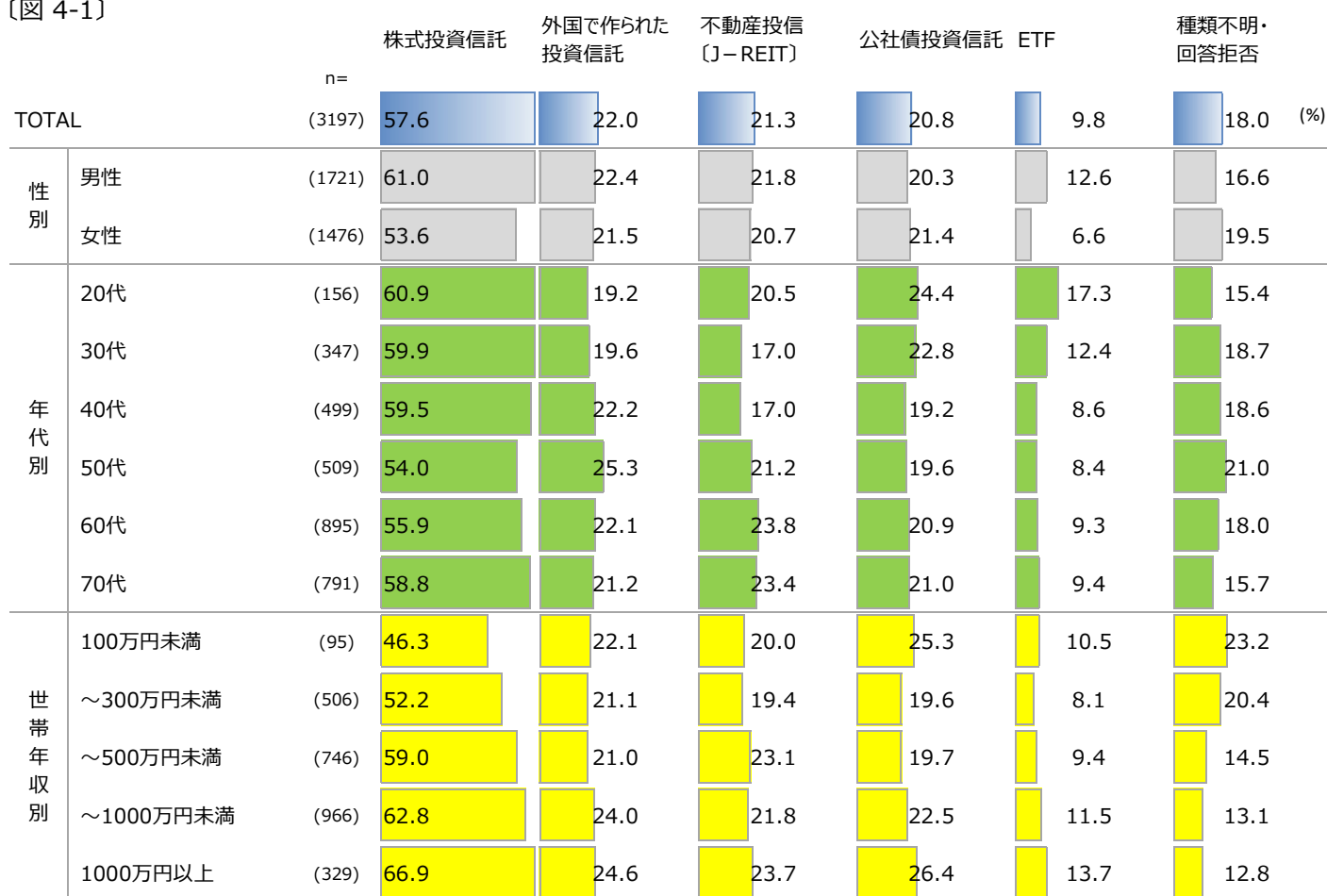


4. 投資信託保有状況（現在保有層）

(1) 投資信託の保有種類〔Q5:重複回答〕

- 現在保有している投資信託の種類は、「株式投資信託」が57.6%で最多。次いで「外国で作られた投資信託」「不動産投信」「公社債投資信託」がいずれも20%台で続く。年代別でみると、30代以下の若年層で「ETF」保有率がやや高い。また世帯年収別では、年収が高くなるにつれ「株式投資信託」の保有率が目立って増加する。〔図4-1〕
- 平均保有数は1.60種類となる〔図4-2〕

〔図 4-1〕



〔図 4-2〕【投資信託の保有種類別回答者数と、平均保有数】

	株式投資信託	外国で作られた投資信託	不動産投信 (J-REIT)	公社債投資信託	ETF	平均保有数 (種類) ※2
TOTAL (n=2623) ※1	1840	704	682	666	313	1.60

※1 投信保有者(n=3197)から「種類不明・回答拒否」(n=574)を控除

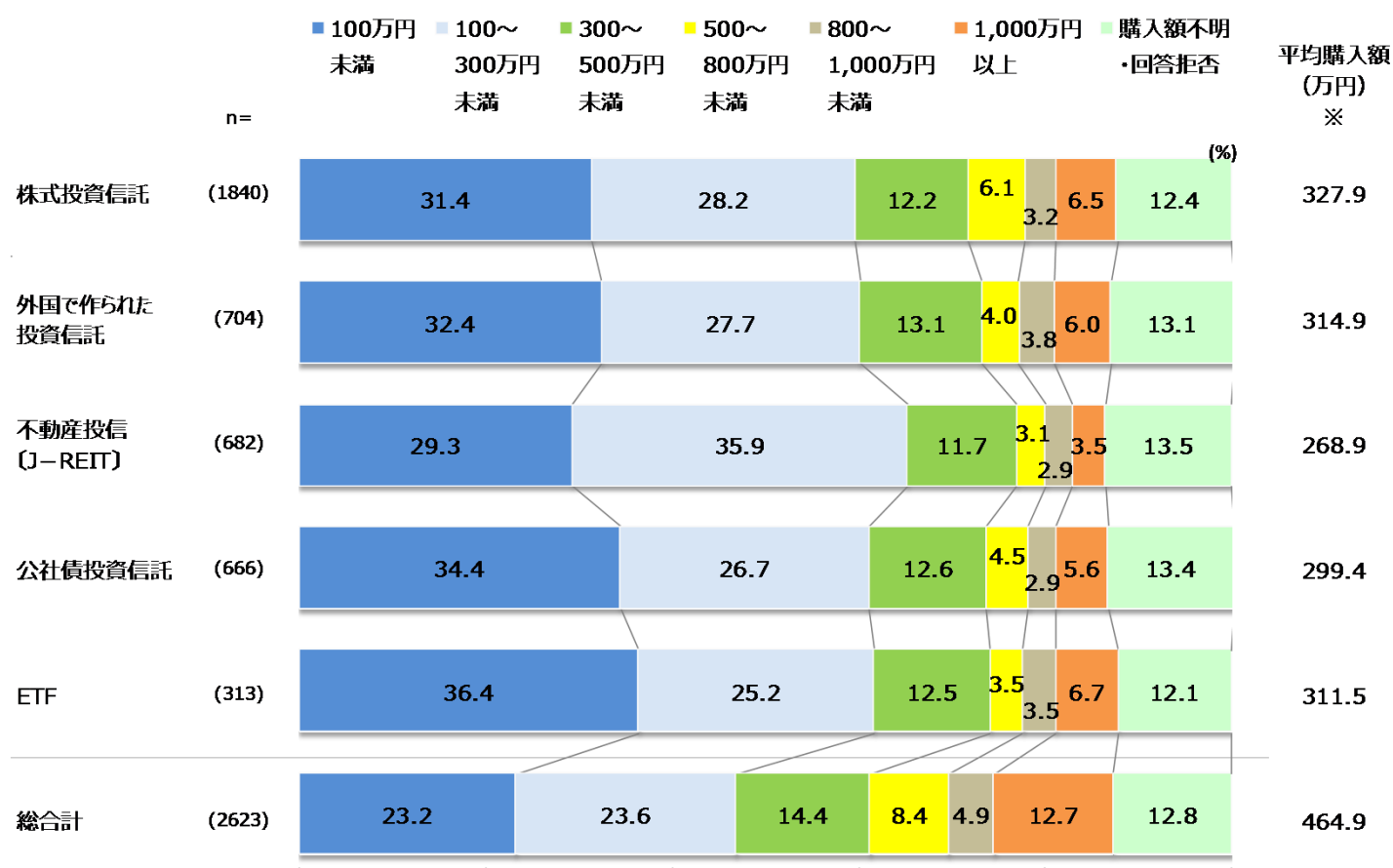
※2 平均保有数は、保有種類別回答者数の延べの総数を、n=2623で除して算出。

4. 投資信託保有状況（現在保有層）

(2) 投資信託の購入額〔Q6:単数回答-各種類現在保有層ベース〕

- 現在保有している投資信託の、保有種類別での平均購入額は「株式投資信託」(327.9万円)、「外国で作られた投資信託」(314.9万円)、「ETF」(311.5万円)の順に高く、総合計では「464.9万円」となる。

〔図 4-3〕



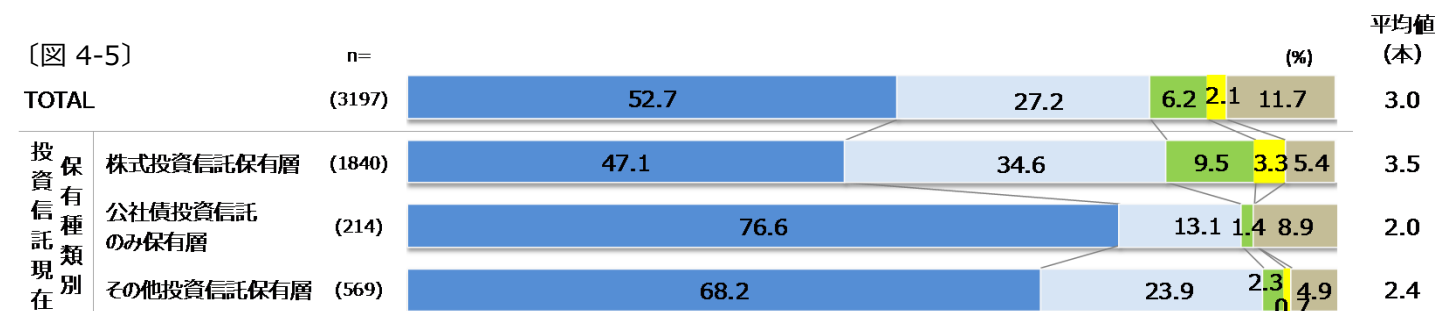
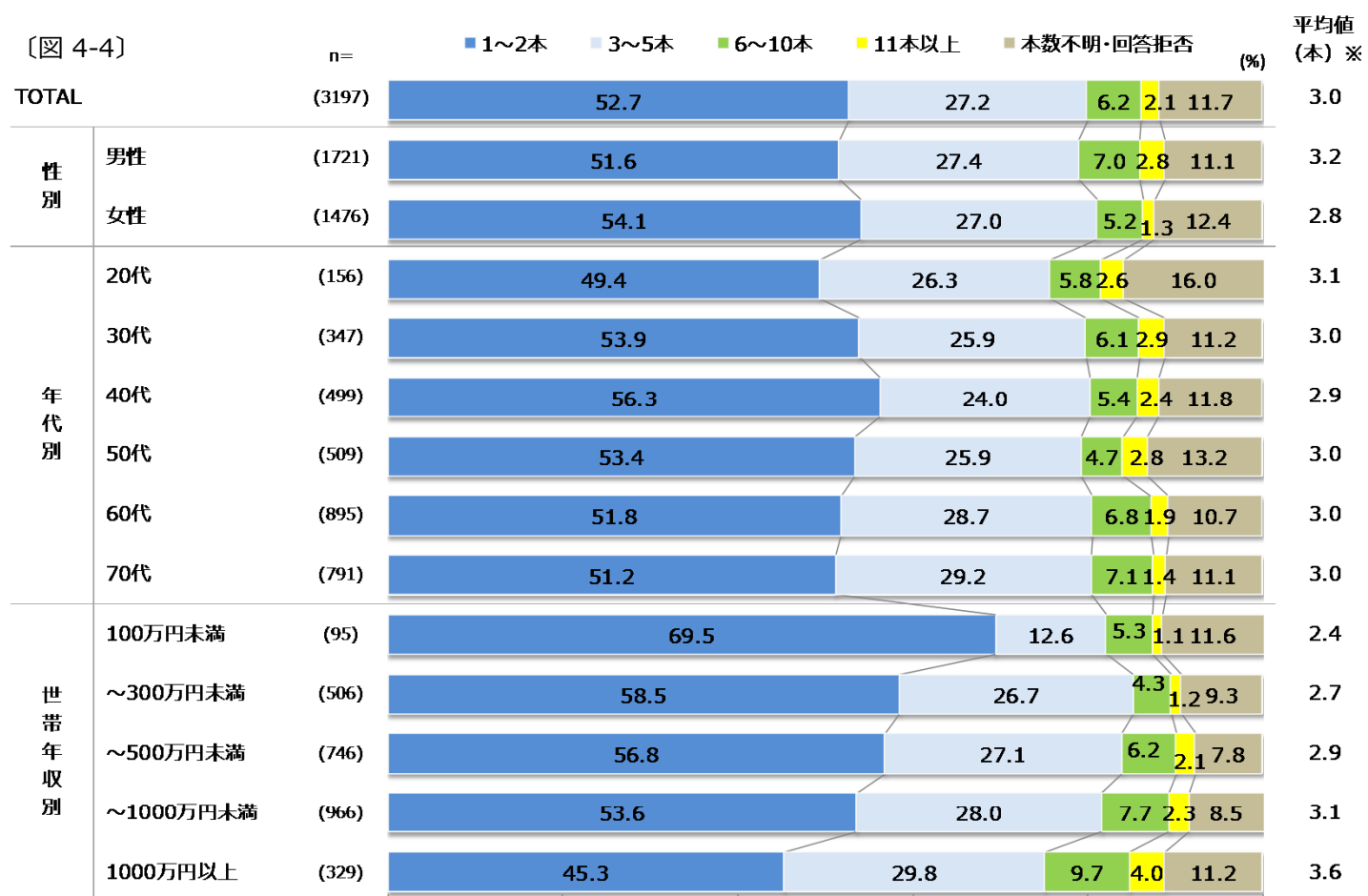
※ 平均値は「購入額不明・回答拒否」を除いて算出。算出にあたってのウエイト値は以下の通り

100万円未満：50万円 / 100~300万円未満：200万円 / 200~500万円未満：400万円 / 500~800万円未満：650万円 / 800~1000万円未満：900万円 / 1000万円以上：1500万円

4. 投資信託保有状況（現在保有層）

(3) 現在保有している投資信託の本数〔Q3:単数回答〕

- 現在保有している投資信託の保有本数は、「1～2本」(52.7%)が半数以上を占め、平均本数は3.0本となる。年代別では平均本数に大きな差はみられないが、世帯年収別では年収が上がるにつれ平均本数も増加する傾向。〔図4-4〕
- 投信保有種類別では、株式投信保有層で平均保有本数(3.5本)が他層に比べ多い。〔図4-5〕



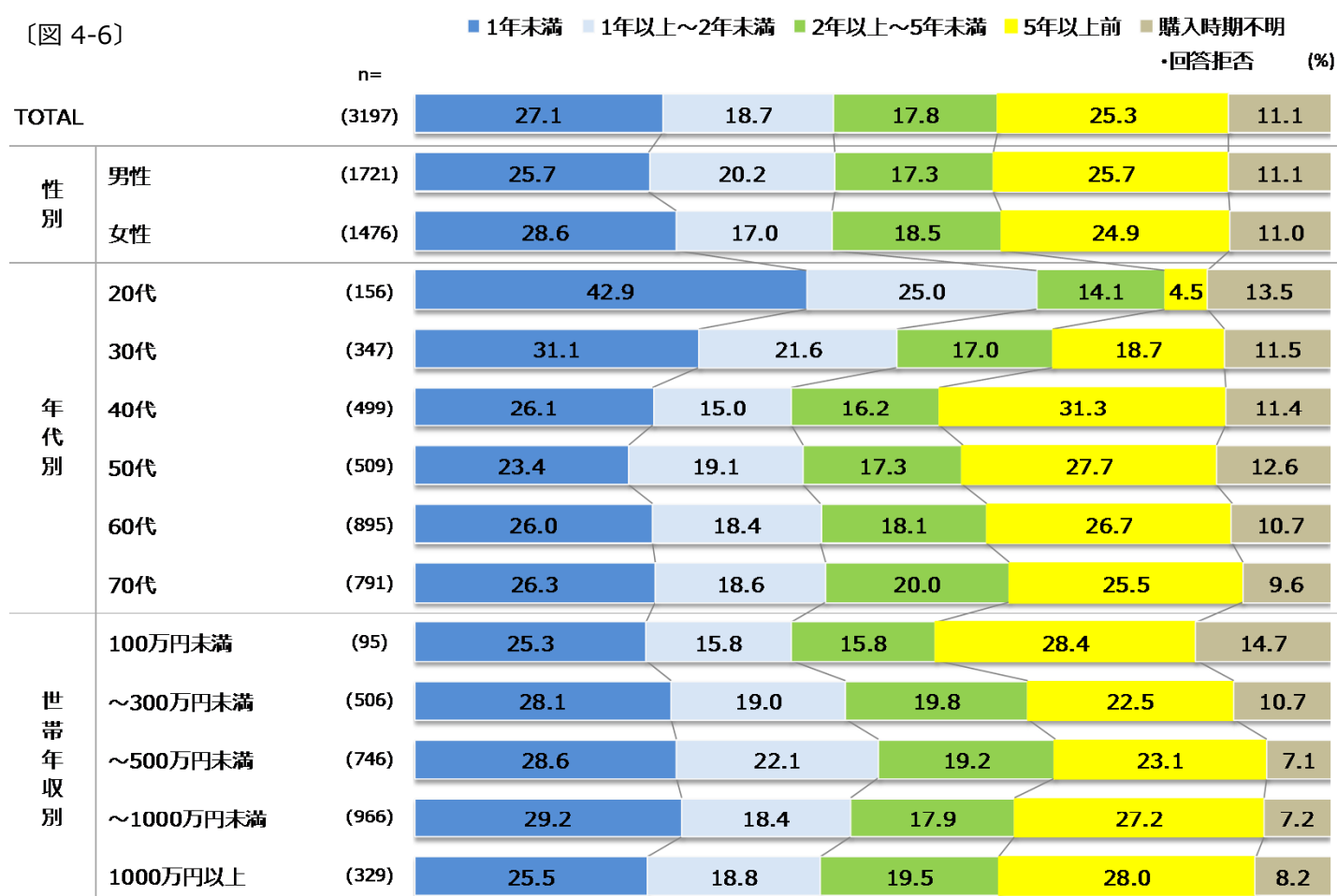
※ 平均値は「本数不明・回答拒否」を除いて算出。算出にあたってのウエイト値は以下の通り
 1～2本：1.5本 / 3～5本：4本 / 6～10本：8本 / 11本以上：13本

4. 投資信託保有状況（現在保有層）

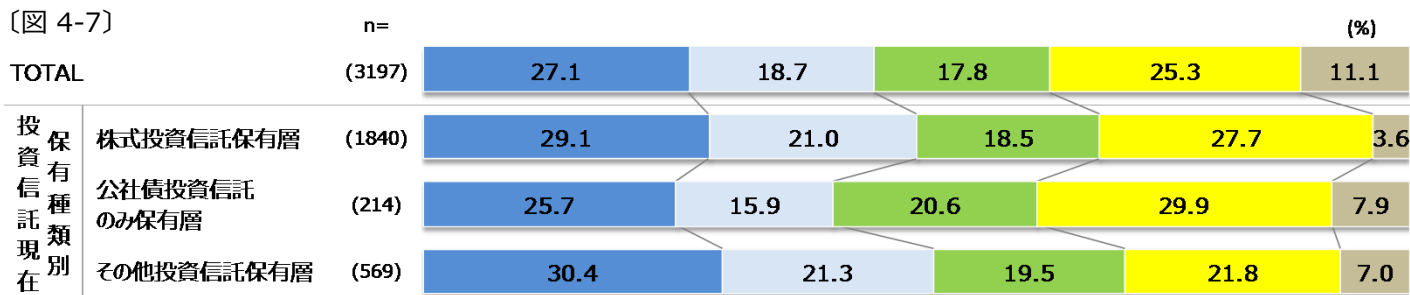
(4) 投資信託商品の直近購入時期〔Q4:単数回答〕

- 直近の購入時期は「1年未満」が27.1%と最も多く、「5年以上前」が25.3%で続く。30代以下の若年層では「1年未満」が多く、特に20代は42.9%と多い。〔図4-6〕
- 投資信託の保有種類別でみると、“公社債投信のみ保有層”で他層に比べやや『2年以上前』（「2年以上～5年未満」+「5年以上前」）の購入率がやや高く、投信商品の購入頻度が相対的にやや低い様子。〔図4-7〕

〔図 4-6〕



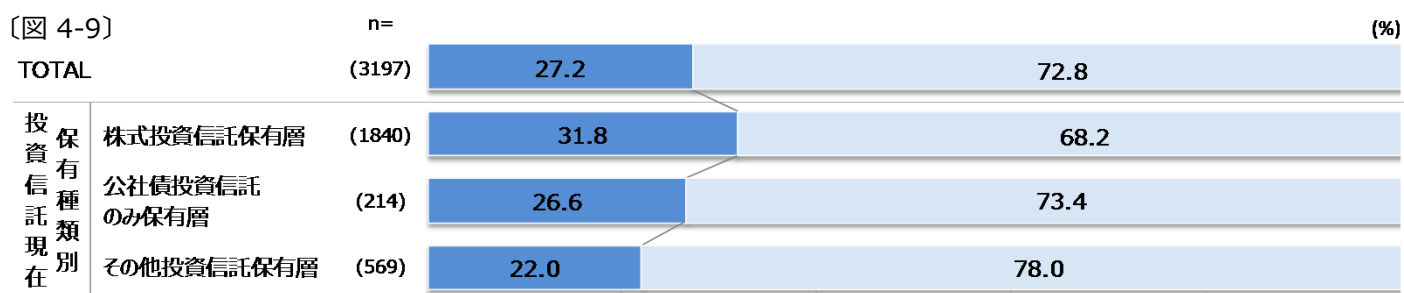
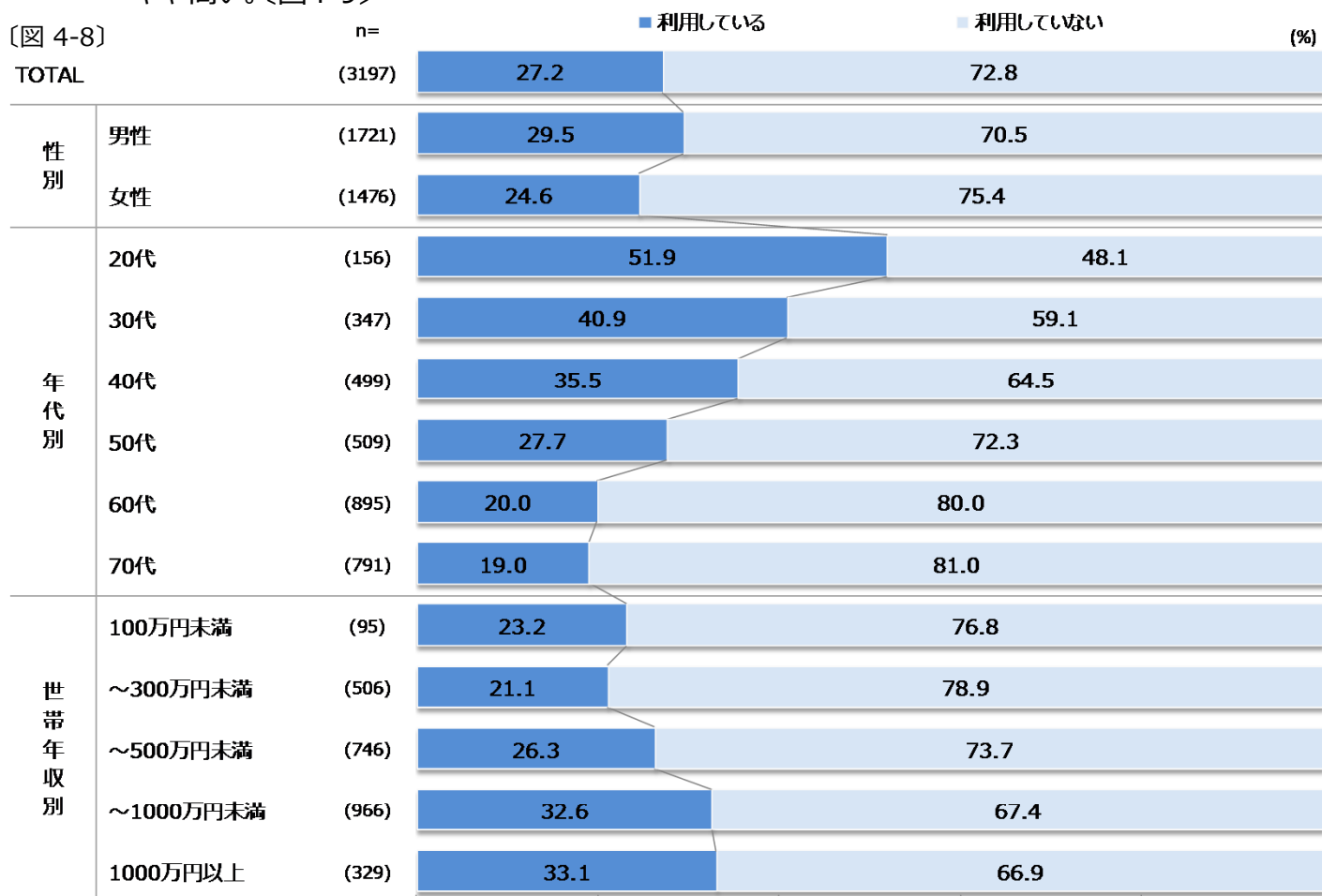
〔図 4-7〕



4. 投資信託保有状況（現在保有層）

(5) 投資信託の積立投資の利用状況〔Q15:単数回答〕

- 現在投資信託保有層の積立投資利用率は27.2%。
 属性別に利用率をみると、男性 (29.5%)の方がやや高く、また年代が若いほど高い。
 20代では利用率51.9%と半数以上にのぼる。
 一方で世帯年収別では、年収が高い層ほど利用率は増加する傾向〔図4-8〕
- 投資信託の保有種類別では、株式投資信託保有層での利用率(31.8%)が他層に比べやや高い。〔図4-9〕

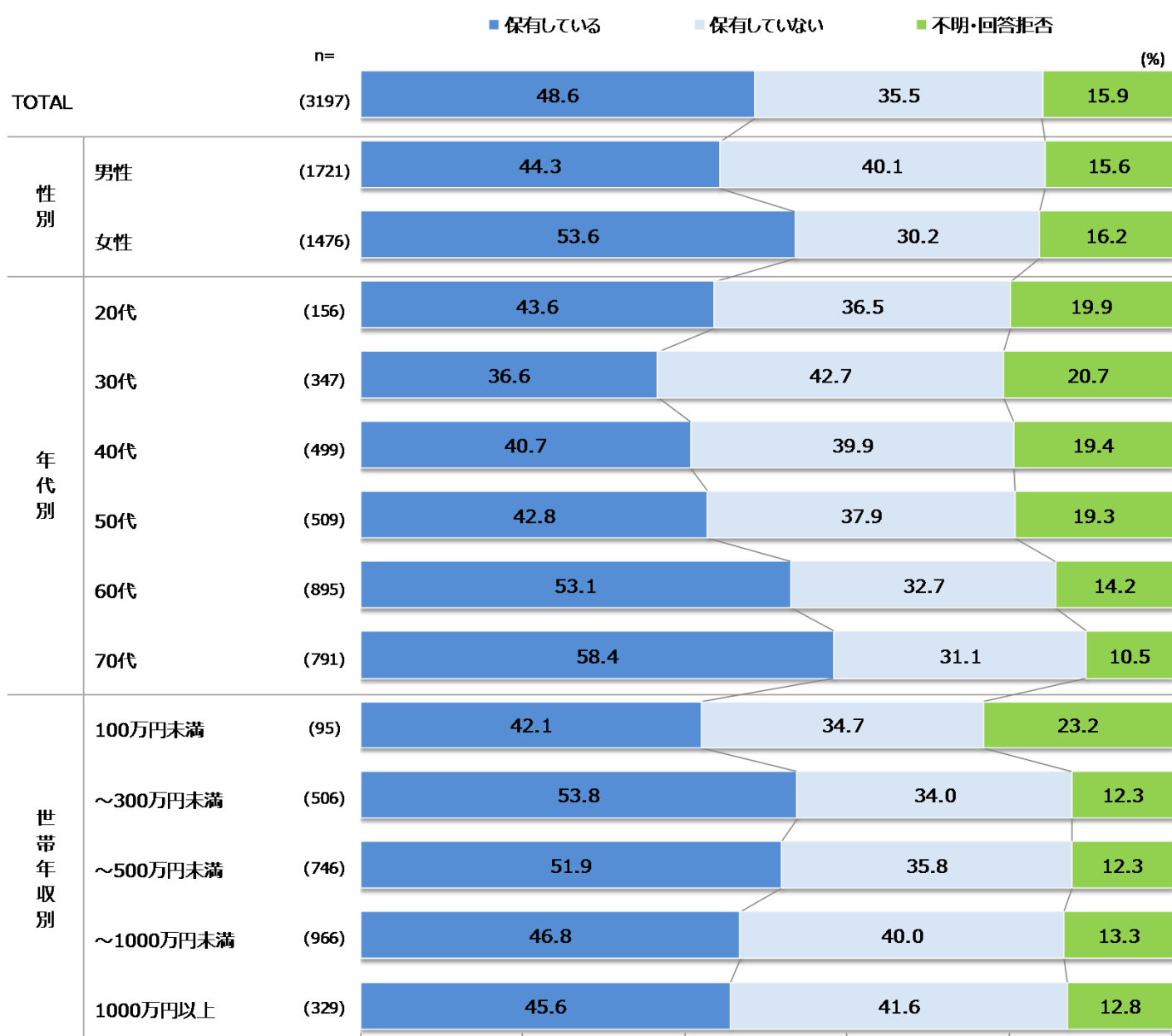


4. 投資信託保有状況（現在保有層）

(6) 毎月分配型投資信託の保有状況〔Q19:単数回答〕

- 現在投資信託保有層のうち、毎月分配型投資信託（1ヶ月毎に決算を行い、収益などの一部を分配金として毎月分配する分配方針のもの）の保有率は48.6%と約半数となる。
性別では女性で、年代別では60代以上で保有率が50%を越え高くなる。
また世帯年収別で保有率をみると、“100～300万円未満層”(53.8%)をピークに、年収の増加と共に減少する傾向。〔図4-10〕

〔図 4-10〕

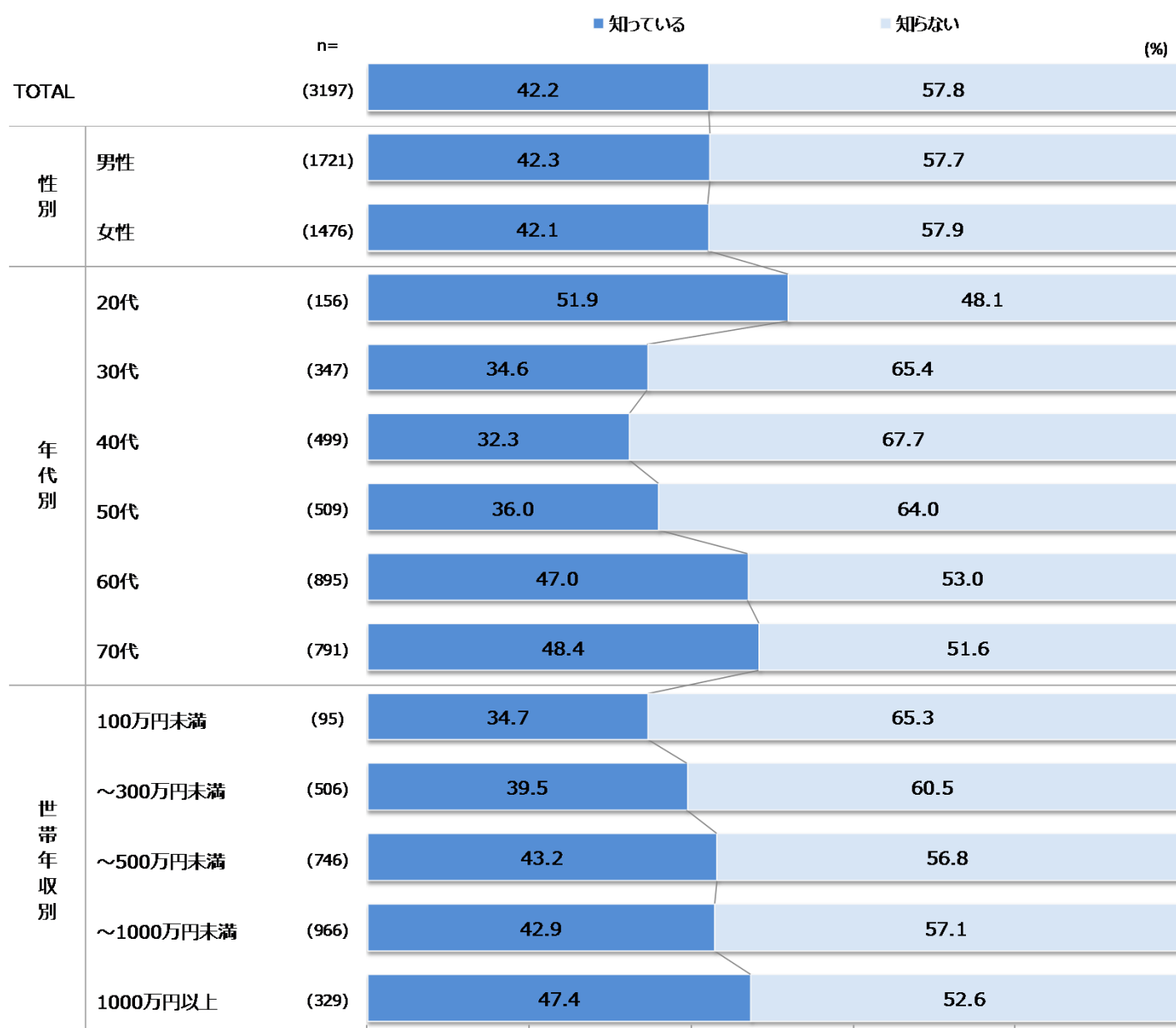


4. 投資信託保有状況（現在保有層）


(7) トータルリターン通知制度の認知状況〔Q24:単数回答〕

- 2014年12月から実施の「投資信託の投資期間全体の損益（トータルリターン）通知制度」の、現在投資信託保有層での認知率は42.2%。
年代別では20代の認知率が51.9%と最も高い。
世帯年収別では年収が上がるにつれ、認知率も高くなる模様。

〔図 4-11〕



5. 投資信託購入状況 (現在保有層・保有経験層)



5. 投資信託購入状況（現在保有層・保有経験層）

(1) 投資信託購入の際の重視点〔Q7①：最大3項目回答〕

- 購入時の重視点は、「安全性の高さ」(44.5%)が最も高く、「値上がりへの期待」(37.9%)、「過去の運用実績」(23.9%)の順に続く。年代別で見ると、高齢層ほど「安全性の高さ」「過去の分配金額」「分配頻度の多さ」「換金のしやすさ」が高く、「過去の運用実績」「手数料などの水準」「純資産額の大きさ」は若年層ほど高い。世帯年収別では上の階層ほど「値上がり期待」「過去の運用実績」「手数料などの水準」「商品コンセプト」「純資産額の大きさ」が高くなる傾向。〔図5-1〕
- 投信の現在保有層は「分配頻度の多さ」が、保有経験層は「安全性の高さ」「換金しやすさ」が他層より高い。公社債投信のみ保有層は「安全性の高さ」(60.7%)が突出して高くなる。〔図5-2〕

〔図 5-1〕

		n=	安全性の高さ	値上がりへの期待	過去の運用実績	過去の分配金額	分配頻度の多さ	換金のしやすさ	手数料や運用管理費の水準	商品内容のわかりやすさ	商品コンセプト	評価会社による評価	純資産額の大きさ	その他	特になし	(%)
TOTAL		(4914)	44.5	37.9	23.9	11.9	11.2	10.6	9.6	8.4	6.7	6.1	4.6	1.2	14.0	
性別	男性	(2568)	40.3	39.6	26.9	11.8	11.5	10.0	10.2	7.3	7.8	5.5	5.4	0.9	13.9	
	女性	(2346)	49.1	36.0	20.6	12.1	10.8	11.4	9.0	9.7	5.5	6.7	3.7	1.5	14.2	
年代別	20代	(208)	32.2	38.0	38.0	6.7	8.7	7.7	18.8	9.6	6.3	4.8	7.7	0.0	14.9	
	30代	(454)	43.0	35.2	26.0	10.4	7.7	5.9	13.4	9.0	8.1	5.3	7.3	1.3	13.0	
	40代	(714)	42.6	35.3	26.3	10.9	10.9	6.9	12.7	7.7	7.8	5.6	5.5	1.0	13.2	
	50代	(815)	42.9	39.1	26.4	10.8	9.1	10.2	9.9	9.0	8.1	7.1	3.3	1.1	14.1	
	60代	(1438)	47.9	37.0	21.0	12.9	11.7	11.1	7.7	9.0	6.6	6.1	4.5	1.0	14.4	
	70代	(1285)	45.3	40.5	21.1	13.5	13.8	14.6	7.0	7.5	4.7	6.1	3.7	1.7	14.2	
世帯年収別	100万円未満	(173)	46.2	33.5	18.5	11.6	11.0	9.8	4.6	4.0	4.6	6.9	1.7	1.2	18.5	
	～300万円未満	(805)	42.9	37.9	18.0	11.7	13.0	11.4	7.1	10.1	5.7	4.7	2.7	1.7	17.4	
	～500万円未満	(1176)	45.9	40.0	22.2	12.6	11.4	11.4	9.0	7.9	6.6	6.9	5.1	1.4	11.9	
	～1000万円未満	(1400)	44.7	40.0	27.7	12.1	10.1	10.6	12.4	9.2	8.3	5.4	5.6	0.9	10.4	
	1000万円以上	(451)	44.1	39.2	33.7	11.8	10.4	11.8	11.8	6.9	8.4	7.8	5.8	0.7	11.3	

〔図 5-2〕

		n=	安全性の高さ	値上がりへの期待	過去の運用実績	過去の分配金額	分配頻度の多さ	換金のしやすさ	手数料や運用管理費の水準	商品内容のわかりやすさ	商品コンセプト	評価会社による評価	純資産額の大きさ	その他	特になし	(%)
TOTAL		(4914)	44.5	37.9	23.9	11.9	11.2	10.6	9.6	8.4	6.7	6.1	4.6	1.2	14.0	
投資信託保有状況別	現在保有層	(3197)	42.5	38.5	23.6	13.2	13.7	8.5	10.3	7.3	7.1	6.3	5.7	1.2	13.1	
	保有経験層(現在非保有)	(1717)	48.2	36.8	24.3	9.7	6.5	14.6	8.4	10.6	5.8	5.5	2.6	1.2	15.7	
投資信託保有種類別	株式投資信託保有層	(1840)	42.6	45.1	27.2	14.5	14.5	9.1	12.6	8.2	8.8	6.9	7.6	1.0	7.6	
	公社債投資信託のみ保有層	(214)	60.7	21.0	28.0	5.1	7.5	9.8	7.5	10.7	4.2	4.2	0.9	0.9	7.9	
	その他投資信託保有層	(569)	43.9	41.8	22.7	17.9	19.7	10.2	9.5	6.3	6.3	8.6	4.7	2.1	6.3	

5. 投資信託購入状況（現在保有層・保有経験層）

(1) 今後、投資信託購入の際に重視したい点〔Q7②：最大3項目回答〕

- 今後の重視点では「安全性の高さ」(49.0%)、「値上がり期待」(35.9%)、「運用実績」(22.1%)が上位。またわざわざ購入時重視点に比べ、「安全性の高さ」「手数料などの水準」が高く、「過去分配金額」「分配頻度の多さ」が低い。年代別では若年層ほど「手数料などの水準」「純資産額」が高い。また「安全性の高さ」は20代で低く「値上がり期待」は30～40代でやや高い。世帯年収別では上の階層ほど「値上がり期待」「過去の運用実績」「手数料などの水準」「商品コンセプト」が高くなる。〔図5-3〕

- 投信の現在保有層では「値上がり期待」「分配頻度の多さ」が、保有経験層では「換金のしやすさ」が他層より高い。〔図5-4〕

〔図 5-3〕

		n=	安全性の高さ	値上りの期待	過去の運用実績	手数料や運用管理費の水準	換金のしやすさ	過去の分配金額	商品内容のわかりやすさ	分配頻度の多さ	商品コンセプト	評価会社による評価	純資産額の大きさ	その他	特になし	(%)
TOTAL		(4914)	49.0	35.9	22.1	12.4	11.7	9.1	9.0	8.3	6.4	5.8	5.3	1.0	17.0	
性別	男性	(2568)	44.9	38.7	24.5	12.9	11.1	9.8	7.3	8.8	7.2	5.0	5.8	0.4	16.3	
	女性	(2346)	53.5	32.8	19.5	11.8	12.4	8.4	10.9	7.6	5.5	6.7	4.6	1.6	17.6	
年代別	20代	(208)	33.2	36.1	26.0	20.7	11.5	8.7	9.1	9.6	6.3	7.7	10.1	0.0	14.4	
	30代	(454)	45.8	41.2	26.4	17.2	9.9	8.4	9.3	6.6	6.4	5.7	8.4	0.0	13.7	
	40代	(714)	48.3	40.5	26.5	13.7	10.1	7.8	10.1	7.4	8.5	5.7	5.3	0.7	12.9	
	50代	(815)	50.9	37.1	23.3	13.0	12.1	8.3	8.6	7.1	8.8	5.2	5.3	0.9	15.8	
	60代	(1438)	51.8	31.8	18.0	11.8	12.0	9.0	9.7	7.9	5.5	6.7	4.5	0.9	19.0	
	70代	(1285)	48.8	35.2	21.2	8.9	12.8	10.8	7.9	10.3	4.6	5.0	4.1	1.9	19.2	
世帯年収別	100万円未満	(173)	45.1	27.7	21.4	8.7	9.8	6.9	6.9	6.4	2.9	5.2	3.5	1.2	24.9	
	～300万円未満	(805)	49.2	35.7	17.8	8.9	12.7	7.1	8.6	8.2	5.8	5	4.1	0.7	22.1	
	～500万円未満	(1176)	49.7	37.4	21.3	12.7	12.2	9.2	8.4	7.8	6	6.9	5.3	1.0	15.6	
	～1000万円未満	(1400)	49.3	39.6	24.5	14.0	12.4	10.9	10.2	8.1	7.9	5.7	7.2	0.6	11.9	
	1000万円以上	(451)	48.6	37.7	28.8	17.7	12.9	9.5	9.3	10.6	8	5.1	5.3	1.1	11.8	

〔図 5-4〕

		n=	安全性の高さ	値上りの期待	過去の運用実績	手数料や運用管理費の水準	換金のしやすさ	過去の分配金額	商品内容のわかりやすさ	分配頻度の多さ	商品コンセプト	評価会社による評価	純資産額の大きさ	その他	特になし	(%)
TOTAL		(4914)	49.0	35.9	22.1	12.4	11.7	9.1	9.0	8.3	6.4	5.8	5.3	1.0	17.0	
投資信託保有状況別	現在保有層	(3197)	48.5	38.4	23.2	12.4	9.8	10.5	8.0	10.4	7.1	5.9	6.8	1.0	13.6	
	保有経験層(現在非保有)	(1717)	50.1	31.2	20.0	12.2	15.3	6.6	10.9	4.2	5.1	5.6	2.4	0.9	23.1	
投資信託種類別(現在保有)	株式投資信託保有層	(1840)	48.3	44.3	26.3	16.1	9.8	11.9	8.6	10.3	9.0	7.0	8.6	1.1	7.7	
	公社債投資信託のみ保有層	(214)	58.4	27.1	26.2	8.9	11.7	5.1	8.4	7.5	2.8	4.7	2.3	0.9	9.8	
	その他投資信託保有層	(569)	52.9	39.7	21.8	9.1	12.7	12.7	9.1	17.0	6.7	6.5	6.3	0.7	9.5	

5. 投資信託購入状況（現在保有層・保有経験層）

(2) 分配金の特徴認知内容〔Q9:重複回答〕

- 特徴のうち、「運用成績によって変動」は71.5%と大半の人に認知されている。次いで「運用成績が良くない時は支払われない場合がある」(54.0%)、「投資信託の決算ごとに支払われる」(47.0%)の順に高い。年代別でみると、「運用成績で変動」「支払われない場合がある」は上の年代ほど高い。また「元本の一部が払い戻されることもある」は20代(41.3%)で最も高くなる。〔図5-5〕
- 投信保有種類別では、株式投信保有層で他層に比べどの項目も高くなる。〔図5-6〕

〔図 5-5〕

		n=	分配金額は、 運用成績に よって変動する	運用成績が良くない時は 分配金が支払われない場合がある	分配金は投資 信託の決算 ごとに支払われる	分配金として 元本の一部が払い 戻されることもある	分配金が支払 われた額だけ、基準 価額が下がる	この中で 知っている ものはない (%)
TOTAL		(4914)	71.5	54.0	47.0	36.4	31.5	15.5
性別	男性	(2568)	70.6	53.9	49.4	37.5	33.3	16.3
	女性	(2346)	72.5	54.1	44.4	35.1	29.7	14.7
年代別	20代	(208)	58.7	45.7	50.0	41.3	34.6	19.7
	30代	(454)	64.5	53.7	47.8	38.8	32.4	21.1
	40代	(714)	66.9	50.7	51.0	31.7	29.3	18.9
	50代	(815)	71.2	53.1	45.8	34.2	27.2	16.4
	60代	(1438)	73.4	54.1	44.6	36.6	32.2	14.3
	70代	(1285)	76.7	57.8	47.5	38.4	34.0	11.7
世帯年収別	100万円未満	(173)	60.1	46.8	43.9	25.4	22.0	21.4
	～300万円未満	(805)	69.1	50.7	42.2	35.5	28.4	18.3
	～500万円未満	(1176)	74.4	53.3	45.6	34.8	31.0	14.2
	～1000万円未満	(1400)	73.1	57.3	51.1	38.7	33.5	12.5
	1000万円以上	(451)	72.3	59.6	53.4	43.0	39.5	14.0

〔図 5-6〕

		n=	分配金額は、 運用成績に よって変動する	運用成績が良くない時は 分配金が支払われない場合がある	分配金は投資 信託の決算 ごとに支払われる	分配金として 元本の一部が払い 戻されることもある	分配金が支払 われた額だけ、基準 価額が下がる	この中で 知っている ものはない (%)
TOTAL		(4914)	71.5	54.0	47.0	36.4	31.5	15.5
投資信託保有状況別	現在保有層	(3197)	74.1	56.5	50.6	42.3	37.2	13.0
	保有経験層 (現在非保有)	(1717)	66.6	49.4	40.3	25.3	21.0	20.2
投資信託保有種類別 現在	株式投資信託保有層	(1840)	80.3	65.9	58.3	48.8	44.9	6.6
	公社債投資信託のみ保有層	(214)	73.8	42.1	40.2	31.3	26.6	12.6
	その他投資信託保有層	(569)	79.6	58.7	53.6	46.2	36.6	8.3

5. 投資信託購入状況（現在保有層・保有経験層）

(3) 償還・売却資金の流出先〔Q10:重複回答〕

- 投資信託の償還・売却資金は「預貯金」(34.9%)に回されることが最も多く、また「生活資金」(24.0%)、「株式・債券の購入」(23.5%)で使われることが「他の投資信託の購入」(20.7%)に使われることよりも多くなる模様。

世帯年収別でみると、年収が高い層ほど「株式・債券の購入」「他の投信購入」が多く、反対に年収が低い層ほど「生活資金」に回す割合が多くなる。〔図5-7〕

- 投信の保有経験層では、「預貯金」「生活資金」に回されることが多い。また株式投信保有層は他層に比べ、「株式・債券購入」や「他の投信購入」が多くなる。〔図5-8〕

〔図 5-7〕

		n=	預貯金に まわした	生活資金に まわした	株式、債券を 購入した	他の投資信託 を購入した	不動産などの 購入にあてた	その他	売却経験なし/ 償還でお金を 得たことはない (%)
TOTAL		(4914)	34.9	24.0	23.5	20.7	3.7	2.2	21.8
性別	男性	(2568)	30.5	24.7	28.8	19.5	4.4	1.8	24.2
	女性	(2346)	39.7	23.3	17.8	21.9	3.0	2.7	19.1
年代別	20代	(208)	29.3	22.1	30.8	20.2	5.3	1.0	31.7
	30代	(454)	30.4	19.8	23.8	19.4	3.5	0.7	33.9
	40代	(714)	33.2	24.4	21.4	16.4	2.8	1.4	27.9
	50代	(815)	35.0	26.0	21.5	18.8	3.6	2.5	21.5
	60代	(1438)	35.8	25.4	23.3	21.8	4.5	2.4	18.8
	70代	(1285)	37.2	22.9	25.0	23.4	3.2	3.1	16.0
世帯 年収別	100万円未満	(173)	28.9	35.3	19.1	15.0	5.2	1.7	20.2
	～300万円未満	(805)	33.8	28.8	20.2	20.0	2.2	1.7	20.6
	～500万円未満	(1176)	35.5	24.2	22.9	19.7	3.7	2.7	22.0
	～1000万円未満	(1400)	34.4	21.8	27.6	21.4	4.0	2.5	22.6
	1000万円以上	(451)	34.6	16.9	31.9	27.7	5.8	2.2	21.3

〔図 5-8〕

		n=	預貯金に まわした	生活資金に まわした	株式、債券を 購入した	他の投資信託 を購入した	不動産などの 購入にあてた	その他	売却経験なし/ 償還でお金を 得たことはない (%)
TOTAL		(4914)	34.9	24.0	23.5	20.7	3.7	2.2	21.8
投資 状況 別	現在保有層	(3197)	29.0	19.0	25.3	28.9	2.5	1.8	27.9
	保有経験層 (現在非保有)	(1717)	45.9	33.4	20.3	5.4	6.0	3.1	10.4
投資 信託 種類 別 現在	株式投資信託保有層	(1840)	30.3	20.0	30.8	35.2	2.4	1.8	23.5
	公社債投資信託 のみ保有層	(214)	34.6	18.2	26.6	19.2	0.0	0.9	19.6
	その他投資信託保有層	(569)	27.9	21.1	17.8	27.9	3.9	2.3	27.2

5. 投資信託購入状況（現在保有層・保有経験層）

(4) 投資信託の優れていると感じる点〔Q11①：重複回答〕

- 他金融商品と比較して、「少額でも分散投資できる」(38.1%)、「専門知識がなくても投資できる」(37.5%)、「定期的に分給金が受け取れる」(30.0%)が投資信託の優れた点として上位にあがる。年代別でみると、若年層ほど「少額から分散投資できる」「少額でも投資の面白味がある」「積立投資ができる」「手数料が比較的安い」が高く、高齢層ほど「定期的に分給金が受け取れる」が高い。また50代以上で「比較的高い利回りが期待できる」が高くなる。〔図5-9〕
- 投信現在保有層は保有経験層に比べどの項目も高いが、中でも「少額で分散投資できる」「専門知識がなくても投資できる」「定期的に分給金が受け取れる」「分給金が自動再投資される商品がある」が高くなる。〔図5-10〕

〔図 5-9〕

		n=	少額でも分散投資ができる	専門知識がなくても投資ができる	定期的に分給金が受け取れる	比較的高い利回りが期待できる	少額でも投資の面白味がある	購入手続きが簡単である	積立投資ができる	分給金が自動的に再投資される商品がある	種類が豊富で目的に応じたものが選べる	海外投資が手軽にできる	手数料が比較的安い	購入後の運用に関する情報が	その他	わからない・特にない	(%)
TOTAL		(4914)	38.1	37.5	30.0	22.9	21.6	18.8	18.3	17.7	16.2	8.3	6.7	4.2	0.3	21.6	
性別	男性	(2568)	43.1	37.8	28.1	23.3	23.2	19.5	19.9	18.8	18.3	9.4	7.8	5.3	0.3	20.1	
	女性	(2346)	32.7	37.2	32.0	22.5	19.7	18.1	16.6	16.4	13.9	7.1	5.5	3.0	0.3	23.2	
年代別	20代	(208)	56.7	35.6	18.3	14.9	32.7	20.2	28.4	16.3	19.2	11.1	11.5	7.2	0.0	16.3	
	30代	(454)	54.8	34.1	21.1	17.2	25.3	19.4	28.4	16.5	16.3	9.7	12.1	3.5	0.2	17.8	
	40代	(714)	43.6	34.6	20.0	18.2	25.2	17.2	22.0	13.0	14.7	8.3	6.9	4.2	0.3	21.1	
	50代	(815)	38.4	34.7	24.0	25.9	20.7	15.2	18.4	16.2	15.0	7.2	6.1	2.7	0.1	21.5	
	60代	(1438)	31.3	36.7	35.0	25.6	19.1	18.2	15.6	18.4	16.6	8.9	6.2	4.7	0.1	24.3	
	70代	(1285)	33.7	43.3	38.6	24.0	19.6	22.3	14.0	21.0	16.7	7.4	4.9	4.4	0.6	21.1	
世帯年収別	100万円未満	(173)	30.6	30.1	30.1	20.2	15.6	14.5	11.0	10.4	9.2	6.4	4.6	3.5	0.0	28.9	
	～300万円未満	(805)	36.8	37.1	32.4	22.1	19.8	19.0	15.9	16.9	14.8	7.6	5.2	3.9	0.1	23.7	
	～500万円未満	(1176)	36.6	41.2	34.0	23.4	22.1	19.6	16.9	19.0	16.6	8.5	6.8	3.7	0.3	18.5	
	～1000万円未満	(1400)	44.7	38.5	26.4	25.3	24.8	20.9	23.0	19.1	18.8	9.6	8.3	4.9	0.3	16.6	
	1000万円以上	(451)	43.5	37.7	28.2	27.9	26.2	21.5	20.6	17.7	16.6	10.2	10.0	4.4	0.2	18.4	

〔図 5-10〕

		n=	少額でも分散投資ができる	専門知識がなくても投資ができる	定期的に分給金が受け取れる	比較的高い利回りが期待できる	少額でも投資の面白味がある	購入手続きが簡単である	積立投資ができる	分給金が自動的に再投資される商品がある	種類が豊富で目的に応じたものが選べる	海外投資が手軽にできる	手数料が比較的安い	購入後の運用に関する情報が	その他	わからない・特にない	(%)
TOTAL		(4914)	38.1	37.5	30.0	22.9	21.6	18.8	18.3	17.7	16.2	8.3	6.7	4.2	0.3	21.6	
投資信託保有状況別	現在保有層	(3197)	42.6	40.4	33.8	25.0	22.4	20.6	20.6	21.4	17.5	9.6	7.2	4.4	0.2	17.0	
	保有経験層(現在非保有)	(1717)	29.9	32.1	22.8	19.0	19.9	15.6	14.0	10.7	13.7	5.9	5.8	3.8	0.4	30.2	
投資信託種類別現在	株式投資信託保有層	(1840)	49.6	45.8	35.6	26.4	25.2	25.4	26.2	26.2	22.6	10.7	8.2	5.2	0.3	10.8	
	公社債投資信託のみ保有層	(214)	38.8	30.4	28.5	21.0	20.1	13.6	13.1	10.3	11.2	4.7	4.2	3.7	0.5	17.3	
	その他投資信託保有層	(569)	41.5	44.1	45.2	34.3	25.0	20.0	16.2	21.8	15.5	14.8	7.2	4.9	0.0	10.7	

5. 投資信託購入状況（現在保有層・保有経験層）

(4) 投資信託で特に魅力を感じる点〔Q11②：単数回答〕

- 投信の優れた点の中で、特に魅力なのは「専門知識がなくても投資できる」(17.5%)、「少額でも分散投資できる」(15.4%)、「定期的に分配金が受け取れる」(13.0%)が上位。年代別の傾向は優れている点と同様で、若年層ほど「少額から分散投資できる」「少額でも投資の面白味がある」「積立投資できる」が高く、高齢層ほど「定期的に分配金が受け取れる」が高くなる。また50代以上で「高い利回りが期待できる」、70代で「専門知識がなくても投資できる」が高くなる。世帯年収別では、年収が低い層ほど「定期的に分配金が受け取れる」に魅力を感じている。〔図5-11〕
- 投信の現在保有層は保有経験層に比べ、「定期的に分配金が受け取れる」「少額でも分散投資できる」がやや高くなる。〔図5-12〕

〔図 5-11〕

		n=	専門知識がなくても投資できる	少額でも分散投資できる	定期的に分配金が受け取れる	比較的高い利回りが期待できる	少額でも投資の面白味がある	積立投資ができる	種類が豊富で目的に応じたものが選べる	購入手続きが簡単である	分配金が自動的に再投資される商品がある	海外投資が手軽にできる	手数料が比較的安い	購入後の運用に関する情報が	その他	わからない・特にない	(%)
TOTAL		(4914)	17.5	15.4	13.0	10.2	6.6	4.6	3.2	2.5	2.2	1.3	1.2	0.5	0.2	21.6	
性別	男性	(2568)	16.7	18.4	10.4	9.9	6.8	5.6	3.5	2.5	2.4	1.6	1.2	0.5	0.3	20.1	
	女性	(2346)	18.3	12.2	15.8	10.5	6.3	3.5	2.8	2.5	2.0	0.9	1.3	0.4	0.2	23.2	
年代別	20代	(208)	14.9	29.3	5.3	5.3	12.5	7.2	2.4	1.9	1.0	1.4	1.9	0.5	0.0	16.3	
	30代	(454)	14.8	26.4	6.2	6.8	8.1	9.7	1.5	2.2	2.4	2.0	1.5	0.2	0.2	17.8	
	40代	(714)	15.8	19.6	7.3	8.3	8.5	8.4	2.8	2.5	1.1	2.1	1.5	0.7	0.1	21.1	
	50代	(815)	16.4	17.7	11.4	11.9	6.7	4.5	2.7	1.7	2.2	1.5	1.3	0.4	0.0	21.5	
	60代	(1438)	16.1	10.9	16.8	11.9	5.6	3.1	3.9	2.7	2.1	1.2	0.9	0.5	0.1	24.3	
	70代	(1285)	22.0	10.7	16.6	10.4	5.0	2.0	3.7	3.0	3.0	0.5	1.1	0.5	0.6	21.1	
世帯年収別	100万円未満	(173)	12.1	16.2	18.5	9.8	5.8	2.9	1.2	1.7	1.2	0.6	0.6	0.6	0.0	28.9	
	～300万円未満	(805)	17.4	13.3	15.3	9.8	5.5	2.9	3.9	3.2	2.9	0.4	1.1	0.6	0.1	23.7	
	～500万円未満	(1176)	19.0	14.5	15.5	10.0	7.1	4.3	2.6	3.1	2.1	1.6	1.3	0.4	0.2	18.5	
	～1000万円未満	(1400)	18.6	17.5	9.4	12.4	7.9	6.0	3.3	2.4	2.4	1.6	1.4	0.4	0.2	16.6	
	1000万円以上	(451)	19.3	19.1	9.5	11.1	6.4	5.1	4.0	1.8	1.1	1.6	2.0	0.4	0.2	18.4	

〔図 5-12〕

		n=	専門知識がなくても投資できる	少額でも分散投資できる	定期的に分配金が受け取れる	比較的高い利回りが期待できる	少額でも投資の面白味がある	積立投資ができる	種類が豊富で目的に応じたものが選べる	購入手続きが簡単である	分配金が自動的に再投資される商品がある	海外投資が手軽にできる	手数料が比較的安い	購入後の運用に関する情報が	その他	わからない・特にない	(%)
TOTAL		(4914)	17.5	15.4	13.0	10.2	6.6	4.6	3.2	2.5	2.2	1.3	1.2	0.5	0.2	21.6	
投資信託保有状況別	現在保有層	(3197)	18.1	17.0	15.5	10.6	5.8	5.2	2.9	2.4	2.3	1.5	1.2	0.4	0.2	17.0	
	保有経験層(現在非保有)	(1717)	16.2	12.6	8.4	9.4	7.9	3.6	3.7	2.7	2.0	0.9	1.3	0.5	0.4	30.2	
投資信託種類別(現在)	株式投資信託保有層	(1840)	20.0	18.7	15.2	10.8	5.8	6.3	3.8	2.6	2.4	1.8	1.1	0.5	0.2	10.8	
	公社債投資信託のみ保有層	(214)	17.3	21.0	13.1	11.2	7.5	4.2	2.3	1.9	1.4	1.4	0.9	0.0	0.5	17.3	
	その他投資信託保有層	(569)	17.8	14.8	22.3	14.1	7.0	3.0	2.6	2.6	2.1	1.4	1.1	0.5	0.0	10.7	

5. 投資信託購入状況（現在保有層・保有経験層）

(5) 投資信託で不満を感じる点〔Q12①：重複回答〕

- 他金融商品と比較での投信の不満点は、「元本保証がない」(53.7%)が突出。次いで「仕組みや実績がわかりにくい」(26.1%)、「手数料が高い」(23.8%)、「専門知識がないと商品を選びにくい」(20.6%)が上位に続く。年代別でみると若年層ほど「手続きがわずらわしい」が、高齢層ほど「元本保証がない」「仕組みや実績分りにくい」「手数料が高い」「公社債よりリスクが高い」「運用情報が少ない」との不満が高くなる。また40代以下は「リターン低い」、60代は「株式に比べ面白さに欠ける」が高い。世帯年収別では上の階層ほど「リターン低い」が、下の階層ほど「元本保証ない」が高くなる。〔図5-13〕
- 投信保有種類別では、株式投信保有層で「株式に比べ面白さに欠ける」が他層より高い。〔図5-14〕

〔図 5-13〕

		n=	元本保証がない	仕組みや実績がわかりにくい	手数料が高い	専門知識がないと商品を選びにくい	リターンが低い	公社債に比べてリスクが高い	種類が多く迷う	株式に比べて面白さに欠ける	分配金が少ない	購入後の運用に関する情報が少ない	クロード期間がある	手続きがわずらわしい	近くに取扱い店舗が少ない	その他	わからない・特にな	(%)
TOTAL		(4914)	53.7	26.1	23.8	20.6	19.4	15.8	14.9	14.7	12.4	9.8	6.9	6.3	2.6	0.4	14.8	
性別	男性	(2568)	44.9	22.7	22.9	15.9	22.4	13.4	14.1	17.7	12.9	8.3	6.9	5.4	2.6	0.5	17.0	
	女性	(2346)	63.2	29.8	24.7	25.8	16.1	18.4	15.7	11.5	11.8	11.4	6.9	7.4	2.6	0.4	12.4	
年代別	20代	(208)	34.6	21.2	19.7	15.9	20.7	9.6	16.8	16.8	13.5	7.2	7.2	14.9	2.9	0.0	16.8	
	30代	(454)	43.8	20.5	14.5	19.6	26.4	8.6	16.3	10.8	14.8	6.4	6.8	9.7	4.0	0.2	17.4	
	40代	(714)	49.7	25.4	21.8	21.1	22.4	11.1	15.1	11.8	12.6	8.1	5.3	8.5	2.0	0.4	15.1	
	50代	(815)	53.4	26.7	23.4	24.0	16.9	13.9	14.0	10.3	11.0	8.5	8.1	8.0	3.1	0.5	14.5	
	60代	(1438)	56.0	25.8	26.9	20.3	18.2	17.8	14.5	15.4	10.5	10.6	6.8	5.3	2.5	0.4	15.3	
	70代	(1285)	60.0	29.2	25.4	19.7	17.9	21.0	14.8	19.5	14.2	12.2	7.1	2.7	2.3	0.6	13.0	
世帯年収別	100万円未満	(173)	56.6	18.5	22.0	17.9	16.8	15.6	14.5	8.7	13.3	8.1	5.2	9.2	4.0	0.6	16.2	
	～300万円未満	(805)	57.8	27.6	21.9	20.5	17.9	17.9	13.4	15.0	13.3	9.2	6.0	5.2	2.4	0.6	16.4	
	～500万円未満	(1176)	53.8	27.2	23.0	23.0	20.6	14.6	15.4	16.5	11.6	12.4	6.0	4.8	2.5	0.3	13.3	
	～1000万円未満	(1400)	51.9	25.4	24.4	19.9	20.5	16.4	16.7	15.1	12.3	8.8	6.9	6.8	2.6	0.5	11.7	
	1000万円以上	(451)	49.0	23.7	26.2	18.6	24.6	13.7	12.6	16.2	12.4	8.6	9.1	8.6	2.0	0.0	12.6	

〔図 5-14〕

		n=	元本保証がない	仕組みや実績がわかりにくい	手数料が高い	専門知識がないと商品を選びにくい	リターンが低い	公社債に比べてリスクが高い	種類が多く迷う	株式に比べて面白さに欠ける	分配金が少ない	購入後の運用に関する情報が少ない	クロード期間がある	手続きがわずらわしい	近くに取扱い店舗が少ない	その他	わからない・特にな	(%)
TOTAL		(4914)	53.7	26.1	23.8	20.6	19.4	15.8	14.9	14.7	12.4	9.8	6.9	6.3	2.6	0.4	14.8	
投資信託保有状況別	現在保有層	(3197)	53.2	26.4	25.8	20.1	19.0	15.4	16.0	14.7	12.1	9.6	6.2	5.9	2.3	0.4	14.3	
	保有経験層(現在非保有)	(1717)	54.5	25.5	20.0	21.7	20.0	16.6	12.6	14.7	12.9	10.1	8.2	7.1	3.1	0.5	15.8	
投資信託保有種類別(現在)	株式投資信託保有層	(1840)	53.8	27.7	29.7	21.7	22.2	16.2	18.4	18.5	13.1	10.7	7.2	6.1	2.7	0.4	9.9	
	公社債投資信託のみ保有層	(214)	56.1	27.1	20.6	16.8	15.0	15.0	10.3	10.7	15.4	8.9	6.5	7.0	2.3	0.5	9.3	
	その他投資信託保有層	(569)	58.7	29.2	26.5	21.1	18.6	20.6	17.9	11.8	10.4	12.0	6.7	5.3	2.5	0.5	8.8	

5. 投資信託購入状況（現在保有層・保有経験層）

(5) 投資信託で特に不満を感じる点〔Q12②：単数回答〕

- 投信の不満点の中で特に不満を感じるのは、「元本保証がない」(32.5%)が突出。次いで「手数料が比較的高い」(10.7%)があがる。以下はいずれも10%に満たず分散傾向。年代別でみると、若年層ほど「専門知識がないと選びにくい」が、高齢層ほど「元本保証がない」「公社債に比べリスク高い」が増す傾向。40代以下では「リターンが低い」「種類が多く迷う」が50代以上に比べやや高く、また20代では「手続きがわずらわしい」もやや高くなる。世帯年収別では上の階層ほど「手数料が高い」「リターンが低い」が高く、下の階層ほど「元本保証がない」「公社債に比べリスク高い」が高くなる。〔図5-15〕
- 投信保有種類別では、株式投信保有層で「元本保証がない」が他層より低くなる。〔図5-16〕

〔図 5-15〕

	n=	元本保証がない	手数料が比較的高い	仕組みや運用実績がわかりにくい	リターンが低い	専門知識がないと商品を選びにくい	株式に比べて面白さやリスクが高い	公社債に比べてリスクが高い	種類が多く迷う	分配金が少ない	購入後の運用に関する情報が少ない	手続きがわずらわしい	クロージング期間がある	近くに取扱い店舗が少ない	その他	わからない・特にない	(%)
TOTAL	(4914)	32.5	10.7	7.9	6.7	5.5	4.9	4.6	3.4	3.0	2.4	1.6	1.1	0.7	0.3	14.8	
性別																	
男性	(2568)	25.1	12.0	7.7	8.8	5.2	6.7	4.2	3.7	3.7	2.2	1.5	1.2	0.7	0.4	17.0	
女性	(2346)	40.7	9.2	8.1	4.5	5.8	2.9	5.0	3.2	2.3	2.6	1.7	0.9	0.6	0.3	12.4	
年代別																	
20代	(208)	19.7	10.1	8.7	7.2	7.7	6.7	2.4	6.3	4.8	1.4	6.3	1.4	0.5	0.0	16.8	
30代	(454)	28.2	7.9	7.9	10.4	7.7	4.8	1.5	4.4	3.5	1.8	2.0	1.3	0.9	0.2	17.4	
40代	(714)	28.6	10.5	8.7	9.1	5.2	3.8	2.9	5.5	3.6	2.0	2.9	0.8	0.8	0.4	15.1	
50代	(815)	34.2	11.3	7.5	6.5	6.9	2.8	3.7	2.9	3.1	2.1	2.5	1.2	0.6	0.2	14.5	
60代	(1438)	34.2	12.2	7.4	6.2	4.4	4.8	6.0	2.9	1.5	2.6	0.8	0.8	0.7	0.2	15.3	
70代	(1285)	35.3	9.8	8.0	4.7	4.8	6.5	5.9	2.4	4.0	2.9	0.3	1.2	0.5	0.5	13.0	
世帯年収別																	
100万円未満	(173)	37.6	9.2	2.9	6.4	7.5	2.3	5.8	4.6	2.3	1.7	1.7	0.0	1.2	0.6	16.2	
～300万円未満	(805)	35.0	9.2	9.3	3.7	5.0	5.3	5.6	3.0	3.6	1.2	1.2	0.7	0.4	0.2	16.4	
～500万円未満	(1176)	33.6	10.6	9.0	7.2	6.0	5.5	4.1	2.6	3.0	3.1	1.0	0.6	0.3	0.2	13.3	
～1000万円未満	(1400)	29.5	11.5	8.0	8.1	5.9	5.9	4.6	4.1	3.2	2.6	2.1	1.4	0.9	0.4	11.7	
1000万円以上	(451)	29.3	15.3	6.0	11.3	4.9	3.3	3.8	3.5	2.2	2.0	2.9	2.2	0.7	0.0	12.6	

〔図 5-16〕

	n=	元本保証がない	手数料が比較的高い	仕組みや運用実績がわかりにくい	リターンが低い	専門知識がないと商品を選びにくい	株式に比べて面白さやリスクが高い	公社債に比べてリスクが高い	種類が多く迷う	分配金が少ない	購入後の運用に関する情報が少ない	手続きがわずらわしい	クロージング期間がある	近くに取扱い店舗が少ない	その他	わからない・特にない	(%)
TOTAL	(4914)	32.5	10.7	7.9	6.7	5.5	4.9	4.6	3.4	3.0	2.4	1.6	1.1	0.7	0.3	14.8	
投資信託保有状況別																	
現在保有層	(3197)	32.3	11.9	8.4	6.7	5.2	4.8	4.0	3.7	3.0	2.3	1.5	1.0	0.6	0.3	14.3	
保有経験層(現在非保有)	(1717)	32.9	8.4	6.9	6.8	5.9	5.0	5.7	2.9	3.1	2.4	1.7	1.2	0.8	0.4	15.8	
投資信託保有種類別(現在)																	
株式投資信託保有層	(1840)	29.7	14.4	8.6	8.0	5.8	6.1	3.6	4.2	3.2	2.7	1.5	1.3	0.7	0.4	9.9	
公社債投資信託のみ保有層	(214)	37.4	9.8	9.3	4.7	7.5	2.8	5.6	3.3	5.6	1.9	1.4	0.0	1.4	0.0	9.3	
その他投資信託保有層	(569)	40.2	10.7	8.4	6.0	4.6	3.9	5.4	3.5	1.9	3.2	1.9	0.9	0.5	0.0	8.8	

6. 投資信託保有未経験者の状況 (金融資産保有未経験層を含む)



6. 投資信託保有未経験者の状況（金融資産保有未経験層を含む）

(1) 投資信託の非購入理由〔Q26:重複回答〕

- 投信保有未経験層の投信非購入理由は、「興味がない」(48.0%)が最も高く、「投資知識がない」(36.5%)、「投信の仕組みがよくわからない」(23.4%)、「損しそうで怖い」(21.6%)が続く。年代別でみると、「興味がない」は30代で最も低くなり年代の上昇とともに増加。反対に「投資知識がない」「投信の仕組みが分からない」「損しそうで怖い」「投信を検討する時間がない」「種類が多く選択できない」は、30代でピークとなり年代の上昇とともに減少する。また世帯年収別でみると、他層に比べ年収100～500万円の世帯では、「まとまった資金がない」がやや高くなる。〔図6-1〕
- 投資信託の保有経験が無く、金融資産保有経験のない層では、「興味がない」が50.2%と半数を超え高い。一方で金融資産の保有経験がある層では「元本保証がないので」(25.4%)が他層に比べやや高い。〔図6-2〕

〔図 6-1〕

		n=	そもそも興味がない	投資の知識がない	投資信託の仕組みがよくわからない	損をしそうで怖い	元本保証がない	まとまった資金がない	手数料など費用が高い	少額では購入しづらい	なんとなく機会がなかった	値動きに気をとられるのが嫌	商品種類が多く自分で選択できない	株式と同様に値上がり値下がり激しいので	富裕層が実施するものなので	自分に合った投信を検討する時間的余裕がない	(%)
TOTAL		(15086)	48.0	36.5	23.4	21.6	19.8	19.1	9.7	8.6	8.3	6.0	5.8	5.7	5.5	5.5	
性別	男性	(7349)	47.4	32.1	19.2	18.3	17.6	18.9	10.1	9.1	9.1	5.1	5.2	4.8	4.9	5.1	
	女性	(7737)	48.6	40.7	27.4	24.8	21.8	19.3	9.3	8.2	7.6	6.8	6.4	6.5	6.2	6.0	
年代別	20代	(2539)	50.8	38.8	26.3	20.4	9.6	15.4	8.1	7.3	10.6	5.1	4.5	3.4	4.8	5.1	
	30代	(2985)	42.9	44.1	29.4	27.0	17.4	20.0	10.2	9.4	9.9	6.6	7.0	5.7	6.6	8.2	
	40代	(3184)	44.3	39.6	24.9	24.0	21.2	21.8	10.3	9.7	9.2	6.4	6.1	5.2	6.9	6.2	
	50代	(2415)	46.4	35.4	21.9	21.8	25.0	21.0	11.4	9.8	7.2	6.3	6.7	6.7	5.6	5.1	
	60代	(2326)	53.7	30.3	18.4	18.1	24.8	17.6	9.4	7.1	5.4	5.1	4.8	7.2	4.3	3.9	
	70代	(1637)	54.3	23.7	14.6	13.7	22.0	17.8	8.1	7.8	6.1	5.7	5.3	6.7	3.7	3.1	
世帯年収別	100万円未満	(721)	52.1	31.8	20.2	21.1	16.0	18.6	9.0	5.1	6.7	4.6	3.2	5.3	5.3	4.2	
	～300万円未満	(2587)	47.7	36.5	23.6	21.6	19.4	23.6	10.5	9.4	6.8	5.0	5.8	5.8	6.8	4.1	
	～500万円未満	(3155)	43.0	39.6	24.9	23.4	21.9	22.9	10.0	10.0	9.6	5.8	6.4	6.2	6.2	6.1	
	～1000万円未満	(3280)	39.1	41.8	26.1	25.5	23.7	19.6	10.4	10.8	10.4	7.5	7.0	6.1	5.9	8.0	
	1000万円以上	(676)	41.1	34.6	24.1	22.5	25.1	14.3	10.4	8.0	10.4	9.5	8.1	5.8	4.7	7.7	

〔図 6-2〕

		n=	そもそも興味がない	投資の知識がない	投資信託の仕組みがよくわからない	損をしそうで怖い	元本保証がない	まとまった資金がない	手数料など費用が高い	少額では購入しづらい	なんとなく機会がなかった	値動きに気をとられるのが嫌	商品種類が多く自分で選択できない	株式と同様に値上がり値下がり激しいので	富裕層が実施するものなので	自分に合った投信を検討する時間的余裕がない	(%)
TOTAL		(15086)	48.0	36.5	23.4	21.6	19.8	19.1	9.7	8.6	8.3	6.0	5.8	5.7	5.5	5.5	
投資信託保有状況別	保有未経験層 (金融資産保有経験有)	(2370)	36.1	35.2	23.7	20.2	25.4	18.0	13.0	9.1	9.7	7.8	7.2	8.1	4.2	7.6	
	保有未経験層 (金融資産保有経験無)	(12716)	50.2	36.7	23.4	21.9	18.7	19.3	9.1	8.5	8.1	5.6	5.6	5.3	5.8	5.2	

※TOTALで5pt.以上を抜粋

6. 投資信託保有未経験者の状況（金融資産保有未経験層を含む）

(2) 投資信託購入検討のきっかけ〔Q27:重複回答〕

- 投資信託購入検討のきっかけでは、目立って高い項目はみられず分散傾向。
上位には「金融や投資を勉強して理解できたら」(21.6%)、「手取りが増えたら」(21.2%)、「身近な人に勧められたら」(19.8%)があがる。年代別では、「手取り増加」「貯蓄が一定額に達したら」「低リスク商品の充実」「初心者セミナーなどがあれば」「専門家に教えてもらえたら」が30代をピークに、年代の上昇とともに減少する傾向。世帯年収別でみると年収100～500万円世帯では、他層に比べ「手取り収入が増えたら」がやや高くなる。〔図6-3〕
- 投資保有状況別でみると、金融資産の保有経験がある層では「低リスク／手数料の低い商品の充実」が、保有経験のない層では「手取り増加」「身近な人の勧め」が他層に比べやや高い。〔図6-4〕

〔図 6-3〕

		n=	金融や投資を勉強して理解できたら	手取り収入が増えたら	身近な人に勧められたら	税制上の優遇措置が、より拡充できた	貯蓄が一定額に達したら	経済が向上になり値上がり期待できる様になったら	低リスクの投信商品が充実してきたら	初心者向けセミナーなど説明機会があれば	金融機関などで専門知識を持つ人に教えてもらえたら	手数料の低い投信商品が充実してきたら	退職金・相続などでの臨時収入があったら	その他 (%)
TOTAL		(15086)	21.6	21.2	19.8	15.4	15.1	14.5	14.2	13.5	13.2	9.8	6.1	11.6
性別	男性	(7349)	20.9	23.3	16.5	19.7	16.3	14.5	12.4	12.3	12.5	9.2	6.2	11.1
	女性	(7737)	22.3	19.2	22.9	11.3	14.0	14.5	16.0	14.6	13.8	10.4	6.0	12.0
年代別	20代	(2539)	25.2	23.6	29.7	16.1	17.3	12.4	12.4	16.8	16.3	8.2	3.3	8.4
	30代	(2985)	25.2	27.1	26.3	14.7	17.5	14.1	16.1	17.2	17.6	11.0	4.9	7.8
	40代	(3184)	22.7	26.5	20.2	14.3	16.0	13.9	13.7	13.7	13.6	9.5	6.9	9.6
	50代	(2415)	20.3	20.4	13.9	16.6	14.9	15.7	15.3	11.1	12.1	10.9	9.6	11.7
	60代	(2326)	17.3	11.7	12.0	15.3	12.0	16.3	15.1	10.6	8.8	9.4	6.9	16.6
	70代	(1637)	15.6	10.8	11.7	16.1	10.8	15.3	11.9	8.9	7.1	9.7	4.4	20.0
世帯年収別	100万円未満	(721)	17.8	22.6	22.2	14.4	12.9	12.9	10.7	11.2	11.2	7.9	3.5	13.3
	～300万円未満	(2587)	20.3	24.2	18.8	13.5	15.2	13.9	13.4	13.7	12	8.8	6.3	12.3
	～500万円未満	(3155)	23.9	24.7	20.5	13.0	17.3	15.2	15.2	14.4	14.8	10.2	6.2	9.0
	～1000万円未満	(3280)	24.7	20.3	23.1	15.7	18.3	15.5	16.6	16.6	15.9	11.3	7.8	7.8
	1000万円以上	(676)	24.4	14.9	18.9	18.6	19.1	15.7	15.1	15.1	16	11.2	9.0	8.0

〔図 6-4〕

		n=	金融や投資を勉強して理解できたら	手取り収入が増えたら	身近な人に勧められたら	税制上の優遇措置が、より拡充できた	貯蓄が一定額に達したら	経済が向上になり値上がり期待できる様になったら	低リスクの投信商品が充実してきたら	初心者向けセミナーなど説明機会があれば	金融機関などで専門知識を持つ人に教えてもらえたら	手数料の低い投信商品が充実してきたら	退職金・相続などでの臨時収入があったら	その他 (%)
TOTAL		(15086)	21.6	21.2	19.8	15.4	15.1	14.5	14.2	13.5	13.2	9.8	6.1	11.6
投資信託保有状況別	保有未経験層 (金融資産保有経験有)	(2370)	23.6	16.1	16.4	17.4	17.0	16.5	18.0	14.7	14.4	14.4	7.0	9.4
	保有未経験層 (金融資産保有経験無)	(12716)	21.3	22.1	20.4	15.0	14.8	14.1	13.5	13.3	12.9	8.9	5.9	12.0

7. 投資信託全般に関する状況（全体）



7. 投資信託全般に関する状況（全体）

(1) 投資信託の商品特徴認知状況〔Q8:重複回答〕

- 投資信託の特徴では、「元本保証がない」(46.4%)が最も認知率が高く、「価格変動と為替リスクがある」(32.7%)、「国内と海外の投信がある」(32.2%)、「証券会社以外でも購入できる」(31.1%)が30%以上で続く。その一方で「知っているものはない」も39.9%と高い。

年代別、世帯年収別では、共に上の階層になるほど、どの項目も認知率は増す傾向。〔図7-1〕

- 投信保有種類別でみると、全体的に認知率は株式投信保有層で高く、公社債投信のみ保有層で低い。〔図7-2〕

〔図 7-1〕

		n=	元本の保証はない	価格変動と、外国に投資するものには為替リスクがある	国内の投資信託と海外の投資信託がある	銀行など、証券会社以外の金融機関でも購入できる	リスクとリターンは相反する関係にある	NISAやDCで投資信託が購入できる	投資信託は、運用会社が運用している	販売手数料とは別に運用管理費がかかる	投資信託の評価を行う会社が	MRFは投資信託商品である	基準価額は新聞や投信協会HPで見ることができる	信託銀行で分別保管されている	この中で知っているものはない
TOTAL		(20000)	46.4	32.7	32.2	31.1	27.9	23.4	20.9	16.0	10.0	9.5	9.3	6.2	39.9
性別	男性	(9917)	48.5	34.7	33.0	30.8	31.6	23.8	24.4	18.0	11.7	10.7	9.9	7.9	38.4
	女性	(10083)	44.4	30.8	31.5	31.3	24.2	23.0	17.5	14.1	8.3	8.3	8.7	4.5	41.5
年代別	20代	(2747)	22.9	19.4	17.9	15.5	18.2	14.2	10.8	7.0	6.9	5.2	4.7	3.3	60.9
	30代	(3439)	37.6	27.3	27.2	23.8	22.9	19.5	16.5	11.0	8.7	6.3	6.0	4.3	48.1
	40代	(3898)	46.9	30.6	29.8	27.7	26.1	21.6	18.6	14.6	9.1	8.7	7.4	5.3	40.9
	50代	(3230)	54.1	35.6	34.5	35.0	30.9	24.0	22.2	18.2	10.7	11.5	9.5	6.4	34.2
	60代	(3764)	55.7	39.5	39.3	39.9	34.0	29.0	26.9	21.8	11.9	11.7	12.2	8.0	30.0
	70代	(2922)	57.8	42.5	43.3	43.0	34.2	31.2	29.2	22.5	12.3	13.3	16.1	9.8	28.3
世帯年収別	100万円未満	(894)	33.0	20.7	21.1	20.1	19.7	15.1	10.4	9.3	5.4	7.4	6.3	2.8	53.1
	～300万円未満	(3392)	43.7	29.6	29.5	30.4	24.9	21.4	19.2	13.9	8.6	7.4	8.5	5.5	41.9
	～500万円未満	(4331)	50.2	35.3	35.0	34.0	30.2	24.7	23.2	17.0	10.2	9.7	9.5	6.2	35.0
	～1000万円未満	(4680)	57.1	41.2	40.8	37.6	35.8	29.0	27.4	20.8	13.0	12.3	11.1	8.3	28.6
	1000万円以上	(1127)	64.5	48.6	45.6	45.4	44.7	34.4	35.3	29.9	20.1	19.6	18.4	13.2	23.1

〔図 7-2〕

		n=	元本の保証はない	価格変動と、外国に投資するものには為替リスクがある	国内の投資信託と海外の投資信託がある	銀行など、証券会社以外の金融機関でも購入できる	リスクとリターンは相反する関係にある	NISAやDCで投資信託が購入できる	投資信託は、運用会社が運用している	販売手数料とは別に運用管理費がかかる	投資信託の評価を行う会社が	MRFは投資信託商品である	基準価額は新聞や投信協会HPで見ることができる	信託銀行で分別保管されている	この中で知っているものはない
TOTAL		(20000)	46.4	32.7	32.2	31.1	27.9	23.4	20.9	16.0	10.0	9.5	9.3	6.2	39.9
投資信託保有状況別	現在保有層	(3197)	78.8	63.8	64.9	61.8	53.2	52.8	50.0	44.1	26.9	27.0	29.7	19.5	6.8
	保有経験層(現在非保有)	(1717)	73.4	56.2	57.6	53.9	46.8	35.6	39.1	31.5	19.4	21.4	19.6	14.2	9.3
	保有未経験層(金融資産保有経験有)	(2370)	55.7	37.6	33.8	35.0	31.2	26.5	24.1	16.4	8.8	9.9	6.2	4.9	30.0
	保有未経験層(金融資産保有経験無)	(12716)	32.9	20.9	20.3	19.5	18.4	13.8	10.5	6.8	4.7	3.4	3.4	2.0	54.2
投資信託保有種類別現在	株式投資信託保有層	(1840)	85.2	72.4	72.3	68.8	59.7	58.4	60.3	52.0	33.9	31.7	35.5	24.5	2.8
	公社債投資信託のみ保有層	(214)	69.2	55.1	57.0	52.8	50.0	43.9	39.3	34.6	20.6	27.1	18.2	15.0	5.6
	その他投資信託保有層	(569)	82.6	65.6	70.1	63.8	55.0	52.9	46.6	43.4	22.8	27.6	30.4	16.2	2.5

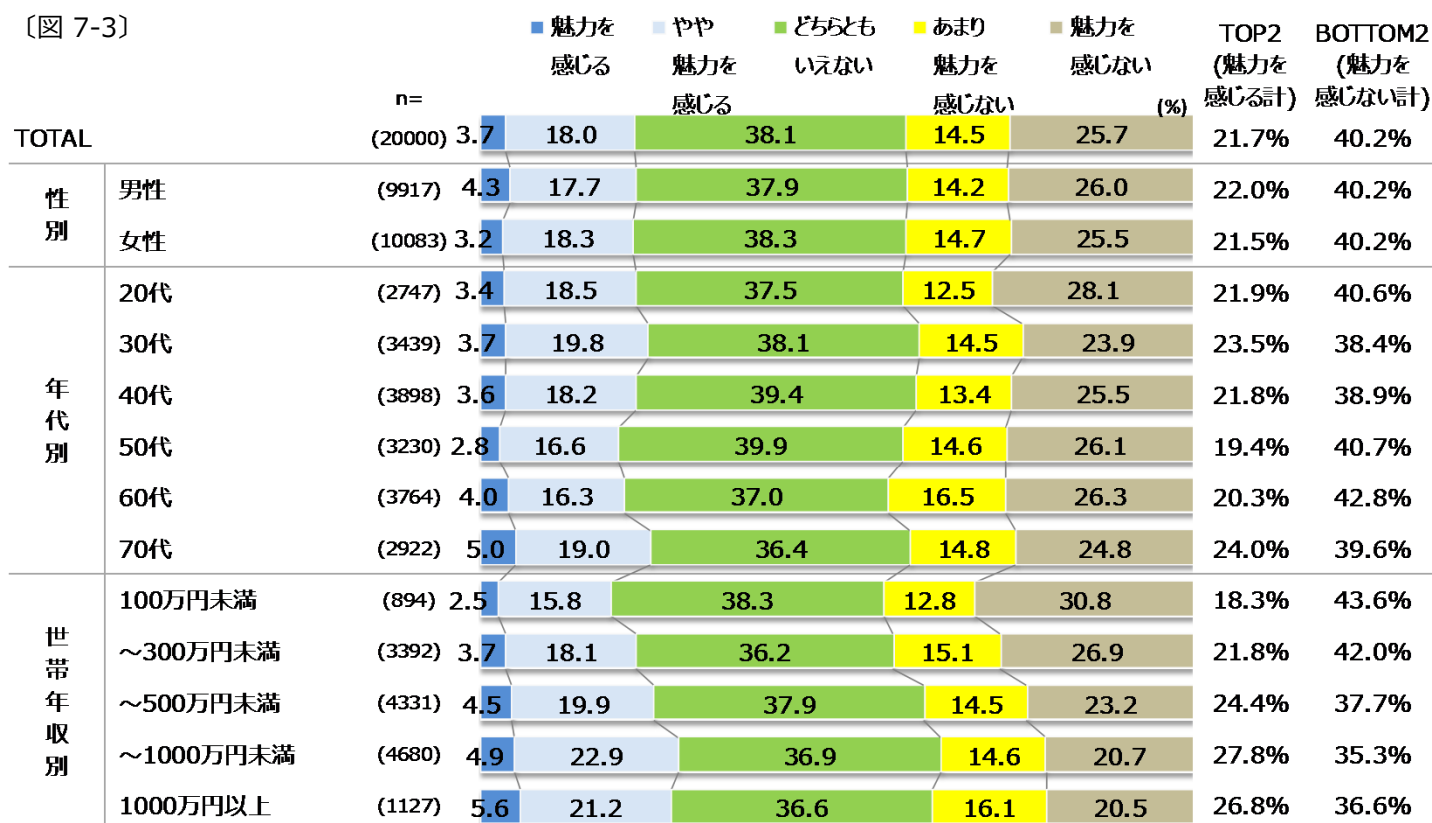
7. 投資信託全般に関する状況（全体）

(2) 毎月分配型投資信託への魅力有無〔Q20:単数回答〕

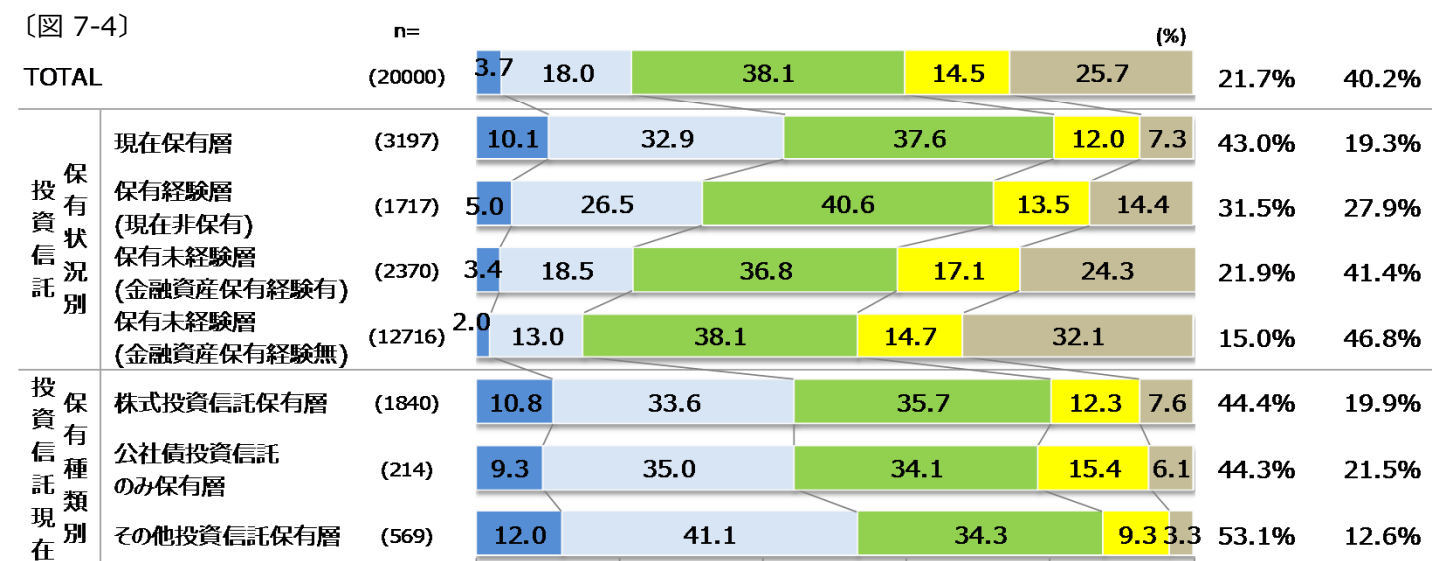
- 毎月分配型投資信託は、TOP2(魅力を感じる計)が21.7%、BOTTOM2(魅力を感じない計)が40.2%と、魅力を感じられていない様子。〔図7-3〕

- 投信保有状況別では、現在保有層でTOP2が高く魅力を感じられている。〔図7-4〕

〔図 7-3〕



〔図 7-4〕



7. 投資信託全般に関する状況（全体）

(3) 毎月分配型投資信託商品の魅力点(毎月分配型魅力者) 〔Q21：重複回答〕

- 毎月分配型投資信託の魅力点では、「毎月利益を確定したい」(59.0%)、「分配金を受け取ることで安心できる」(57.6%)が50%以上と高い。
年代別でみると、どの年代でも「毎月利益確定」「分配金を受け取ることで安心」は50～60%代となり高い。また、50代以上では年代が上がるにつれ「毎月利益確定」が減少する一方で「年金補完」が増加する傾向。〔図7-5〕
- 投資保有状況別では、現在保有層で「年金の補完にできる」が高い。〔図7-6〕

〔図 7-5〕

		n=	毎月利益を 確定したいので	分配金を 受け取ることで 安心できる	元本の一部払戻し 分配金であっても、 年金収入の補完 にできる	毎月分配型 投資信託の 他に魅力的な 商品がなかった	その他
							(%)
TOTAL		(4346)	59.0	57.6	17.6	5.5	0.5
性別	男性	(2180)	58.5	57.0	18.1	5.8	0.4
	女性	(2166)	59.6	58.3	17.2	5.3	0.6
年代別	20代	(601)	64.2	52.7	9.5	6.7	0.8
	30代	(809)	62.8	59.5	10.1	4.3	0.4
	40代	(847)	61.3	58.6	11.3	5.3	0.4
	50代	(627)	61.1	61.4	17.5	5.6	0.6
	60代	(762)	54.5	55.8	25.3	5.2	0.5
	70代	(700)	50.7	57.1	32.7	6.4	0.6
世帯 年収別	100万円未満	(163)	60.1	56.4	16.6	6.7	0.0
	～300万円未満	(739)	60.6	57.2	20.3	5.0	0.3
	～500万円未満	(1053)	58.8	58.2	17.7	5.7	0.8
	～1000万円未満	(1300)	58.1	57.5	17.3	5.0	0.3
	1000万円以上	(302)	54.6	60.9	20.5	6.3	1.0

〔図 7-6〕

		n=	毎月利益を 確定したいので	分配金を 受け取ることで 安心できる	元本の一部払戻し 分配金であっても、 年金収入の補完 にできる	毎月分配型 投資信託の 他に魅力的な 商品がなかった	その他
							(%)
TOTAL		(4346)	59.0	57.6	17.6	5.5	0.5
投資 信託 保有 状況 別	現在保有層	(1377)	52.4	57.5	26.4	6.8	1.1
	保有経験層 (現在非保有)	(540)	58.1	54.1	18.3	4.6	0.2
	保有未経験層 (金融資産保有経験有)	(519)	64.5	60.1	14.6	3.5	0.4
	保有未経験層 (金融資産保有経験無)	(1910)	62.6	58.0	12.0	5.4	0.3

7. 投資信託全般に関する状況（全体）

(3) 毎月分配型投資信託商品の非魅力点(毎月分配型非魅力者) 〔Q22：重複回答〕

- 毎月分配型投資信託の非魅力点は、目立って高い項目はなく分散傾向。
「分配金の額だけ基準価格が下がる」(23.6%)、「分配金は必要ない」(20.4%)、
「長期投資に合わない」(19.2%)が上位にあがる。〔図7-7〕
- 投資保有状況別で見ると、現在保有層では他層に比べどの項目も高めの反応だが、
「基準価格が下がる」(43.3%)が特に高い。〔図7-8〕

〔図 7-7〕

		n=	分配金は必要 ではないので	分配金の額だ け基準価額が 下がるので	長期投資に合 わないので	投資額を勘案 すると得られ る分配金が少 ないので	複利効果が得 られないので	その他	(%)
TOTAL		(8034)	23.6	20.4	19.2	13.0	12.1	27.6	
性別	男性	(3981)	26.2	23.2	20.3	14.4	13.1	22.5	
	女性	(4053)	21.0	17.6	18.0	11.6	11.1	32.6	
年代別	20代	(1115)	27.0	18.6	17.1	11.5	11.1	31.4	
	30代	(1320)	22.8	18.1	20.3	12.8	12.7	29.5	
	40代	(1516)	22.9	20.3	20.6	13.1	12.2	28.7	
	50代	(1315)	20.7	21.1	17.4	13.6	13.6	28.8	
	60代	(1610)	23.5	21.6	20.1	14.1	11.7	23.4	
	70代	(1158)	25.6	22.4	18.7	12.3	11.0	24.8	
世帯年収別	100万円未満	(389)	25.4	22.9	16.2	10.0	9.3	28.5	
	～300万円未満	(1426)	23.2	19.9	19.0	13.1	10.1	29.7	
	～500万円未満	(1635)	22.4	20.4	20.7	13.6	12.4	25.7	
	～1000万円未満	(1652)	22.6	21.2	21.4	15.6	14.3	23.1	
	1000万円以上	(412)	27.4	23.8	22.6	15.3	19.2	19.7	

〔図 7-8〕

		n=	分配金は必要 ではないので	分配金の額だ け基準価額が 下がるので	長期投資に合 わないので	投資額を勘案 すると得られ る分配金が少 ないので	複利効果が得 られないので	その他	(%)
TOTAL		(8034)	23.6	20.4	19.2	13.0	12.1	27.6	
投資信託 保有状況別	現在保有層	(617)	27.6	43.3	33.5	20.6	30.1	4.4	
	保有経験層 (現在非保有)	(480)	17.9	31.9	24.2	23.3	19.0	10.2	
	保有未経験層 (金融資産保有経験有)	(980)	20.7	19.9	23.0	15.7	12.1	22.8	
	保有未経験層 (金融資産保有経験無)	(5957)	24.1	17.2	16.7	10.9	9.7	32.2	

7. 投資信託全般に関する状況（全体）

（4）毎月分配型投資信託分配金の使途〔Q23:重複回答〕

- 毎月分配型投信保有時の分配金使途は、「自分のこづかい」(28.4%)、「生活費」(26.5%)が高く、「リスクのない商品の購入」(16.6%)が続く。「同じ投信の購入」「他の投信の購入」は5%程度に留まる。また世帯年収別では、年収が下がるほど「生活費」や「わからない」との回答が増加する。〔図7-9〕
- 投資保有種類別では、他層に比べ株式投信保有層で「同じ投信／他の投信の購入」が高く、公社債投信のみ保有層で「生活費」「リスクのない商品の購入」が高い。〔図7-10〕

〔図 7-9〕

		n=	自分のこづかい	生活費	預貯金などリスクのない商品の購入	子や孫のため	同じ投資信託の購入	他の投資信託の購入	投資信託以外の金融商品の購入	その他	特に使わない	わからない	(%)
TOTAL		(20000)	28.4	26.5	16.6	9.0	5.1	4.8	3.0	0.7	11.3	24.2	
性別	男性	(9917)	27.4	28.1	14.1	7.9	6.8	6.2	4.1	0.6	11.2	24.7	
	女性	(10083)	29.5	24.8	19.1	10.1	3.4	3.4	1.9	0.8	11.5	23.7	
年代別	20代	(2747)	29.6	34.3	18.0	7.3	4.0	4.6	2.7	0.5	7.5	28.5	
	30代	(3439)	29.6	31.3	21.3	11.4	6.0	5.1	2.8	0.6	8.1	21.9	
	40代	(3898)	28.2	27.9	17.3	8.7	5.1	4.6	2.5	0.6	10.5	24.3	
	50代	(3230)	28.2	25.0	16.5	7.9	5.0	4.6	3.3	0.6	10.2	23.8	
	60代	(3764)	29.0	20.7	14.0	9.2	4.4	4.8	3.3	0.9	14.8	24.0	
	70代	(2922)	25.9	20.5	12.5	9.2	5.9	5.0	3.0	1.0	16.8	23.8	
世帯年収別	100万円未満	(894)	26.2	34.0	14.2	9.8	3.2	3.2	2.2	1.3	10.2	26.3	
	～300万円未満	(3392)	28.4	31.5	15.1	7.9	3.8	3.7	1.8	1.0	10.8	23.9	
	～500万円未満	(4331)	31.4	29.8	18.2	10.6	5.4	5.1	3.1	0.8	11.2	19	
	～1000万円未満	(4680)	30.2	25.3	19.3	10.6	7.5	6.8	4.3	0.5	11.8	16.4	
	1000万円以上	(1127)	33.4	19.9	19.6	8.9	9.9	9.3	6.5	0.6	12	14.9	

〔図 7-10〕

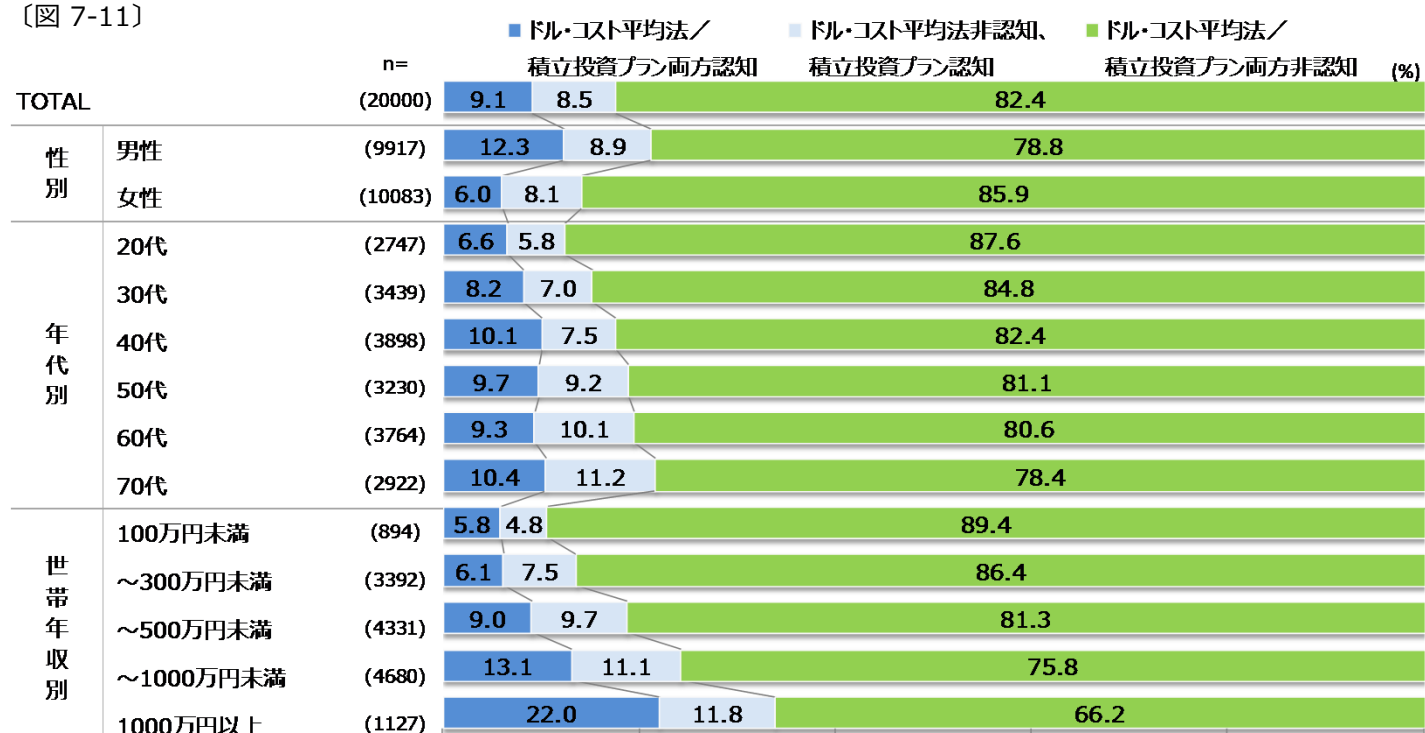
		n=	自分のこづかい	生活費	預貯金などリスクのない商品の購入	子や孫のため	同じ投資信託の購入	他の投資信託の購入	投資信託以外の金融商品の購入	その他	特に使わない	わからない	(%)
TOTAL		(20000)	28.4	26.5	16.6	9.0	5.1	4.8	3.0	0.7	11.3	24.2	
投資信託保有状況別	現在保有層	(3197)	31.4	23.7	17.9	7.2	14.5	14.7	7.7	0.8	15.3	6.3	
	保有経験層 (現在非保有)	(1717)	35.9	27.2	21.0	9.7	7.6	6.4	5.0	0.6	10.8	9.7	
	保有未経験層 (金融資産保有経験有)	(2370)	31.5	24.3	17.7	9.3	5.3	4.5	4.1	0.4	13.8	19.8	
	保有未経験層 (金融資産保有経験無)	(12716)	26.1	27.5	15.5	9.3	2.3	2.1	1.3	0.7	10.0	31.5	
投資信託現在保有種類別	株式投資信託保有層	(1840)	31.4	23.5	19.5	7.3	18.6	18.3	9.5	0.7	14.1	4.1	
	公社債投資信託のみ保有層	(214)	30.8	30.4	26.6	6.1	6.5	8.9	6.1	0.9	10.7	3.7	
	その他投資信託保有層	(569)	36.2	25.1	15.5	8.4	13.5	14.8	7.9	0.5	14.2	3.5	

7. 投資信託全般に関する状況（全体）

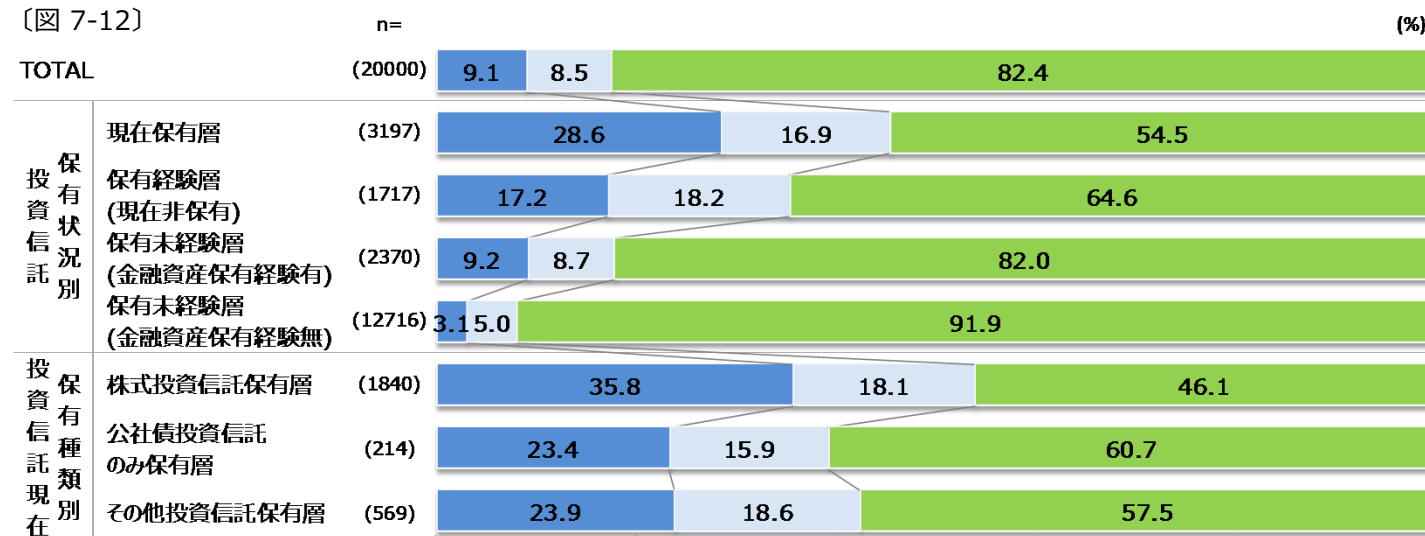
(5) ドル・コスト平均法／積立投資プランの認知状況〔Q16：単数回答〕

- ドル・コスト平均法／積立投資プランの「両方非認知」が82.4%と大半をしめる。また「両方認知」「積立投資プランのみ認知」は年代や世帯年収の階層が上がるにつれ高くなる傾向。〔図7-11〕
- 投資信託の現在保有層でも両方非認知は54.5%みられる。投信保有種類別では株式投信保有層での両方認知が35.8%と高い。（但し、株式投信保有層でも両方非認知は46.1%存在）〔図7-12〕

〔図 7-11〕



〔図 7-12〕



7. 投資信託全般に関する状況（全体）

(5) ドル・コスト平均法の内容認知

(ドル・コスト平均法／積立投資プラン両方認知者)〔Q17：重複回答〕

- ドル・コスト平均法の内容認知では、「投資リスク軽減方法の一つ」(67.9%)が最も高く、次いで「同一商品の定額買付方法」(56.4%)、「平均買付価格が割安」(53.2%)、「長期資産形成向き」(48.2%)が50%前後で続く。「財形貯蓄や確定拠出年金で活用できる」は26.7%に留まる。年代別では若年層ほど「リスク軽減方法の一つ」「長期資産形成向き」「財形貯蓄や確定拠出年金で活用できる」の認知が増す傾向。

世帯年収別でみると、年収が低いほど全体的に認知率が低くなる。〔図7-13〕

- 投資信託保有状況別では、いずれの層でも「財形貯蓄や確定拠出年金で活用できる」の認知は2～3割台に留まる。〔図7-14〕

〔図 7-13〕

		n=	投資に伴うリスクを軽減する方法の一つである	一定金額で同一商品を買付けていく方法である	結果として平均買付価格が割安になる	長時間かけて資産形成したい人に向いている	財形貯蓄や確定拠出年金で活用できる	この中で知っているものはない (%)
TOTAL		(1822)	67.9	56.4	53.2	48.2	26.7	8.0
性別	男性	(1217)	69.4	59.0	54.3	49.1	26.9	6.5
	女性	(605)	64.8	51.2	50.9	46.6	26.4	11.1
年代別	20代	(181)	71.8	54.7	49.7	51.9	35.9	8.8
	30代	(283)	70.3	59.4	54.4	53.0	30.4	10.2
	40代	(393)	69.0	61.1	50.9	53.7	29.5	7.1
	50代	(312)	66.3	56.4	57.7	46.5	28.5	7.7
	60代	(350)	68.3	58.0	56.6	46.9	22.6	4.9
	70代	(303)	63.0	46.9	48.5	38.0	17.2	10.6
世帯年収別	100万円未満	(52)	63.5	44.2	34.6	38.5	13.5	17.3
	～300万円未満	(206)	61.2	47.1	48.5	39.3	24.3	11.2
	～500万円未満	(390)	67.2	52.8	52.6	49.0	23.3	6.9
	～1000万円未満	(613)	70.1	57.9	55.1	49.3	27.4	5.4
	1000万円以上	(248)	73.8	66.1	61.7	55.2	35.1	5.6

〔図 7-14〕

		n=	投資に伴うリスクを軽減する方法の一つである	一定金額で同一商品を買付けていく方法である	結果として平均買付価格が割安になる	長時間かけて資産形成したい人に向いている	財形貯蓄や確定拠出年金で活用できる	この中で知っているものはない (%)
TOTAL		(1822)	67.9	56.4	53.2	48.2	26.7	8.0
投資信託保有状況別	現在保有層	(914)	74.2	63.1	62.4	56.6	30.2	4.5
	保有経験層 (現在非保有)	(295)	66.8	55.9	53.2	43.7	22.4	6.8
	保有未経験層 (金融資産保有経験有)	(219)	69.4	58.4	50.2	46.1	26.5	7.8
	保有未経験層 (金融資産保有経験無)	(394)	53.3	40.1	33.5	33.5	22.1	17.3

7. 投資信託全般に関する状況（全体）

(5) 積立投資プランの内容認知(ドル・コスト平均法／積立投資プラン両方もしくは積立投資プランのみ認知者)[Q18：重複回答]

- 積立投資プラン内容認知では、「少額から投資できる」(72.0%)の認知が最も高く、「自動引き落としが利用できる」(41.8%)が続く。「リスク軽減の為に時間分散が図れる」ことや「ドル・コスト平均法の効果が得られる」ことの認知は2～3割に留まる。世帯年収別でみると、年収が低いほど全体的に認知率が低くなる。〔図7-15〕

- 「ドル・コスト平均法の効果が得られる」の認知は、現在保有層でも37.6%に留まる。〔図7-16〕

〔図 7-15〕

		n=	少額から 利用できること	自動引き落としが 利用でき、つど申し 込む必要がない	リスク軽減の ための「時間の 分散」が図れる	ドル・コスト 平均法の効果 が得られる	この中で 知っている ものはない (%)
TOTAL		(3522)	72.0	41.8	31.3	25.0	10.5
性別	男性	(2103)	70.2	40.5	33.6	28.2	10.9
	女性	(1419)	74.6	43.8	28.0	20.1	9.9
年代別	20代	(341)	65.4	40.2	36.4	24.6	11.4
	30代	(524)	71.2	44.8	35.1	27.5	11.3
	40代	(686)	70.4	41.1	31.9	29.3	10.8
	50代	(610)	75.7	40.3	30.5	24.6	9.7
	60代	(730)	73.3	45.2	32.2	23.2	8.8
	70代	(631)	72.7	38.5	24.7	20.8	11.9
世帯 年収別	100万円未満	(95)	64.2	31.6	23.2	18.9	11.6
	～300万円未満	(462)	68.0	37.0	24.7	19.7	12.6
	～500万円未満	(809)	74.0	41.4	30.3	22.1	8.8
	～1000万円未満	(1131)	73.5	46.1	33.7	27.6	8.6
	1000万円以上	(381)	71.4	48.3	40.9	35.2	8.1

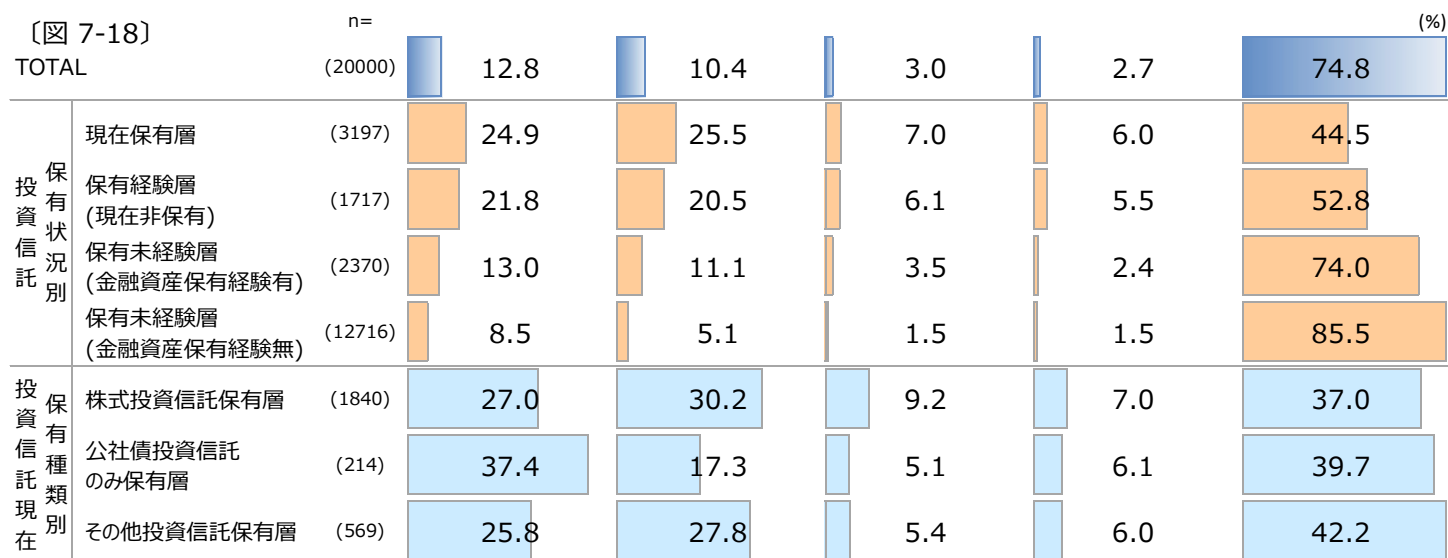
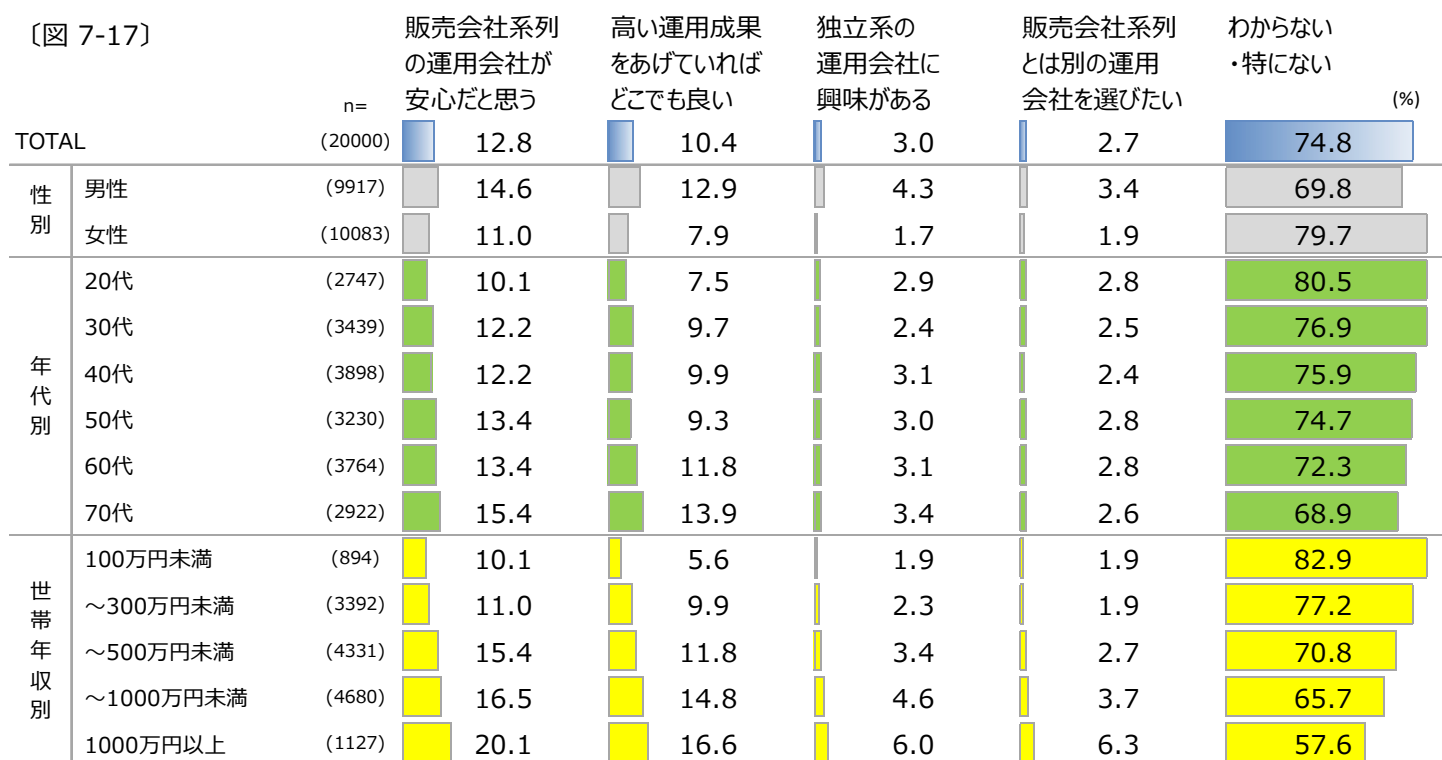
〔図 7-16〕

		n=	少額から 利用できること	自動引き落としが 利用でき、つど申し 込む必要がない	リスク軽減の ための「時間の 分散」が図れる	ドル・コスト 平均法の効果 が得られる	この中で 知っている ものはない (%)
TOTAL		(3522)	72.0	41.8	31.3	25.0	10.5
投資 信託 保有 状況 別	現在保有層	(1454)	76.0	53.3	41.5	37.6	6.2
	保有経験層 (現在非保有)	(608)	72.7	40.5	30.6	21.9	8.2
	保有未経験層 (金融資産保有経験有)	(426)	68.3	36.4	25.4	23.7	13.4
	保有未経験層 (金融資産保有経験無)	(1034)	67.4	28.7	19.9	9.6	16.7

7. 投資信託全般に関する状況（全体）

(6) 投資信託運用会社への考え〔Q13：重複回答〕

- 投資信託の運用会社選びでは「わからない・特にない」が74.8%がとなり、大半の人が選択基準を想起できない様子。「わからない・特にない」は年代や世帯年収が低い層ほど多くなる。〔図7-17〕
- 投資信託保有種類別では、他層に比べ株式投信保有層で「高い成果をあげていればどこでも」がやや高く、公社債投信のみ保有層で「販売会社系列」が高くなる。〔図7-18〕

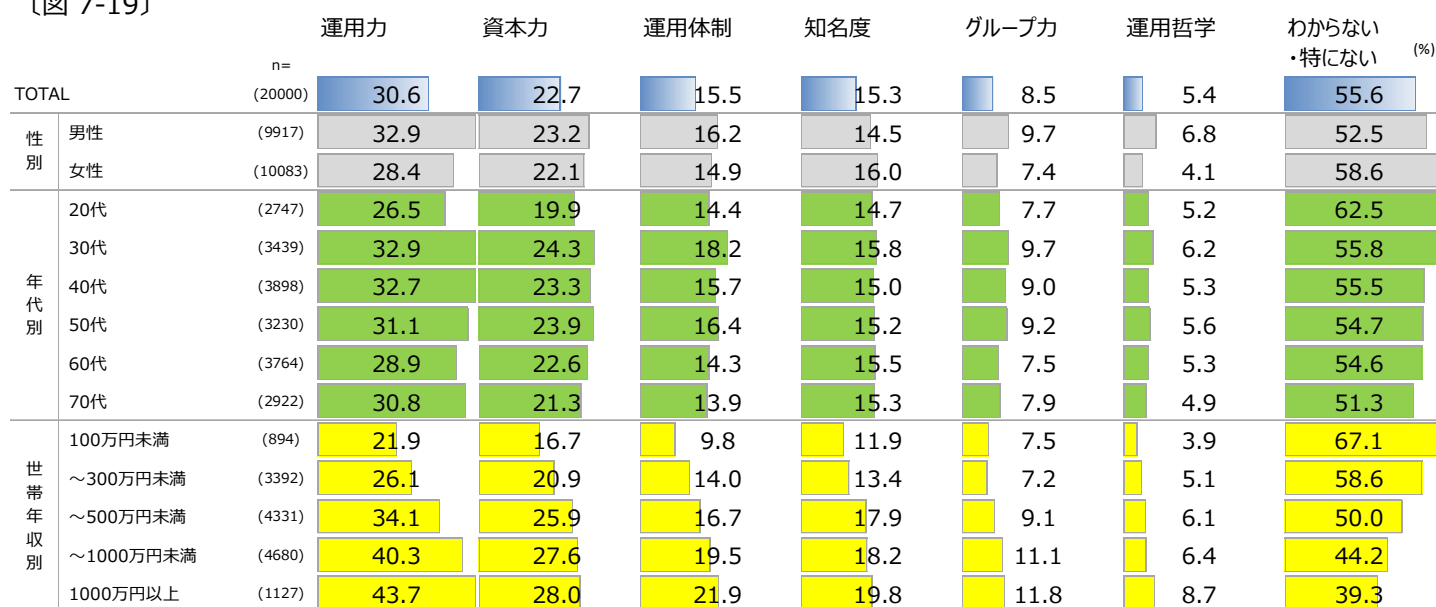


7. 投資信託全般に関する状況（全体）

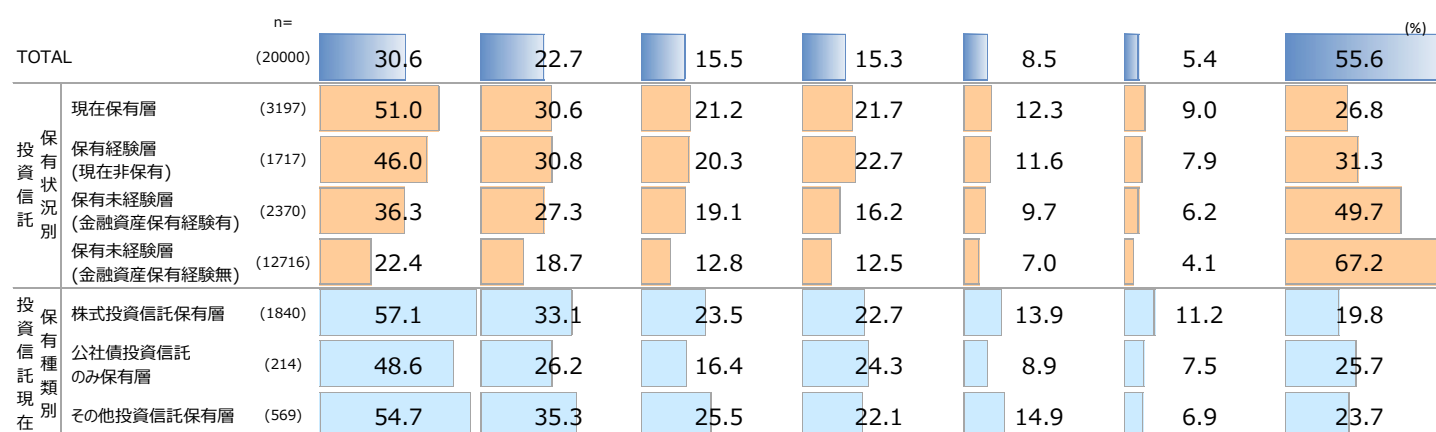
(6) 投資信託購入の際の、運用会社の重視点〔Q14：重複回答〕

- 運用会社の重視点では、「運用力」(30.6)が最も高く、「資本力」(22.7%)が続く。一方で「わからない・特にない」(55.6%)も半数以上となり高い。年代別では他層に比べ30代で、どの項目も高く重視される模様。また世帯年収別では、年収が上がるにつれどの項目も増加するが、中でも「運用力」が顕著に増加する傾向。〔図7-19〕
- 投資信託保有状況別では、投資との関連が強いほどどの項目も重視度が高くなるが、「運用力」ではその傾向が顕著。〔図7-20〕

〔図 7-19〕



〔図 7-20〕

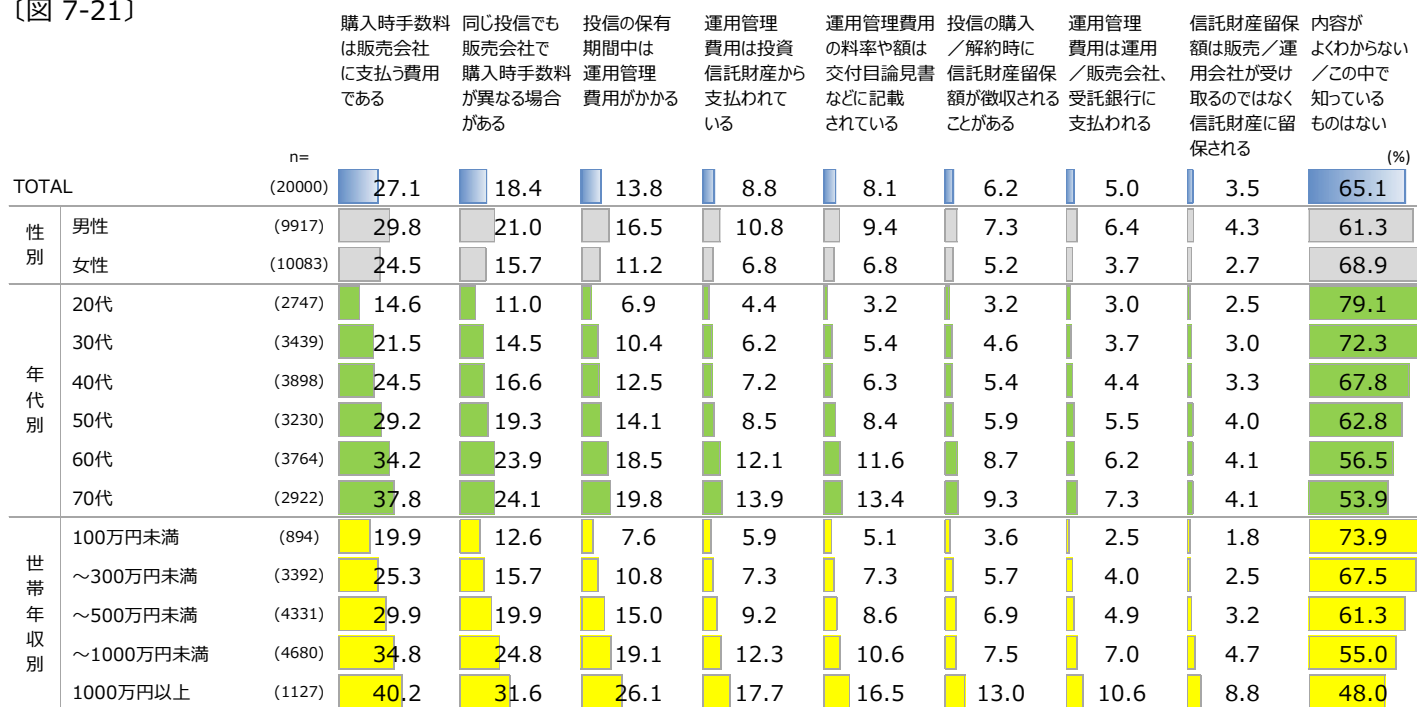


7. 投資信託全般に関する状況（全体）

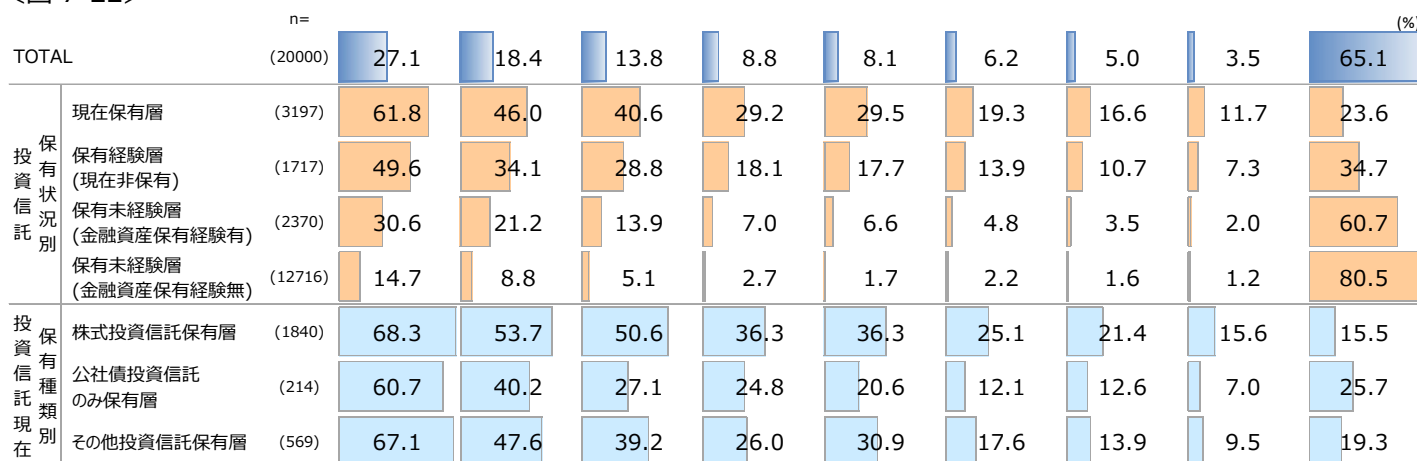
(7) 投資信託の手数料特徴認知状況〔Q25:重複回答〕

- 手数料の特徴では、「販売会社に支払う費用」(27.1%)が最も高く、次いで「販売会社で手数料が異なる場合がある」(18.4%)、「保有中は運用管理費用がかかる」(13.8%)が続く。年代、世帯年収共に階層が上がるにつれどの項目も高くなる。〔図7-21〕
- 投信保有状況別でみると、保有未経験層では、金融資産保有経験の有る層で60.7%、金融資産保有経験の無い層では80.5%がどの特徴も知らない。また株式投信保有層では他層に比べ、どの項目も認知が高くなる。〔図7-22〕

〔図 7-21〕



〔図 7-22〕



末尾添付資料：調査票



添付資料：調査票

- 世帯ではなく、あなた個人でお持ちの資産についてお答えください。
- 財形貯蓄や確定拠出年金を通じての購入も含めて、お答えください。

Q1 あなたはこれまでに「現金・預貯金(円)以外の金融資産」を保有したことがありますか。

※「現金・預貯金(円)以外の金融資産」…外貨預金、株式、債券(国債・公社債など)、投資信託、FX、ETF、REITなど。
土地や不動産、保険は除きます。
(回答は1つ)

1 保有したことがある

2 保有したことはない

<Q2聴取対象：金融資産保有経験者(Q1=1)>

- 世帯ではなく、あなた個人でお持ちの資産についてお答えください。
- 財形貯蓄や確定拠出年金を通じての購入も含めて、お答えください。

Q2 あなたはこれまでに投資信託を保有したことがありますか。

※「投資信託」とは、複数の投資家から出資されたお金を一つの資金としてまとめ、ファンドマネージャーなどの資金運用の専門家が、株式や債券、REITなどに投資し、その成果(利益)を投資家に還元する金融商品のことを指します。
(回答は1つ)

1 現在保有している

2 以前保有していたが、現在は保有していない

3 今まで保有したことがない

<Q3聴取対象：投資信託現在保有者(Q2=1)>

- 世帯ではなく、あなた個人でお持ちの資産についてお答えください。
- 財形貯蓄や確定拠出年金を通じての購入も含めて、お答えください。

Q3 現在あなたが保有している投資信託の本数は、全部で何本ですか。

※ 同じ商品でも、コースや型・為替ヘッジの有無などで複数保有している場合は、それぞれを1本としてお答えください。
(回答は1つ)

1 1～2本

2 3～5本

3 6～10本

4 11本以上

5 わからない・答えたくない

添付資料：調査票

<Q4聴取対象：投資信託現在保有者(Q2=1)>

- 世帯ではなく、あなた個人でお持ちの資産についてお答えください。
- 財形貯蓄や確定拠出年金を通じての購入も含めて、お答えください。

Q4 あなたが直近で、新しく投資信託商品を購入した時期を教えてください。

※ 既に保有していた投資信託商品の買い増しではなく、これまで保有していなかった商品を新しく購入した時期についてお答えください。
(回答は1つ)

- 1** 1年未満
- 2** 1年以上～2年未満
- 3** 2年以上～5年未満
- 4** 5年以上前
- 5** わからない・答えたくない

<Q5聴取対象：投資信託現在保有者(Q2=1)>

- 世帯ではなく、あなた個人でお持ちの資産についてお答えください。
- 財形貯蓄や確定拠出年金を通じての購入も含めて、お答えください。

Q5 現在あなたが保有している投資信託の種類はどれですか。保有しているものを全てお答えください。

※ バランス型の投資信託商品を保有している方は、株式投資信託をお選びください。
(回答は1つでも)

- 1** 公社債投資信託
(国債や社債を中心に運用するもので、日本で作られたもの)
- 2** 株式投資信託
(公社債投資信託以外で、主に株式や、外国債券などで運用し、日本で作られたもの)
- 3** ETF
(株価指数などに連動する投資信託で日本の証券取引所に上場しているもの)
- 4** 不動産投信 (J-REIT)
(不動産に投資する、日本の証券取引所に上場しているもの)
- 5** 外国で作られた投資信託
(外貨建てMMFなど、外国籍の投資信託)
- 6** わからない・答えたくない

添付資料：調査票

<Q6聴取対象：現在保有している投資信託の種類回答者(Q5=1～5のいずれか回答)>

- 世帯ではなく、あなた個人でお持ちの資産についてお答えください。
- 財形貯蓄や確定拠出年金を通じての購入も含めて、お答えください。

Q6 現在あなたが保有している投資信託の、種類ごとの保有金額と、総合での保有金額を教えてください。

(回答は1つ)

	1	2	3	4	5	6	7
	100万円未満	100～300万円未満	300～500万円未満	500～800万円未満	800～1,000万円未満	1,000万円以上	わからない・答えたくない
1 公社債投資信託 (国債や社債を中心に運用するもので、日本で作られたもの)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2 株式投資信託 (公社債投資信託以外で、主に株式や、外国債券などで運用し、日本で作られたもの)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3 ETF (株価指数などに連動する投資信託で日本の証券取引所に上場しているもの)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
4 不動産投信(J-REIT) (不動産に投資する、日本の証券取引所に上場しているもの)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
5 外国で作られた投資信託 (外貨建てMMFなど、外国籍の投資信託)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
6 総合計 (保有している投資信託の金額の合計)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

<Q7聴取対象：投資信託保有経験者(Q2=1～2)>

- 世帯ではなく、あなた個人でお持ちの資産についてお答えください。
- 財形貯蓄や確定拠出年金を通じての購入も含めて、お答えください。

Q7 あなたは、投資信託を購入した際どのような点を重視しましたか。また今後、投資信託を購入する場合に重視する点はどれでしょうか。それぞれ重視度の高い項目を、最大で3つまでお答えください。

(回答は3つまで)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
	過去の運用実績	安全性の高さ	値上がりへの期待	換金のしやすさ	分配頻度の多さ	過去の分配金額	手数料や運用管理費用(信託報酬)の水準	純資産額の大きさ	評価会社による評価	商品内容のわかりやすさ	商品コンセプト(投資対象、運用方針など)	その他 具体的に:	特 に ない
1 投資信託を購入した際に重視した点	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2 今後、投資信託を購入する場合に重視したい点	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

添付資料：調査票

Q8 次にあげる投資信託の特徴の中で、あなたが知っているものを全てお答えください。

(回答は1つでも)

- 1 MRFは投資信託商品である
- 2 国内の投資信託と海外の投資信託がある
- 3 価格の変動があり、その他に外国に投資するものには為替リスクがある
- 4 リスクとリターンは相反する関係にある
- 5 元本の保証はない
- 6 銀行など、証券会社以外の金融機関でも購入できる
- 7 投資信託は、信託銀行で分別保管されている
※ 分別保管とは、信託銀行が、自行と顧客の資産を分けて保管することです
- 8 投資信託は、運用会社が運用している
- 9 販売手数料とは別に運用管理費用（信託報酬）がかかる
- 10 投資信託の評価を行う会社がある
- 11 基準価額は新聞や投資信託協会のホームページでも見ることができる
- 12 NISA（少額投資非課税制度）やDC（確定拠出年金）で投資信託が購入できる
- 13 この中で知っているものはない

<Q9聴取対象：投資信託保有経験者(Q2=1~2)>

Q9 次にあげる投資信託の「分配金」の特徴について、知っているものを全てお答えください。

(回答は1つでも)

- 1 分配金額は、預金の利率のようにあらかじめ決まっているものではなく、運用成績によって変動する
- 2 分配金は投資信託の決算ごとに支払われる
- 3 投資信託の運用成績が良くないときには、分配金が支払われない場合がある
- 4 分配金として元本の一部が払い戻されることもある
- 5 分配金が支払われた額だけ、基準価額（投資信託の価値）が下がる
- 6 この中で知っているものはない

添付資料：調査票

<Q10聴取対象：投資信託保有経験者(Q2=1~2)>

- 世帯ではなく、あなた個人でお持ちの資産についてお答えください。
- 財形貯蓄や確定拠出年金を通じての購入も含めて、お答えください。

Q10 投資信託を売却したり、あるいは償還によって得たお金は、何に使いましたか。あてはまるものを全てお答えください。

(回答はいくつでも)

<input type="checkbox"/>	1 株式、債券を購入した
<input type="checkbox"/>	2 他の投資信託を購入した
<input type="checkbox"/>	3 預貯金にまわした
<input type="checkbox"/>	4 生活資金にまわした
<input type="checkbox"/>	5 不動産などの購入にあてた
<input type="checkbox"/>	6 その他 具体的に： <input type="text"/>
<input type="checkbox"/>	7 売却したことはない、償還によってお金を得たことはない

<Q11聴取対象：投資信託保有経験者(Q2=1~2)>

Q11 あなたは、他の金融商品と比較した場合、どのような面で投資信託が優れていると考えますか。あてはまるものを全てお答えください。また、そのうち特に魅力を感じている点を1つあげてください。

※「他の金融商品」とは、投資信託を除いた株式、債券、FXを指します。預貯金や不動産は含みません。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13 その他	14
	少額でも分散投資ができる	少額でも投資の面白がる	専門知識がなくても投資ができる(専門家が運用してくれる)	種類が豊富で目的に応じたものが選べる	比較的高利回りが期待できる	積立投資ができる	分配金が自動的に再投資される商品がある	定期的に分金を受け取れる	購入後の運用に関する情報が多い	購入手続きが簡単である	海外投資が手軽にできる	手数料が比較的安い		わからない・特がない
1 他の金融商品と比べて投資信託が優れている点(回答はいくつでも)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2 その中で特に魅力を感じている点(回答は1つ)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

添付資料：調査票

<Q12聴取対象：投資信託保有経験者(Q2=1~2)>

Q12	では、他の金融商品と比較した場合、投資信託で不満を感じるのはどのような点ですか。あてはまるものを全てお答えください。そのうち特に不満を感じている点を1つあげてください。														
	1 元本保証がない	2 仕組みや運用実績がわかりにくい	3 専門知識がないと商品を選びにくい	4 リターン(収益)が低い	5 分配金が少ない	6 株式に比べて面白くない	7 公社債に比べてリスクが高い	8 購入後の運用に関する情報が少ない	9 手続きがずらわしい	10 手数料が比較的高い	11 種類が多く選択に迷う	12 クローズド期間(換金・解約できない期間)がある	13 近くに取り扱っている証券会社・銀行などの店舗が少ない	14 その他	15 わからない・特にない
1 他の金融商品と比べて投資信託に不満を感じる点 (回答はいくつでも)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2 その中で特に不満を感じている点 (回答は1つ)	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

Q13	投資信託は、商品の設定・運用を行う運用会社から委託を受けて、証券会社や銀行などが販売を行っています。投資信託の運用会社について、あなたのお考えに近いものをいくつかもお答えください。
-----	--

※ 運用会社が直接販売を行っている場合もあります。
 ※ 今までに投資信託を購入したことが無い方は、想定でお答えください。
 (回答はいくつでも)

- 1 販売会社の系列の運用会社が安心だと思う
- 2 販売会社の系列とは別の運用会社を選びたい
- 3 独立系の運用会社に興味がある
- 4 高い運用成果をあげていればどこでも良い
- 5 わからない・特にない

添付資料：調査票

Q14 投資信託を購入する場合、あなたは運用会社のどのような点を重視しますか。

※ 今までに投資信託を購入したことが無い方は、想定でお答えください。
(回答は1つでも)

- 1 運用力
- 2 運用哲学
- 3 知名度
- 4 資本力
- 5 運用体制
- 6 グループ力
- 7 わからない・特になし

<Q15聴取対象：投資信託現在保有者(Q2=1)>

■世帯ではなく、あなた個人でお持ちの資産についてお答えください。
■財形貯蓄や確定拠出年金を通じての購入も含めて、お答えください。

Q15 現在あなたは、投資信託の積立投資を利用していますか。

(回答は1つ)

- 1 利用している
- 2 利用していない

Q16 あなたは、投資信託の買い付け方法の1つとして、ドル・コスト平均法の効果が得られる投資信託の積立投資プランがあることを、知っていますか。

(回答は1つ)

- 1 ドル・コスト平均法も、積立投資プランがあることも知っている
- 2 ドル・コスト平均法は知らないが、積立投資プランがあることは知っている
- 3 ドル・コスト平均法も、積立投資プランがあることも知らない

添付資料：調査票

<Q17聴取対象：「ドル・コスト平均法」認知者(Q16=1)>

Q17 ドル・コスト平均法で知っている内容はどのようなことですか。

(回答は1つでも)

- 1** 投資に伴うリスクを軽減する方法の一つであること
- 2** 一定金額で同一の商品を買い付けていく方法であること
- 3** 基準価額が高い時には購入口数が少なく、低い時には多くなり、結果として平均買付価額が割安になること
- 4** 長い時間をかけて資産形成をしたい人に向いている投資方法であること
- 5** 財形貯蓄や確定拠出年金で活用できること
- 6** この中で知っているものはない

<Q18聴取対象：「積立投資プラン」認知者(Q16=1~2)>

Q18 積立投資プランで知っている内容はどのようなことですか。

(回答は1つでも)

- 1** 少額から利用できること
- 2** 自動引き落としが利用でき、そのつど申し込む必要がないこと
- 3** ドル・コスト平均法の効果が得られること
- 4** リスクを軽減するための「時間の分散」が図れること
- 5** この中で知っているものはない

<Q19聴取対象：投資信託現在保有者(Q2=1)>

- 世帯ではなく、あなた個人でお持ちの資産についてお答えください。
- 財形貯蓄や確定拠出年金を通じての購入も含めて、お答えください。

Q19 現在あなたは、毎月分配型の投資信託(1ヶ月毎に決算を行い、収益などの一部を分配金として毎月分配する運用方針のもの)を保有していますか。

(回答は1つ)

- 1** 保有している
- 2** 保有していない
- 3** わからない・答えたくない

添付資料：調査票

Q20

あなたは、毎月分配型の投資信託(1ヶ月毎に決算を行い、収益などの一部を分配金として毎月分配する運用方針のもの)に魅力を感じますか。

(回答は1つ)

1 魅力を感じる

2 やや魅力を感じる

3 どちらともいえない

4 あまり魅力を感じない

5 魅力を感じない

<Q21聴取対象：毎月分配型投資信託に魅力を感じる層(Q20=1~2)>

Q21

毎月分配型の投資信託に魅力を感じる理由はなんですか。

(回答は1~3つでも)

1 毎月利益を確定したいので

2 分配金を受け取ることで安心できるの

3 元本の一部払戻しの分配金であっても、年金収入を補完する上で活用できると思うので

4 毎月分配型投資信託の他に魅力的な商品がなかった

5 その他 具体的に：

<Q22聴取対象：毎月分配型投資信託に魅力を感じていない層(Q20=3~5)>

Q22

毎月分配型の投資信託に魅力を感じない理由はなんですか。

(回答は1~3つでも)

1 分配金は必要ではないので

2 長期投資に合わないの

3 複利効果が得られないの

4 投資額を勧奨すると得られる分配金が少ないの

5 分配金の額だけ基準価額が下がるの

6 その他 具体的に：

添付資料：調査票

Q23 毎月分配型投資信託を保有した場合、受け取った分配金は何に使いたいですか。

(回答は1つでも)

- 1** 生活費
- 2** 預貯金などのリスクのない商品の購入
- 3** 他の投資信託の購入
- 4** 同じ投資信託の追加購入（再投資）
- 5** 投資信託以外の金融商品の購入
- 6** 自分のごづかい
- 7** 子や孫のため
- 8** その他 具体的に：
- 9** 特に使わない
- 10** わからない

<Q24聴取対象：投資信託現在保有者(Q2=1)>

Q24 2014年12月から、保有している投資信託の投資期間全体の損益(トータルリターン)を書面などで通知する制度がスタートしていますが、あなたはこの制度を知っていますか。

(回答は1つ)

- 1** 知っている
- 2** 知らない

添付資料：調査票

Q25 次にあげる投資信託の手数料に関する項目の中で、あなたが知っているものを全てお答えください。

(回答はいくつでも)

- 1 購入する際に支払う手数料は、証券会社や銀行などの販売会社に支払う費用である
- 2 同じ投資信託でも販売会社によって購入時手数料が異なる場合がある
- 3 投資信託を保有している期間中は運用管理費用（信託報酬）がかかる
- 4 運用管理費用は投資信託財産から支払われている
- 5 運用管理費用は投資信託の運用を行う運用会社、分配金の支払い業務や交付運用報告書等を発送する販売会社、資産の保管・管理を行う受託銀行の三者に支払われている
- 6 運用管理費用の料率や額は、交付目論見書や交付運用報告書に記載されている
- 7 投資信託を購入または解約の際に、信託財産留保額が徴収されることがある
- 8 信託財産留保額は販売会社や運用会社が受け取るのではなく、信託財産に留保される
- 9 色々な手数料があり、内容がよくわからない／この中で知っているものはない

添付資料：調査票

<Q26聴取対象：金融資産保有未経験者(Q1=2)および投資信託保有未経験者(Q2=3)>

Q26 あなたが投資信託を購入したことがない理由は何ですか。あてはまるものを全てお答えください。

(回答は1つでも)

<input type="checkbox"/> 1 投資信託の存在を知らなかったため	<input type="checkbox"/> 12 魅力的な商品がないため
<input type="checkbox"/> 2 投資の知識がないため	<input type="checkbox"/> 13 希望する投資信託を取扱っている金融機関が近くにないため
<input type="checkbox"/> 3 投資信託の仕組みがよくわからないため	<input type="checkbox"/> 14 商品の種類が多く自分では選択できないため
<input type="checkbox"/> 4 元本保証がないため	<input type="checkbox"/> 15 自分に合った投資信託を検討する時間的な余裕がないため
<input type="checkbox"/> 5 株式と同様に値上がり・値下がりが激しいため	<input type="checkbox"/> 16 販売員の説明や勧誘の仕方が満足できるものではなかったため
<input type="checkbox"/> 6 値動きに気をとられるのが嫌なため	<input type="checkbox"/> 17 どこで売っているのかわからないため
<input type="checkbox"/> 7 損をしそうで怖いため	<input type="checkbox"/> 18 購入するのに手間がかかるため
<input type="checkbox"/> 8 富裕層が実施するものなので	<input type="checkbox"/> 19 既に十分な資産があり、投資は必要ないため
<input type="checkbox"/> 9 まとまった資金がないため	<input type="checkbox"/> 20 なんとなく機会がなかったため
<input type="checkbox"/> 10 少額では購入しづらいため	<input type="checkbox"/> 21 そもそも興味がないため
<input type="checkbox"/> 11 手数料など費用が高いため	<input type="checkbox"/> 22 その他 具体的に： <input type="text"/>

添付資料：調査票

<Q26聴取対象：金融資産保有未経験者(Q1=2)および投資信託保有未経験者(Q2=3)>

Q27 あなたが、投資信託の購入を検討するきっかけとなりそうな項目を、全てお答えください。

(回答はいくつでも)

- 1** 身近な人（家族・友人など）に勧められたら
- 2** 金融機関の窓口などで、専門の知識を持つ人に教えてもらえたら
- 3** 初心者向けセミナーなど、仕組みをわかりやすく説明してもらえる機会があったら
- 4** 金融や投資を勉強して理解できたら
- 5** 貯蓄が一定額に達したら
- 6** 手取り収入が増えたら
- 7** 退職金・相続などでの臨時収入があったら
- 8** 低リスクの投資信託商品が充実してきたら
- 9** 手数料の低い投資信託商品が充実してきたら
- 10** 経済が上向きになり、値上がり期待できる様になったら
- 11** 税制上の優遇措置が、より拡充してきたら
- 12** その他 具体的に：

Q28 あなたの性別を教えてください。

(回答は1つ)

- 1** 男性
- 2** 女性

Q29 あなたの年齢をお答えください。

(回答は半角数字で入力)

才

添付資料：調査票

Q30 あなたの職業をお知らせください。

(回答は1つ)

- 1** 会社員・非営利団体職員
- 2** 会社役員・経営者
- 3** 派遣・契約社員
- 4** 公務員
- 5** 自由業（医師・弁護士など）
- 6** 農林漁業
- 7** 自営業（農林漁業を除く）
- 8** パート・アルバイト・フリーター
- 9** 専業主婦／主夫
- 10** 大学生、大学院生、専門学校生、短大生、予備校生
- 11** 無職、定年退職
- 12** その他の職業

Q31 あなたの世帯年収と、個人年収をお知らせください。

(回答は1つ)

	1 100万円未満	2 100～300万円未満	3 300～500万円未満	4 500～800万円未満	5 800～1,000万円未満	6 1,000～1,500万円未満	7 1,500万円以上	8 わからない・答えたくない
1 あなたの世帯年収	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2 あなたの個人年収	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>